

2022 履修ガイド

生活科学科
文科

この「履修ガイド」は、入学から卒業までの履修についての規定や卒業要件など学修を進めていくうえで指針となるべき事項を集約したものです。

履修計画や諸手続きについては、オリエンテーションで詳しく説明しますが、「履修ガイド」を機会あるごとに参照し、十分に活用してください。わからないことがある場合には、アカデミックアドバイザーに指導を受けたり、教務課に相談してください。

「履修ガイド」は入学時にのみ配付します。卒業するまで紛失しないようにしてください。

紛失した場合は、再配付しません。また、内容の一部が変更される場合にはオリエンテーション時の説明、追補録の配付または kyonet でお知らせいたします。

なお、各年度の授業内容については、kyonet 上の共立シラバスで確認してください。

2022履修ガイド

(生活科学科・文科)

I
履修要項

生活科学科

文科

短
期
大
学
開
放
期
目
録

II
全
学
科
共
通

III
諸
規
程
等

IV
伝
達
他

共立女子短期大学

目次

本学のおゆみ	4
本学の組織	6
建学の精神	7
校訓	7
共立女子大学・短期大学ビジョン (KWU ビジョン)	7
共立女子短期大学の人材養成目的	8
共立女子短期大学の3つのポリシー	8
教育課程 (カリキュラム) 編成の考え方	9
履修にあたって	9
カリキュラムマップ	10
カリキュラムツリー	10
履修系統図・科目ナンバリング	10
履修モデル	10

I. 履修要項

■教養教育科目

1. 教養教育の人材養成目的	11
2. 教養教育の目指すもの	11
3. 教養教育科目の全体の構成	11
4. 教養教育科目の履修上の注意点	12

■生活科学科

1. 生活科学科の人材養成目的	18
2. 生活科学科の教育目標	18
3. 生活科学科の3つのポリシー	18
4. 学科の概要	21
5. カリキュラムの全体像	22
6. 専門教育科目	23
7. 卒業の要件	26
8. 教育課程 (カリキュラム) および履修方法	27
9. 諸資格	33
10. カリキュラムマップ	35
11. カリキュラムツリー	44
12. 履修系統図	46
13. 履修モデル	48

■文科

1. 文科の人材養成目的	50
2. 文科の教育目標	50
3. 文科の3つのポリシー	50
4. 学科の概要	52
5. カリキュラムの全体像	53
6. 専門教育科目	53
7. 卒業の要件	55

8. 教育課程（カリキュラム）および履修方法……………	56
9. カリキュラムマップ……………	63
10. カリキュラムツリー ……………	70
11. 履修系統図 ……………	72
12. 履修モデル ……………	75
■短期大学開放科目……………	78

II. 全学科に共通する事項

1. 学籍について……………	80
2. 学生証……………	80
3. 学籍異動（休学・復学・退学・除籍・再入学・ 転学部・転学科・転専攻）……………	81
4. 学費……………	81
5. 単位および授業期間……………	83
6. 授業……………	84
7. 履修登録……………	87
8. 既修得単位の認定……………	89
9. 試験……………	90
10. 進級 ……………	94
11. 海外留学・研修 ……………	95
12. 全学共通副専攻制度 ……………	97
13. 科目等履修 ……………	98
14. 編入学 ……………	98
15. 履修に関するQ & A ……………	99

III. 諸規程等

1. 共立女子短期大学学則……………	101
2. 共立女子短期大学学位規程……………	112
3. 共立女子大学・共立女子短期大学学生懲戒規程……………	113

IV. 伝達 他……………	115
---------------	-----

本学のあゆみ

本学の歴史は、女子教育が黎明期を迎えたばかりの明治 19 年に「女子の社会的地位を高めるには、専門の職業を身につけ、自活の能力を得させなければならない」と、宮川保全、鳩山春子ら女子教育の先覚者 34 名が、共同で「共立女子職業学校」を創立した時にさかのぼる。「共立」という校名は、この共同の設立に由来する。

そこでは、専門の職業活動に必要な学術技能を教育することが中心となったが、同時に、女子が自立するために必要な教養を習得させることがめざされたのである。したがって、本学建学の精神は、女性の社会的地位向上のための、自活の能力の習得と自立した女性として必要な教養の習得であったといえる。やがてこの建学の精神から「誠実・勤勉・友愛」の三つの徳目が生まれ育ち、本学の伝統的精神のよりどころとなった。昭和 3 年、「共立女子専門学校」が設立されたが、そこでもこの建学の精神は受け継がれ、社会に多大な貢献をした。

第二次世界大戦の激動期を経て、日本は世界の平和と人類の福祉のため、文化国家建設に全力を注ぐことになった。教育面では学制改革が行なわれ、それを機に、本学においては、昭和 24 年、家庭生活についての実際的な専門的知識と社会人としての広い視野とをもつ人間の育成をめざして、「共立女子大学家政学部」を発足させた。さらに昭和 28 年には、文学と芸術の世界を広く深く理解できる人間の育成をめざして、大学に「文芸学部」を開設した。平成 2 年には、日本社会の国際化に対応し、豊かな国際感覚をもち、国際化した社会で積極的に活躍できる人間の育成をめざして、「国際文化学部」を八王子キャンパスに開設。平成 19 年度からは、家政学部に新たに「児童学科」を開設し「生活美術学科」を「建築・デザイン学科」とし、文芸学部は従来の文学と芸術を学ぶ特徴を生かしながらメディアという視点から「文芸学部文芸学科」を、国際文化学部は社会科学系の科目を充実させて「国際学部」として再編した。平成 25 年度には、短期大学看護学科の教育実績を踏まえ、「看護学部」を開設した。令和 2 年度には都心のキャンパスを舞台に、あらゆるフィールドでリーダーシップを発揮できる女性の育成を目指し、大学に「ビジネス学部」を開設した。

また短期大学は、昭和 25 年に「共立女子大学短期大学部家政科」を設置したことに始まり、昭和 28 年には実務的・実地的知識と教養とを身につけた人間の育成をめざして、短期大学部に「文科第一部」「文科第二部」を開設した。昭和 48 年、「共立女子大学短期大学部」は「共立女子短期大学」と改称され、短期大学としてのまとまりある教育・研究体制が整えられ、平成 16 年度の「看護学科」の開設、平成 19 年度の「文科第二部」の募集停止および「文科第一部」の「文科」への改称、大学看護学部の開設に伴う「看護学科」の廃止を経て、現在は「生活科学科」「文科」の 2 学科体制となっている。

大学院は、昭和 41 年に「文芸学研究科」（修士課程）を、55 年に「家政学研究科」（修士課程）を、さらに平成 6 年に「比較文化研究科」（修士課程）を設置し、また同年には「家政学研究科」に博士後期課程として「人間生活学専攻」を設置した。平成 23 年からは、家政学研究科（博士前期課程）に「建築・デザイン専攻」と「児童学専攻」を新たに設置し、「比較文化研究科」を募集停止し「国際学研究科」を設置した。平成 27 年には、「文芸学研究科」において、「日本文学専攻」「英文学専攻」「演劇学専攻」の学生募集を停止して新たに「文芸学専攻」を設置した。さらに、平成 29 年に「看護学研究科」（修士課程）を設置した。これら大学院は、高度の学術研究・教育機関として、ますます充実することを目指している。

本学では、昭和 54 年に都心に位置する神田一ツ橋キャンパスから、さらなる教育環境の充実を図るため、八王子に新キャンパスを設けた。八王子キャンパスは、長年にわたって本学の教育拠点のひとつであったが、かねてより大学・短期大学将来構想委員会では、教育機能の一層の充実をめざして、神田一ツ橋キャンパスを中心とした集中型教育の導入を検討、教育内容および教育方法の改革を含めた環境整備を行い、平成 18 年度より神田一ツ橋キャンパスへの集中化の実施に取り組み、平成 19 年度より大学・短期大学の授業が神田一ツ橋キャンパスで実施されることにより、学部・学科の枠を超え、教養教育の全学共通化を実現することとなった。

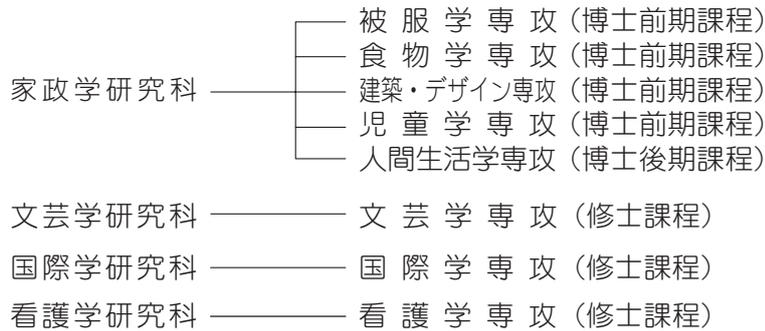
いまや我々をとりまく社会の高度技術化、国際化、情報化等の進歩はめざましいものがあり、卒業生には社会の各分野で主導的・積極的に活躍する場が開かれている。

社会の求める高度な能力とともに、本学の建学の精神にもとづいた、豊かな人間性を備え、確かな価値観を身に付けた女性を世に送り出すことが本学のめざす目標であり、本学の教育の方針である。

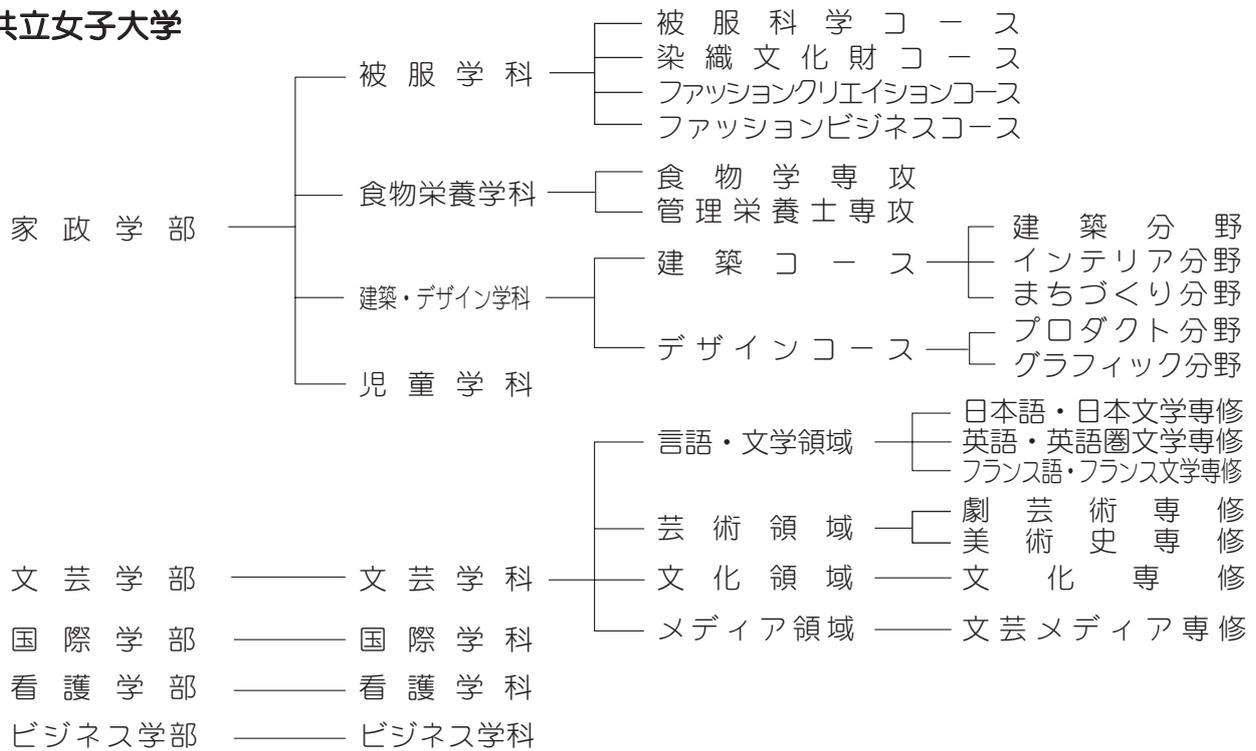
年 月 日	事 項
明治19. 3.22	共立女子職業学校創立
大正14. 4. 1	共立女子職業学校専門学部設置
昭和 3.10. 1	共立女子専門学校設立
昭和25. 4. 1	共立女子大学短期大学部家政科設置
昭和26. 4. 1	被服別科設置
昭和28. 4. 1	文科第一部・第二部国語専攻、英語専攻設置
昭和35. 4. 1	定員変更 家政科（100名→200名） 文科第一部国語専攻（50名→100名） 英語専攻（50名→100名）
昭和40. 4. 1	被服別科を別科（被服専修）と改称
昭和48. 4. 1	短期大学部を共立女子短期大学に名称変更
昭和53. 4. 1	定員変更 文科第二部国語専攻（50名→100名） 英語専攻（50名→100名）
昭和59. 4. 1	別科（被服専修）を別科（家政専修）と改称
平成元 . 4. 1	家政科を生活科学科と改称
平成 2. 4. 1	別科（家政専修）を別科（生活科学専修）と改称
平成 3. 4. 1	臨時定員増 生活科学科（200名→280名） 文科第一部国語専攻（100名→150名） 英語専攻（100名→150名） 文科第二部国語専攻（100名→170名） 英語専攻（100名→170名）
平成 6. 4. 1	文科第一部・第二部国語専攻を日本語・日本文学専攻、英語専攻を英語・英米文学専攻と改称
平成12. 4. 1	定員変更 生活科学科（200名→240名） 文科第一部日本語・日本文学専攻（100名→125名） 文科第一部英語・英米文学専攻（100名→125名） 文科第二部日本語・日本文学専攻（170名→100名） 文科第二部英語・英米文学専攻（170名→100名）
平成16. 4. 1	共立女子短期大学看護学科設置 定員変更 生活科学科（240名→170名） 文科第一部日本語・日本文学専攻（125名→80名） 文科第一部英語・英米文学専攻（125名→90名）
平成18. 3.31	別科（生活科学専修）を廃止
平成19. 4. 1	文科第二部の募集を停止 文科第一部日本語・日本文学専攻及び英語・英米文学専攻を文科（170名）と改称
平成20. 3.31	文科第二部を廃止
平成25. 4. 1	看護学科の募集を停止
平成27. 4. 1	定員変更 生活科学科（170名→100名） 文科（170名→100名）
平成28. 3.31	看護学科を廃止

本学の組織

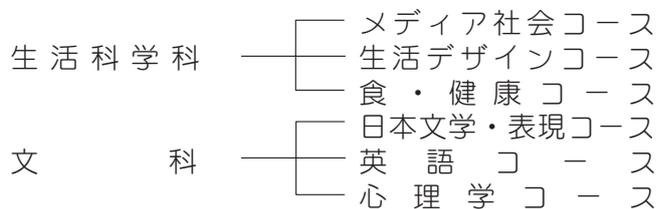
共立女子大学大学院



共立女子大学



共立女子短期大学



全学教育推進機構

- 図書館
- 博物館
- 総合文化研究所

建学の精神に基づき、社会の求める高度な能力とともに、豊かな人間性を備え、確かな価値観を身に付けた女性を世に送り出すことが本学のめざすところであり、教育の方針です。

建学以降、受け継がれるこの精神から、「誠実・勤勉・友愛」の校訓が生まれ、本学の伝統的精神のよりどころとなっています。

校訓を自らのものとし常に身に備え、具体的にはKWUビジョンに基づき、社会で自立した女性として活躍する日をめざしてください。

建学の精神

「女性の自立と自活」

女性の社会的地位向上のために、「自活の能力」と「自立した女性として必要な教養」の習得をめざす

校 訓

『誠実』 他者を理解し自己を律し、自ら社会秩序を作り出すこと

『勤勉』 自ら進んで課題に取り組み、他者と共同して努力すること

『友愛』 他者を思いやり、ともに成長し生きていくこと

共立女子大学・短期大学ビジョン（KWU ビジョン）

①『自律と努力』 自己を確立し、生涯努力し続ける

「自己を確立し、生涯努力し続ける」ことを「自律と努力」として表現している。このビジョンは、精神的自立を念頭に置いている。精神的自立は、全ての自立の基礎をなす概念である。

「自己を確立し、生涯努力し続ける」ということは、自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき、夢と自信を持つこと、自らを律しつつ、他者と共に生きるために主体的に判断し、生涯努力し続けること、自己を見つめ、他者との関係を築き、夢と自信を持ち、全力で努力し続けることを意味する。

②『創造とキャリア』 新たな価値を創造し、社会を生き抜く

「新たな価値を創造し、社会を生き抜く」ことを「創造とキャリア」として表現している。このビジョンは、職業的自立（職業能力の育成）を念頭に置いている。本学の創設は、女性が職業能力を持つ必要性を痛感し、職業による女性の自立を支援することを目的としており、職業的自立（職業能力の育成）は、本学の最重要事項に位置づけられるものである。

「新たな価値を創造し、社会を生き抜く」ということは、常に見聞を深め、様々な側面から物事を思考・判断・表現し、主体的にキャリアを形成すること、主体的な学びによって得た学修成果により、将来の進路を自分らしく切り拓くこと、教養と専門性を備え、応用力により新たな価値を創造し、社会を生き抜く力を持つことを意味する。

③『協働とリーダーシップ』 他者と協働し、リーダーシップを発揮する

「他者と協働し、リーダーシップを発揮する」ことを「協働とリーダーシップ」として表現している。このビジョンは、社会的自立を念頭に置いている。多様な人々と協働し、社会的使命を果たすために、共同設立によって本学が創設された経緯は、まさに社会的自立を体現したものと言える。

「他者と協働し、リーダーシップを発揮する」ということは、自らの価値観と多様な価値観のあいだに和をもた

らし、能動的に協力・協働すること、アクティブラーニングによる学修経験を通じて、他者と協働し、様々な課題解決を行なうこと、協働力やコミュニケーション能力を身につけ、社会の発展のためにリーダーシップを発揮することを意味する。

共立女子短期大学の人材養成目的

本短期大学は、学生の主体的な学びを育み、専門の学芸を教授し、職業または实际生活に必要な能力と幅広く深い教養および総合的な判断力を培うとともに、誠実で豊かな人間性を涵養し、社会に広く貢献する自立した女性を育成することを目的とする。

共立女子短期大学の3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】

共立女子短期大学は、建学の精神「女性の自立と自活」を基本理念に、各科の課程を修め、62単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

- 社会に広く貢献する自立した女性として求められる、幅広い教養と専攻分野における知識・能力を身に付けている。（知識・理解）
- 職業または实际生活に必要な能力を身に付けている。（技能）
- 実社会における諸課題について対処すべき総合的な判断力を身に付けている。（思考・判断・表現）
- 専門の学芸を教授研究するなかで主体的な学びを育み、誠実で豊かな人間性を身に付けている。（関心・意欲・態度）

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）】

共立女子短期大学は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などを学生に確実に身に付けさせるために必要な授業科目を配置し、順次性に配慮し体系的かつ効果的に編成する。教育課程の編成及び授業実施にあたっての、教育内容、教育方法、学修成果の評価のあり方についての方針を次の通り定める。

＜教育内容＞

- 教養教育科目は、専攻分野にかかわらず社会に広く貢献する自立した女性として共通に求められる基本的な能力を育成するとともに、専攻分野の枠を超えた幅広い教養を身に付けるように編成する。
- 専門教育科目は、当該専門分野ごとに要求される専門性の深さを勘案しつつ、基礎・基本を重視した幅広い教育を行い、専門の骨格を正確に身に付けるようにするとともに、職業または实际生活に必要な能力を育成するように編成する。
- 短期大学における学修・生活に適應するための基本的な能力を育成する教育内容を組み込む。
- 社会での自立と自活に向けて必要な、基盤となる能力や態度を育てることを通して、自らの役割の価値や生き方を見出していくための教育内容を組み込む。

＜教育方法＞

- 教育内容の実施にあたっては、その内容に相応しい適切な授業形態を用いる。必要に応じてアクティブラーニングの手法を適切に取り入れる。
- 授業開始後の学修の指針として機能する適切なシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。

＜学修成果の評価＞

- 各授業科目の到達目標に応じて、求める到達水準を明確化して、その到達状況を適切に評価する。
- 各授業科目の学修成果の最終的な評価は試験により行う。また、授業科目の内容に応じて、日常的な課題、小テスト、レポート、意欲・態度等を適切に評価する。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

共立女子短期大学は、ディプロマ・ポリシーに定める人材を育成するため、高等学校等における学修・経験を通じて、基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付け、自ら課題を発見し、その課題に向き合い探求しようとする意欲ある者を受け入れる。なお、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。このような学生を適正に選抜するために、各科において多様な選抜方法を適切に実施する。

- 高等学校の教育課程を幅広く修得している。（知識・技能）
- 高等学校までの履修内容のうち、各学部・学科の専門分野の修学に必要な基本的な知識・技能を身に付けている。（知識・技能）
- 身近な社会問題について、これまで身に付けた知識・技能を基に論理的に考え、他者へ客観的に説明することができる。（思考力・判断力・表現力）
- 希望する学部・学科の専門性を修得し、他者と協調・協働して社会に貢献したいという目的意識・意欲を有している。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
- 課題を課された際に、主体的に探求し、最後まで取り組むことができる態度を有している。（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

教育課程（カリキュラム）編成の考え方

本学では、教育課程（カリキュラム）の体系化と構造化、学生の主体的な学修を促すアクティブ・ラーニングの積極的な導入、学修成果を可視化する様々な取り組み等を念頭にして、教育課程（カリキュラム）を編成しています。

そのため、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の策定にあたっては、「教育内容」、「教育方法」、「学修成果の評価」の3項目に分けて具体的な内容を記載し、特に教育内容の項目については、教養教育、専門教育と書き分ける中で、初年次教育、キャリア教育、専門教育の段階的学修の観点を具体的に記載し、多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるようにしています。

履修にあたって

それぞれの学科の教育課程（カリキュラム）は、必修科目、選択必修科目および選択科目に区分されています。選択必修科目および選択科目の中には、学科によっては履修することを推奨する科目を設けています。推奨科目は、必ず履修しなくてはならない科目ではありません。

自身の卒業後のキャリアをイメージしながら、各学科が示す「カリキュラムマップ」「カリキュラムツリー」、「履修系統図」、「科目ナンバリング」、「履修モデル」を確認し、必要に応じて、教員から履修指導を受けながら、履修する授業科目を決定してください。

カリキュラムマップ

各学科では、3つのポリシーの一体性、整合性、妥当性を担保する意味とディプロマ・ポリシー達成の観点から、個々の授業科目とディプロマ・ポリシーの関係を示した「カリキュラムマップ」を作成しています。個々の科目には、「学生は～することができる。～を有する。」といった、学生を主体に記述した到達目標があり、各授業科目の到達目標とディプロマ・ポリシーとの関連性が高い順から「◎」→「○」と付して、必要な科目が過不足なく設定されているかを明らかにしています。

カリキュラムマップに記載されている各科目の「到達目標」と、シラバスに記載されている「到達目標（成績評価A）」は同一の内容であり、学生は、この「到達目標」に記載されている内容を身に付けることを目指して授業を受けることとなります。どの科目でどのような能力を身に付けることになるのか、確認するようにしてください。

カリキュラムツリー

カリキュラムマップを基に、学修内容の順次性と授業科目間の関連性を図で示し、カリキュラムの体系性、授業科目間のつながり、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの一体性・整合性・妥当性が一望できる「カリキュラムツリー」を作成しています。

履修系統図・科目ナンバリング

履修系統図とは、単に配当年次を示している表ではなく、学生が教育課程の体系が容易に理解できるように、教育課程の構造を分かりやすく明示しています。科目区分間、授業科目間の関係性や履修順序を示しています。

また、履修の順次性をより分かりやすく示すために授業科目ごとに「ナンバリング」をしています。これは授業科目の学修段階や順次性をアルファベットと数字で表し、教育課程の体系性を明らかにしています。

履修モデル

履修モデルとは、学生が卒業後の将来をイメージしながら学んでいくために、どのような授業科目を履修すればよいかを明示しています。

学生の履修指導にあたっては、学生が将来を描き、目標を認識してそれに向けて体系的に学修することが可能となるように、履修モデルを示しながら、学生の希望を尊重し学修能力・学修上の諸課題・卒業後の進路等を十分考慮して行います。

I 履修要項

■ 教養教育科目

1. 教養教育の人材養成目的

教養教育の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子大学・共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加して責任ある役割を果たすために必要な、基本的な知識や技能、幅広く深い教養、総合的な判断力、そして豊かな人間性を有する女性を育成する」ことである。

2. 教養教育の目指すもの

一般に大学で勉強するということは、より専門性の高い学問に取り組むということを意味しています。学部・学科・コースなどの区別があって、それぞれの分野を個別、専門的に学ぶ道筋が用意されているのはそのためです。専門分野を深く探求すること、これが大学における勉学の最も基本的な姿だといっていでしょう。

その一方で、複雑化した現代社会にあって、錯綜する諸課題に的確に対応するためには、深い知識と同時に、広い視野と柔軟な思考力が求められます。本学において、学部・学科ごとの専門教育科目と並んで教養教育科目が置かれているのも、そうした社会の求めに応えて、幅広い教養と豊かな人間性に裏打ちされた総合的判断力を身につけた人材を育てるために他なりません。

本学の教養教育は、学部・学科の枠を超えて、本学に学ぶすべての学生諸君を対象に編成されています。当然のことながら実に様々な目的・目標を持った授業科目が展開されています。みなさんはその中から自分で履修する科目を選び、履修計画を立てなければならないのですが、最初はその多様さに戸惑うかもしれません。以下に教養教育科目全体の構成とそれぞれの目的・目標を大まかにまとめましたので、履修計画を組立てる際の参考にしてください。

3. 教養教育科目の全体の構成

教養教育科目は、以下の3つのコア科目群から構成されています。

(1) 自律と努力コア科目群

- ・自己を確立し、生涯学び続けるための基礎的な力を養う科目群です。
- ・「自己を肯定的に理解する力」「主体的に学ぶ力」「他者との関係を築く力」を養成します。

(2) 創造とキャリアコア科目群

- ・新たな価値を創造し、社会を生き抜くための基礎的な力を養う科目群です。
- ・「様々な側面から物事を思考・判断・表現するための幅広い知識と技能」「応用力により新たな価値を創造する力」「自らのライフプランやキャリアプランを創造する力」を養成します。

(3) 協働とリーダーシップコア科目群

- ・他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な能力を養う科目群です。
- ・「協働力・コミュニケーション力」「協力・協働して社会に貢献するためのリーダーシップ」「他者との協働による課題解決能力」を養成します。

4. 教養教育科目の履修上の注意点

(1) 自律と努力コア

①基礎ゼミナール

- ・1年次の前期に開講される、全員必修の演習形式の科目です。
- ・科別に30名程度のクラスを設け、各学科の専任教員が担当します。
- ・具体的な達成目標としては、次のような事があげられます。
 - 1) 大学における「学修」の意味を理解し、大学生として、そして共立生として知っておくべきこと、自覚しておくべきことなど、学生生活に関する心構えやルールについて学び、ルールに基づいて行動できるようになる。
 - 2) 自らのキャリアを見据え、有意義で創造的な大学生活を送るための学修計画を自ら立てられるようになる。
 - 3) 図書館や学内システムの利用方法、演習、実験を行うための基礎的知識など、大学で学ぶための基本的な学修技法を身に付け、活用できるようになる。

②論理的思考・文章表現

- ・大学教育の基盤となる論理的思考力・文章表現力の育成を目的とする科目です。
- ・この科目は、1年次前期に開講され、全員に強く履修を推奨する科目です。
- ・入学時のプレースメントテストにより、履修登録が予め行われますが、テストの成績上位1/3の学生は履修が免除されます（単位の認定はありません）。

③ライフプランと自己実現

- ・基礎ゼミナールで描いたライフプランやキャリアプランをベースにして学修します。将来社会に出て生活していくために、自分の生き方について考える科目です。

④課題解決ワークショップ

- ・1年次に開講されます。
- ・グループでの課題解決型学修を通して、グループワークに必要な基本的なコミュニケーション能力、口頭による発表（プレゼンテーション）や討論の能力を身に付ける科目です。

(2) 創造とキャリアコア

①情報リテラシー

- 1) 「データサイエンスとICTの基礎」「情報処理」
 - ・「データサイエンスとICTの基礎」は、理論を学修する講義科目で、「情報処理」は演習科目です。学科によって必修となっているので、該当学科の学生は自身で履修登録を行ってください。

2) 「情報の分析と活用 A」「情報の分析と活用 B」

- ・「情報の分析と活用 A」「情報の分析と活用 B」は、統計学の基礎と人文・社会科学、自然科学への適用方法、統計結果の見方について理論的に学修し、アンケート調査等により得られた情報の特性に対応した統計処理の手法、結果の配信方法などを具体的な課題への取り組みを通して身に付けます。

3) 情報技能検定試験等の結果による単位認定について

● 「情報処理」の単位認定条件

以下のいずれかの資格・検定を取得

* IC3 (GS5 と GS4 どちらのバージョンでも可) の「キー アプリケーションズ」科目

* 情報検定 (J 検) 情報活用試験 3 級 + 2 級

* 日商 PC 検定 文書作成 3 級 + データ活用 3 級 + プレゼン資料作成 3 級

* 以下の A 群・B 群・C 群それぞれから 1 以上、合わせて 3 以上の資格・検定

A 群

- ・全商情報処理検定 2 級ビジネス情報部門
- ・全商情報処理検定 1 級ビジネス情報部門
- ・MOS Excel エキスパート
- ・日商 PC 検定 データ活用 2 級
- ・日商 PC 検定 データ活用 1 級

B 群

- ・MOS Word スペシャリスト
- ・MOS Word エキスパート
- ・日商 PC 検定 文書作成 3 級
- ・日商 PC 検定 文書作成 2 級
- ・日商 PC 検定 文書作成 1 級

C 群

- ・MOS PowerPoint
- ・日商 PC 検定 プレゼン資料作成 3 級
- ・日商 PC 検定 プレゼン資料作成 2 級
- ・日商 PC 検定 プレゼン資料作成 1 級

備考: MOS の「バージョン」はいずれでも可。

②英語

1) 「英語 A」「英語 B」

- ・「英語 A」は Listening&Speaking を、「英語 B」は Reading&Writing を学びます。
- ・「英語 A」は外国人教員が担当し、「英語 B」は日本人教員が担当します。
- ・いずれも 1 年間で完結する通年科目です。
- ・入学時に実施されるプレイスメントテストによりレベルが決定されます。

2) 英語技能検定試験等の結果による単位認定について

- ・履修開始前または履修中に本人からの申請があった場合、審査のうえ単位を認定します。評価は「S」になります。教務課備え付けの申請用紙に記入し、提出してください。詳細は教務課までお問い合わせください。

【条件】

- ・プレイスメントテストで 620 点以上のスコアを取得した学生で、英語技能検定試験等の結果が次の①～④のいずれかに該当した場合、「英語 A」及び「英語 B」の単位を認定します（履修中も認定）。
 - ① TOEIC 700 点以上を取得
 - ② TOEFL 68 点 (iBT) 以上を取得
 - ③ 実用英語技能検定準一級を取得
 - ④ IELTS 5.5 以上

3) 「アドバンスト英語 A (ビジネス口頭表現)」「アドバンスト英語 B (ビジネス文章表現)」「アドバンスト英語 C (TOEIC)」

- ・「英語 A」「英語 B」で学んだことをベースに、2 年次以上で履修する科目で、1 年間で完結する通年科目です。効果的な学修のために、以下のような前提条件があります。

科目名	履修条件	備考
アドバンスト英語 A (ビジネス口頭表現)	英語 A を修得済みであること	
アドバンスト英語 B (ビジネス文章表現)	英語 B を修得済みであること	卒業期の学生は、英語 B との同時履修可
アドバンスト英語 C (TOEIC)	英語 A を修得済みであること	卒業期の学生は、英語 A との同時履修可

※アドバンスト英語 C (TOEIC) は、クラスごとに到達目標が定められています。

③初習外国語

1) 「フランス語」「中国語」「ドイツ語」

- ・それぞれ、履修の段階に応じてⅠ（入門）→Ⅱ（表現）→応用（総合）と進みます。
- ・「Ⅰ（入門）」と「Ⅱ（表現）」は1年次から履修することができ、週2回の授業を受け、半期で完結します。
- ・「応用（総合）」は2年次から履修することができ、週1回の授業を受け、1年間で完結します。履修条件は以下の通りです。

科目名	履修条件	備考
フランス語Ⅱ（表現） 中国語Ⅱ（表現） ドイツ語Ⅱ（表現）	Ⅰ（入門）を修得済みであること。	Ⅰ（入門）を履修登録すると、後期の同曜日・時限にⅡ（表現）が自動で履修登録されます。Ⅰ（入門）と別曜日・別時限の（表現）を履修することはできません。
応用フランス語（総合） 応用中国語（総合） 応用ドイツ語（総合）	Ⅰ（入門）を修得済みであること。 Ⅱ（表現）を修得済みまたは履修中であること	以下の応用〇〇語の履修パターンも参照してください。Ⅱ（表現）と同時履修の場合、Ⅱ（表現）が修得できなかった場合は、左記科目の履修は削除されます。

【応用〇〇語】については、以下のパターンが履修条件になります。
履修条件パターン以外で履修した場合は、削除されますので注意してください。

1年次		2年次	
前期	後期	前期	後期
入門	表現	応用（総合）	
入門	（入門）	表現	応用（総合）

- ・中国語Ⅰには「特別クラス」が設けられています。教養教育科目を履修した後も、さらに学び続けたいと考える学生を対象としたクラスです。詳細はシラバスを確認しましょう。
- ・2年次に初習外国語を履修する人は、前期（入門）→後期（表現）の順で履修してください。クラスは履修できるところを選択してください。（表現）の自動登録はされませんので、自分で同一のクラスを登録してください。
- ・フランス語Ⅰ、中国語Ⅰ、ドイツ語Ⅰは、（入門）のみを履修する人のために、後期にも（入門）クラスが開講されます。（入門）のみを履修する人は、後期開講の（入門）をお勧めします。
- ・前期の（入門）を履修登録後、後期に登録された（表現）の履修を取り消したい場合は、教務課で手続きをとって下さい。

2) 外国語技能検定試験等の結果による単位認定について

- ・下記のいずれかに該当し、履修開始前または履修中に本人からの申請があった場合、審査のうえ単位を認定します。評価は「S」になります。教務課備え付けの申請用紙に記入し、提出してください。詳細は教務課までお問い合わせください。

外国語技能検定試験等		単位認定を行う科目
実用フランス語技能検定試験	3級	フランス語Ⅰ（入門） フランス語Ⅱ（表現）
	準2級	フランス語Ⅰ（入門） フランス語Ⅱ（表現） 応用フランス語（総合）
DELF	A1	フランス語Ⅰ（入門） フランス語Ⅱ（表現）
	A2	フランス語Ⅰ（入門） フランス語Ⅱ（表現） 応用フランス語（総合）
中国語検定	3級	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅱ（表現）
	2級	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅱ（表現） 応用中国語（総合）
HSK	4級	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅱ（表現）
	※5級：180点以上 ※6級：180点以上	中国語Ⅰ（入門） 中国語Ⅱ（表現） 応用中国語（総合）
ドイツ語検定	3級	ドイツ語Ⅰ（入門） ドイツ語Ⅱ（表現）
	2級	ドイツ語Ⅰ（入門） ドイツ語Ⅱ（表現） 応用ドイツ語（総合）

※ HSKについては、2012年以前（旧制度）において、5級もしくは6級を合格した者については、審査対象者とみなす。

3) 「スペイン語」「コリア語」

- ・「入門」「表現」のクラスを開講していますが、履修の順序に制限はなく、同時履修や「表現」のみの履修も可能です。

④人間を理解するための教養・社会を理解するための教養・自然を理解するための教養

- ・人文、社会、自然の幅広い領域に関する多様な科目が開設されています。全ての科目は半期で完結します。科目の内容（同一科目で複数クラス開講される場合はクラスごと）を共立シラバスで十分確認してから履修する科目を決めてください。
- ・「自己開発」は、学生が自らの意志において、自己開発、自己啓発のために積極的に起こした活動（海外研修、インターンシップなど）を評価し、単位を認定するものです。実際の単位認定に関しては、単位認定の対象となる活動が終了してから、所定の時期に、「活動報告書」「単位認定願」等を教務課に提出してください。授業担当者及び全学共通教育委員会が内容を審査し、承認されれば単位認定されます。評価は「P」になります。詳しくは、共立シラバスをご覧ください。

⑤身体と健康を管理するための教養

1) 「健康スポーツ実習 A」

- ・ 基礎的な運動技術や知識の習得を図り、日常生活に必要な体力と健康に関する運動の必要性及び役割を学びます。活動を通してコミュニケーション能力の向上を図り、人間関係力を高めます。生涯にわたって運動に親しむ態度を身につけます。

2) 「健康スポーツ実習 B」

- ・ 自分に適した運動やスポーツの文化的・社会的背景をより深く理解し、多様な運動技術や体力の向上を目指した活動を行います。

⑥キャリアを創造するための教養

- ・ 「自律と努力コア」科目で身に付けた知識や技能、他者との関係の中で一定の役割を果たしていく力を基盤にした、自らのキャリアや現代における「女性の自立」の理解を目標とした科目群です。

(3) 協働とリーダーシップコア**①現代社会の諸課題の解決**

- ・ 「自律と努力コア」で身に付けた学修技法と「創造とキャリアコア」で身に付けた知識を活用して、現代社会における諸課題に関する課題解決を学ぶ授業です。

②課題解決実践演習（教養総合ワークショップ A・B）

- ・ 課題を設定し、それに対する課題解決を学生自身が考えることによって、実践的な課題解決力を身に付けるアクティブラーニング型の科目です。

③リーダーシップ開発（ワークショップファシリテーション）

- ・ 「現代社会の諸課題の解決」や「課題解決実践演習」の単位を修得し、そこで身に付けた能力を基盤に、課題解決型授業のラーニングアシスタント（LA）として授業運営に関わる学生が履修する科目です。（LAとして活動するためには、通算 GPA の基準（詳細はシラバスを要確認）、授業担当教員による選考通過等の条件を満たす必要があります。）

■ 生活科学科

1. 生活科学科の人材養成目的

生活科学科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「学生自身の積極的な学修意欲を引き出し、社会において自立した人間として活躍するために、生活に関する実践的な知識・技能を身につけ、家庭および社会において、生活者としてそれらを活用する能力を養い、豊かな教養に基づき、思いやりのある誠実で協調性に富んだ女性を育成する」ことである。

2. 生活科学科の教育目標

1. 生活科学に関する専門知識や実践的スキルを身につけ、企業や地域社会で活躍できる女性を育成する。
2. 幅広い教養とコミュニケーション力や問題を発見し解決策を提案する力を身につけ、現代社会をよりよく生きていくことのできる女性を育成する。
3. 生涯にわたり自ら学び・探究し続けることのできる主体的な学びを育み、自律した女性を育成する。
4. きめ細やかな教育を通して学生一人一人の個性を伸ばし、豊かな人間性や社会性を育み、社会に貢献できる女性を育成する。
5. 思いやりのある誠実で協調性に富んだ人間性を身につけ、リーダーシップを発揮できる女性を育成する。

3. 生活科学科の3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】

生活科学科は、本科の課程を修め、62単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

- (1) 社会に広く貢献する自立した女性として求められる幅広い教養と、生活科学に関するメディア、デザイン、食、情報、環境等の分野における知識・能力を身に付けている。（知識・理解）
- (2) 家庭および社会において、生活者として知識を活用するために必要な、メディア、デザイン、食、情報、環境、コミュニケーション等に関する能力を身に付けている。（技能）
- (3) 実社会における諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を身に付けている。（思考・判断・表現）
- (4) 積極的な学修意欲を持ち、思いやりのある誠実で協調性に富んだ人間性を身に付けている。（関心・意欲・態度）

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）】

生活科学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などを学生に修得させるために必要な授業科目を配置し、順次性に配慮し体系的かつ効果的に教育課程を編成する。

教育課程編成及び授業実施にあたっての、教育内容、教育方法、学修成果の評価の在り方についての方針を次の通り定める。

〈教育内容〉

【教養教育科目】

- ・自己を確立し、生涯学び続けるための基礎的な力を育成する。
- ・大学生活・社会生活を送る上で身に付けておくべき基本的な表現力、情報活用能力および健康な日常生活を

送るための知識・技能を育成する。

- ・専攻分野の枠を超えて共通に求められる知識と技能の伝達により、知的好奇心を喚起し、豊かな人間性や柔軟な思考を育成する。
- ・新たな価値を創造し、社会を生き抜くための基礎的な力を育成する。
- ・現代社会における諸課題に自らの使命・役割・責任を関連付け、適切に対処できる知識と能力を育成する。
- ・他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な能力を育成する。
- ・専攻する学問の理解を助け、関連する諸分野への幅広い視点を獲得するための知識・技能を育成する。

【専門教育科目】

- (1) 生活科学の専門教育科目を学修するにあたって、メディア社会コース、生活デザインコース、食・健康コースの3つのコースに沿って、体系的、順次性を踏まえて科目を配置する。
- (2) 生活科学の学問分野の基礎的な知識・技能を修得する『生活科学基礎系科目』、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を促す『キャリア支援系科目』、課題に基づいて学生が主体的に研究・制作に取り組む『特別演習系科目』をコース共通科目として配置する。
- (3) メディア社会コースでは、メディアについての社会状況を理解する「①メディア社会」、情報処理や情報活用能力、企画・プレゼンテーション能力を養う「②メディアデザイン」、メディアが生活者の行動・心理に及ぼす影響を理解する「③メディア心理」の3分野の科目を体系的に配置する。
- (4) 生活デザインコースでは、生活に必要な道具や製品を対象に、形、大きさ、色彩などの要素について学び、デザインする能力を身に付ける「①プロダクトデザイン」、衣服やその装い方を対象に、アパレルの制作からマーケティング、企画などの実践応用力を養う「②ファッションデザイン」、住居や住空間を対象に、知識やその原理に加えて、設計、製図、インテリアCADなど初歩から高度な応用までを学び、提案する能力の修得を目指す「③インテリアデザイン」の3分野の科目を体系的に配置する。
- (5) 食・健康コースでは、調理の理論と実践や食品の魅力的な伝達手法など、食をデザインするために必要な知識・技能を養う「①食デザイン」、栄養と健康の関係といった健康づくりの基礎的素養、健康に関する問題発見から解決手法を養う「②健康マネジメント」、フードスペシャリスト資格取得に必要な知識やフードコーディネートの表現手段を身に付ける「③フードスペシャリスト」の3分野の科目を体系的に配置する。
- (6) 上記の3つのコースの科目を一定の範囲内で横断的に履修し、幅広い知識と教養を育成する。
- (7) 生活科学科と文科のカリキュラムの枠を超えた「短期大学開放科目」を配置し、学生の主体的な学びを促し、関心のある領域の問題意識を深め、考察力を育成する。

＜教育方法＞

- (1) 教育内容の実施にあたっては、その内容に相応しい適切な授業形態を用い、必要に応じてアクティブ・ラーニングの手法を適切に取り入れる。
- (2) 授業開始後の学修の指針として機能する適切なシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。
- (3) シラバスにおいて、事前・事後の学修内容、目安の学修時間を提示し、事前・事後学修を担保する。
- (4) レポート等の課題を出す時期と課題の整合性をはかり、期中にフィードバックを行う。
- (5) 思考力、判断力、表現力を養うとともに、他者を理解し他者と協力する態度を身に付けるためにグループディスカッションやグループワークを取り入れる。
- (6) 学修効果を高めるため、少人数授業を取り入れ、担任教員や助手による個別指導を取り入れる。
- (7) 社会の仕組みの理解、社会人基礎力を身に付けるため、学外施設等を活用した授業や外部講師を招聘した特別講義を実施する。

《学習成果の評価》

- (1) 各授業科目の到達目標に応じて、求める到達水準を明確化して、その到達状況を適切に評価する。
- (2) 各授業科目の学修成果の最終的な評価は試験により行う。また、授業科目の内容に応じて、日常的な課題、小テスト、レポート、意欲・態度等を適切に評価する。
- (3) 1 年次において、年度初めのプレースメントテストと年度末の学年末アチーブメントテストを実施することにより、英語の語学力向上を定量的に評価する。
- (4) 1 年次から 2 年次に進級するためには、卒業に必要な 62 単位のうち 20 単位以上を修得していることを条件とする。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

生活科学科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

- (1) 生活科学の各分野について学ぶために必要な高等学校卒業相当の知識を有し、且つ入学後の修学に必要な技能を有している。(知識・技能)
- (2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語」「外国語」を通して聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎的な知識・技能を、「数学」「理科」を通じて科学的思考力の基礎的な知識・技能を、さらに「地理歴史」「公民」を通して生活や社会の構造を理解するための基礎的な知識・技能を身に付けている。(知識・技能)
- (3) 自らの考えや感じたことを表現する基本的な能力を有している。(思考力・判断力・表現力)
- (4) 生活科学の学びの中で発見する諸課題について、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を有している。(思考力・判断力・表現力)
- (5) 生活科学の各分野で実験・実習や演習等を通じて専門的な技能を深めていく意欲を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- (6) 生活科学の領域に強い関心を持ち、自主的に学ぼうとする意欲と誠実に探究していく態度を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- (7) 将来にわたって生活にかかわる諸課題を、主体的な情報収集と他者との対話を通して探求する意欲を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

4. 学科の概要

生活科学とは

生活科学は、安全で安心な豊かな生活を科学的に追究する新しい学問です。「生活」とは、人間にとってもっとも基本的な「生き方」ということです。「人はどう生きるか」、「どんな人生を送るか」ということです。これを科学的に研究するのが生活科学です。

生活科学の研究は、従来の衣・食・住からのアプローチはもちろん、家族・社会・健康・情報・環境といった「生活」と関わるすべてのテーマが研究対象になる幅広い学問です。

生活科学科の構成

生活科学科は、「メディア社会コース」「生活デザインコース」「食・健康コース」の3つの専門コースに分かれています。「メディア社会コース」では、ソーシャルメディアをはじめとする多様なメディアを活用する能力を養います。「生活デザインコース」では、デザインを通じてより豊かな生活を創造し、生活や社会で役立てる方法を学びます。「食・健康コース」では、私たちの生活を支える食事や健康についての知識や方法を習得します。

これら3コースは、どれも生活科学という共通基盤の上に成立しているという特徴を持っています。そこで、生活科学科に関するさまざまな分野を広く学ぶためにコースを超えて授業を受けることができる制度を整え、また、深く学ぶために卒業ゼミナールや各種の資格取得を支援する科目を備えています。

生活科学科の教育課程

生活科学科では、人材養成目的にかかげてあるように、「積極的な学習意識に基づき、豊かな教養と生活に関する実践的な知識・技能を身につけ、それらを活用できる能力を持った女性の育成」を実現するため、次のようにカリキュラムを組み立てています。

1. 専門分野の枠を超えて幅広い教養を身につけ、大学で学ぶことの意味を理解するため、全学共通で行われる教養教育科目が設置されています。中でも「大学での学び」を支援する初年次教育（基礎ゼミナール、課題解決ワークショップ）、国際化に対応するための英語教育（英語 A、英語 B）、情報社会に対応するための情報教育（データサイエンスと ICT の基礎）は重要な科目となっています。
2. 専門教育科目では、生活科学の基礎知識を学ぶとともに、所属コースの学問的方法を体系的に学ぶことを通して、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を養い、有用な問題解決法を学び、社会に出て活躍できる基礎力を身につけることを目指します。
3. 各コースとも、学生の主体性を養うため参加型授業を重視し、特に演習、実験・実習については少人数クラスで実施し、担当助手も支援し、授業外においても個別指導を行います。
4. ガイダンスやクラス担任・担任助手の助言をもとに、学生が関心ある科目を幅広く履修し、学科やコースを超えた領域への関心も広げ、多角的な視点を養えるように、コース横断型の学びを奨励しています。さらに「短期大学開放科目」(P.78) を用意しています。
5. 学修意欲を高めるため、それぞれのコースに対応した資格取得のための授業を用意し、専門的な仕事を指す上で基礎的なスキルを身につけることに力点を置いています。
6. 2年間の勉学の集大成が卒業ゼミナールであり、大学で身に付けた知識、研究方法、論理的思考力や表現力等を十分活用して、その研究・作品が結実するように丁寧な個別指導を行います。

5. カリキュラムの全体像

生活科学科のカリキュラムは下記の表のとおり、「教養教育科目」と「専門教育科目」から構成されています。

教養教育科目 (全学共通)	①自律と努力コア ②創造とキャリアコア ③協働とリーダーシップコア [11～17ページに解説]		
専門教育科目	生活科学基礎系科目の構成 (3コース共通) キャリア支援系科目の構成 (3コース共通) 特別演習系科目 (3コース共通) [23ページに解説]		
専門教育科目	メディア社会コース 専門科目 ①メディア社会系 ②メディアデザイン系 ③メディア心理系 [24ページに解説]	生活デザインコース 専門科目 ①プロダクトデザイン系 ②ファッションデザイン系 ③インテリアデザイン系 [24ページに解説]	食・健康コース 専門科目 ①食デザイン系 ②健康マネジメント系 ③フードスペシャリスト系 [25ページに解説]

6. 専門教育科目

■コース共通専門科目

生活科学基礎系科目の構成（3コース共通）

3コース共通の「生活科学基礎系科目」は生活科学を構成するもっとも基本的な学問分野について学ぶ科目です。衣食住を学ぶ衣生活論、食生活論、住生活論は、生活科学基礎系の核となる重要科目です。また、PC活用演習、CG基礎演習、CG応用演習は、デジタルメディアのリテラシーと基本的なスキルを身につける社会人に必須の実践的な演習です。「生活科学基礎系科目」全体で、一定の単位数を取得しなければならない選択必修科目群となっています。

1年次設置の「PC活用演習」では、マイクロソフト・オフィススペシャリスト（MOS）の資格取得を支援しています。

キャリア支援系科目の構成（3コース共通）

1年次設置の「キャリアを考える」（必修科目）では、将来の自分の「キャリア」について考え、「働く」とはどのようなことを再発見します。また、短大生に人気のあるファッション、プライダル、食品、インテリア、金融、広告等の各分野について、実際に仕事をしているエキスパートを招いて、体験に基づいた実態を学びます。同じく1年次設置の「キャリア実務入門」は、簿記、秘書実務、医療事務、ファイナンシャルプランナー（FP）、公務員の職種・仕事内容などキャリア実務の入門科目として広く学びます。

特別演習系科目（3コース共通）

1年次設置の「チャレンジ・ゼミナール」は、就職や編入学に挑戦するための準備をします。講義や演習科目と異なり、教員から直接指導を受けながら進めます。

2年次設置の「卒業ゼミナール」は、2年間の学びの集大成として履修しなければならない必須科目です。担当教員と少人数の学生がディスカッションをしながら、研究室の一員として課題に取り組み、その成果を提出します。

「卒業ゼミナール」は4単位であり、生活科学科全体で行われる発表会にて発表を行います。

■コース専門科目

メディア社会コースにおける専門科目の構成

メディア社会コースは、ソーシャルメディアをはじめとする多様なメディアを活用する能力を養います。また、その企画と制作にかかわる先端的なメディアスキルの基礎を身につけ、企業や地域において活躍できる女性を育成することを目標とし、つぎの3分野から構成されています。

- ①メディア社会系
- ②メディアデザイン系
- ③メディア心理系

①メディア社会系では、メディア社会論、ソーシャルメディア論、ポップカルチャー論、情報メディア演習などを学ぶことにより、ソーシャルメディアを中心に生活に密着したメディアについて最新の動向や持続可能な発展を支える社会的役割について理解します。②メディアデザイン系では、メディアデザイン論、CG演習、Webデザイン演習などを学ぶことにより、情報処理や情報活用能力、企画・プレゼンテーション能力を養い、ビジネス実務とさまざまなクリエイティブ制作の実践力を身につけます。さらに、「マルチメディア検定」の資格取得を支援しています。③メディア心理系では、メディア心理学、消費者の心理、マーケティングリサーチ演習などを学ぶことにより、これからのメディア社会が生活者の行動・心理に及ぼす影響について理解します。

生活デザインコースにおける専門科目の構成

生活デザインコースでは、デザインを通じてより豊かな生活を創造し、さらに形にしていくことから生活や社会において実際に役立つ方法を学びます。そのために必要とする知識やスキル、応用力を養うことを目標とし、つぎの3分野から構成されています。

- ①プロダクトデザイン系
- ②ファッションデザイン系
- ③インテリアデザイン系

①プロダクトデザイン系では、生活に必要な道具や製品を対象に、形、大きさ、色彩などの要素について学び、演習や実習を通じてデザインするスキルを身につけます。②ファッションデザイン系では、衣服やその装い方を対象に、基本的な制作方法を学ぶことからファッションデザインや企画などの演習を通じて実践に応用する力を養います。③インテリアデザイン系では、住居や住空間を対象に、知識や原理に加えて、設計、製図、インテリアCADなどを初歩から高度な応用まで学び、提案する技術を習得します。

3分野ともに深い繋がりを持って構成されています。このコースでの学修を通じて、デザインの持つ大きな可能性に気付くことを期待します。

生活デザインコースでは、プロダクトデザイン系の授業を通して「プロダクトデザイン検定」「色彩検定」、ファッションデザイン系の授業を通して「ファッションビジネス能力検定」、インテリアデザイン系の授業を通して「CAD利用技術者基礎」など関連する資格取得を支援しています。

食・健康コースにおける専門科目の構成

食・健康コースでは社会で活躍できる「食」のスペシャリストを育成することを目標としています。そのために、「食」の基本となる栄養、食品、調理の3つの分野の幅広い専門科目を実験・実習・演習を通して実践的に学びます。このような学修によって、「食」のプランニング力や提案力を養い、将来に役立つ能力を身につけます。本コースの専門科目はつぎの3分野から構成されています。

- ①食デザイン系
- ②健康マネジメント系
- ③フードスペシャリスト系

①食デザイン系では、調理学実習基礎、調理学実習応用、スイーツ実習の3つの実習科目を通して、調理や製菓の基礎を学んだ上で、調理を科学的に理解しながら、「食」を総合的にデザインするスキルを習得します。また、フードメディア演習などでPCの実践的なスキルを身につけ、フードビジネスに活かすことを学びます。

②健康マネジメント系では、食物基礎科学、栄養学、女性と健康などの科目を通して、栄養と健康の基礎を学びます。さらに食育演習、ライフステージ栄養演習などの健康をマネジメントしていく科目により、子どもから大人まで生涯にわたる健康的な身体作りに関する知識を学び、健康ビジネスに生かすことができるような実践的なスキルを体得します。

③フードスペシャリスト系では、食品学、食品衛生学、フードスペシャリスト論などの科目を通して、フードビジネスに必要なフードスペシャリストや食品衛生責任者の資格取得のための知識や技術を習得します。

フードスペシャリスト資格は「食」を幅広く学ぶことによって得られる資格です。取得に必要な必須科目は3つの分野に分かれていますので、それぞれの分野から必要な科目を履修してください。

本コースではフードスペシャリスト資格取得の支援以外に、食品衛生責任者の資格支援についても、積極的に取り組んでいます。(資格については「9. 諸資格」P.33)

他コース、他学科の授業科目の履修

各コースに設置されている専門科目のほか、に所定の範囲内で、他コースおよび他学科(短期大学開放科目(P.78))の科目を履修し、修得単位を卒業単位に含めることができます。

自分が所属しているコース以外のコースの授業科目および他学科科目を修得する場合、12単位を限度として専門教育科目の選択科目の卒業単位に含めることができます。ただし履修者数が限られている実験、実習、演習科目は、他コースからの履修が制限されることがあります。

共立女子大学の科目については、大学および短期大学間の単位互換制度により学部の開放科目を履修することができます。さらに、千代田区キャンパスコンソーシアムの構成大学間の単位互換制度を利用して、共立女子大学を含む他大学の所定の科目を無料で受講することができます。修得した単位は12単位を限度として卒業単位に含めることができます。また、12単位を超えた場合も、将来編入すると、既に履修した単位として認定される場合があります。(「編入学」について、詳しくはP.98を参照してください)。

コース所定の科目を履修すれば卒業要件に達しますが、他コース、他学科、共立女子大学、他大学の開講科目を履修することによって、有意義な学生生活を送ることができます。

7. 卒業の要件

1. 生活科学科の修業年限は2年です。2年間で所定の単位を修得できない場合は、在学期間を延長することができますが、通算して4年を超えることはできません。
2. 生活科学科に2年以上在学し、所定の単位数を修得した者は、学位記が授与され、短期大学士（生活科学）の学位が与えられます。
3. 卒業に必要な最低の単位数は、次の通りです。

(数字は単位数)

区分		コース		メディア社会コース		生活デザインコース		食・健康コース	
		必修科目	選択必修科目	必修科目	選択必修科目	必修科目	選択必修科目	必修科目	選択必修科目
教養教育科目	必修科目	3	14	3	14	3	14	3	14
	選択必修科目	6		6		6		6	
	選択科目	5		5		5		5	
専門教育科目	必修科目	6	48	6	48	6	48	6	48
	選択必修科目	6		12		10			
	選択科目	36		30		32			
合計		62		62		62		62	

卒業要件単位を超えて修得した教養教育科目の単位は、専門教育科目の単位には加算されません。
卒業要件単位を超えて修得した専門教育科目の単位は、教養教育科目の単位には加算されません。

卒業要件単位数の見かた

授業科目区分は学科の定める名称によるほか、履修の自由度に応じて次のように分けられます。

必修科目	必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	指定された複数科目の中から決められた単位数を修得しなければならない科目
選択科目	各自の自由意志に基づいて選択履修する科目

8. 教育課程（カリキュラム）および履修方法

教育課程（カリキュラム）表の見かた

- 卒業要件の欄の単位数は、卒業に必要な最低の単位数を示しています。
 必修科目……………1科目ごとに横線で区切られ、単位数が記入されています。
 選択必修科目…2科目以上にわたる欄の中央に単位数が記入されています。
 選択科目……………空欄になっています。
- 開講期間の表示

記号	記号の意味
無印	半期（前期または後期）開講
★	通年開講
※	事前貼り付け科目

3. 科目ナンバリング

科目ナンバリングは、授業科目に番号を付し、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明らかにしているものです。学生は自身の履修する科目の参考にしてください。

<教養教育科目>

教育課程（カリキュラム）

【科目ナンバリング指針】

学部等	分野英語名	分野コード	科目分類	科目分類コード	学修段階	学修段階コード	科目分類ごとの識別コード
全学共通教育（教養教育）	Liberal Arts	L	自立・自活のための基礎科目	a	入門レベル	1	1
			情報リテラシー	b	中級レベル	2	2
			英語	c	上級レベル	3	3
			初習外国語	d	学士卒業レベル	4	4
			人間を理解するための教養	e	-		5
			社会を理解するための教養	f		6	
			自然を理解するための教養	g		7	
			身体と健康を管理するための教養	h		.	
			キャリアを創造するための教養	i		.	
			現代社会の諸課題の解決	j		.	
			課題解決実践演習	k		.	
			リーダーシップ開発	l		.	

例：基礎ゼミナール：La1-1

教養教育科目（各コース共通）

		科目 ナンバリング	授業科目	年次	単位	卒業要件
努力 自立と 自己 コア	自立・自活のための基礎科目	La1-1	基礎ゼミナール ※	1	1	1
		La1-2	論理的思考・文章表現	1	1	
		La1-3	ライフプランと自己実現 ※	1	2	
		La1-4	課題解決ワークショップ	1	1	
創造と キャリア コア	情報リテラシー	Lb1-1	データサイエンスとICTの基礎	1	2	2
		Lb1-2	情報処理	1	2	
		Lb2-3	情報の分析と活用 A	1・2	2	
		Lb2-4	情報の分析と活用 B	1・2	2	
		Lc1-1	★英語 A (リスニング・スピーキング) ※	1	2	
	Lc1-2	★英語 B (リーディング・ライティング) ※	1	2		
	Lc2-3	★アドバンスト英語 A (ビジネス口頭表現)	2	2		
	Lc2-4	★アドバンスト英語 B (ビジネス文章表現)	2	2		
	Lc2-5	★アドバンスト英語 C (TOEIC)	2	2		
	初習外国語	Ld1-1	フランス語 I (入門)	1	2	2
		Ld1-2	フランス語 II (表現)	1	2	
		Ld2-3	★応用フランス語 (総合)	2	2	
		Ld1-4	中国語 I (入門)	1	2	
		Ld1-5	中国語 II (表現)	1	2	
		Ld2-6	★応用中国語 (総合)	2	2	
		Ld1-7	ドイツ語 I (入門)	1	2	
		Ld1-8	ドイツ語 II (表現)	1	2	
		Ld2-9	★応用ドイツ語 (総合)	2	2	
		Ld1-10	★韓国語 I (入門)	1	2	
		Ld1-11	★韓国語 II (表現)	1	2	
		Ld1-12	★スペイン語 I (入門)	1	2	
		Ld1-13	★スペイン語 II (表現)	1	2	
		Ld1-14	★イタリア語	1	2	
		Ld1-15	★アラビア語	1	2	
		Ld1-16	★基礎日本語 (留学生対象)	1・2	2	
		Ld2-17	★応用日本語 (留学生対象)	1・2	2	
	人間を理解するための教養	Le1-1	日本の歴史を学ぶ	1・2	2	2
Le1-2		世界の歴史を学ぶ	1・2	2		
Le1-3		人間と地理を学ぶ	1・2	2		
Le1-4		文学をひらく	1・2	2		
Le1-5		芸術をひらく	1・2	2		
Le1-6		哲学とは何か	1・2	2		
Le1-7		心理を学ぶ	1・2	2		
Le1-8		自己開発	1・2	2		
社会を理解するための教養	Lf1-1	法律を学ぶ (日本国憲法)	1・2	2	2	
	Lf1-2	法律を学ぶ (概論)	1・2	2		
	Lf1-3	政治を学ぶ	1・2	2		
	Lf1-4	倫理学とは何か	1・2	2		
	Lf1-5	国際関係を学ぶ	1・2	2		
	Lf1-6	地域社会と家族を学ぶ	1・2	2		
	Lf1-7	経済を学ぶ	1・2	2		
	Lf1-8	社会を学ぶ	1・2	2		
自然を理解するための教養	Lg1-1	自然と地理を学ぶ	1・2	2	2	
	Lg1-2	数学への招待	1・2	2		
	Lg1-3	生物学への招待	1・2	2		
	Lg1-4	物理学への招待	1・2	2		
	Lg1-5	化学への招待	1・2	2		
身体と健康を管理するための教養	Lh1-1	健康スポーツ実習 A	1・2	1	1	
	Lh1-2	健康スポーツ実習 B	1・2	1		
キャリアを創造するための教養	Li2-1	企業と社会の仕組み	2	2	2	
	Li2-2	マーケティング	2	2		
	Li2-3	女性の生き方と社会	2	2		
リーダーシップ コア	現代社会の諸課題の解決	Lj2-1	現代社会の諸課題 (経済・産業)	2	2	2
		Lj2-2	現代社会の諸課題 (環境・科学)	2	2	
		Lj2-3	現代社会の諸課題 (文化・芸術)	2	2	
		Lj2-4	現代社会の諸課題 (生活・地域)	2	2	
		Lj2-5	現代社会の諸課題 (メディア・表現)	2	2	
	課題解決実践演習	Lk2-1	★教養総合ワークショップ A	1・2	4	
リーダーシップ開発	LI3-1	★教養総合ワークショップ B	2	4		
ワークショップファシリテーション						2
必修科目						3
選択必修科目						6
上記全科目より						5
計						14

【科目ナンバリング指針】

学科等	分野英語名	分野コード	科目分類	科目分類コード	学修段階	学習段階コード	科目分類ごとの識別コード
生活科学科	Science of Living	H	コース共通専門科目	a	入門、基礎科目	1	一連の数字を表す通し番号
			メディア社会コース	b	中級、基幹科目	2	
			生活デザインコース	c	上級、発展科目	3	
			食・健康コース	d	学士卒業レベル	4	

〈メディア社会コース〉

コース共通専門教育科目（3コース共通）

	科目ナンバリング	授業科目	年次	単位	卒業要件	備考
生活科学基礎系	Ha1-1	衣生活論	1・2	2	6	
	Ha2-2	食生活論	1・2	2		
	Ha1-3	住生活論	1・2	2		
	Ha2-4	心の健康	1・2	2		
	Ha1-5	PC活用演習 ※	1	1		
	Ha3-7	CG応用演習	2	1		
キャリア支援系	Ha1-10	キャリア実務入門	1	2	2	
	Ha2-11	キャリアを考える	1	2		
演習系特別	Ha2-12	チャレンジ・ゼミナール	1	2	4	
	Ha4-13	★卒業ゼミナール	2	4		

専門教育科目（メディア社会コース）

	科目ナンバリング	授業科目	年次	単位	卒業要件	備考	
メディア社会系	Hb1-1	メディア社会論	1	2			
	Hb2-3	ソーシャルメディア論	1	2			
	Hb1-2	ポップカルチャー論	1	2			
	Hb2-4	メディアカルチャー演習	1	2			
	Hb4-6	サステイナブル社会論	2	2			
	Hb3-5	情報メディア演習	2	2			
メディアデザイン系	Hb1-7	メディアデザイン論	1	2			
	Hb1-8	CG演習A(イラストレーター)	1	2			[CG演習B]を履修することが望ましい
	Hb2-9	CG演習B(フォトショップ)	1	2			[CG演習A]を履修することが望ましい
	Hb2-10	アニメーション制作演習	1	2			
	Hb4-11	ユニバーサルデザイン論	2	2			
	Hb4-12	DTP演習	2	2			[CG演習A・B]を履修済であることが望ましい
	Hb4-13	Webデザイン演習	2	2			[CG演習A・B]を履修済であることが望ましい
メディア心理系	Hb2-16	消費者の心理	1	2			
	Hb1-14	メディア心理演習	1	2			
	Hb1-15	心理データ解析演習(SPSS)	1	2			
	Hb3-17	メディア心理学	2	2			
	Hb3-18	マーケティングリサーチ演習	2	2			
必修科目					6		
選択必修科目					6		
上記全科目より (他コース・他学科科目12単位まで含むことができる)					36		
計					48		

★は通年科目

※は事前貼り付け

〈生活デザインコース〉

コース共通専門教育科目（3コース共通）

	科目ナンバリング	授業科目	年次	単位	卒業要件	備考
生活科学基礎系	Ha1-1	衣生活論	1・2	2	6	
	Ha2-2	食生活論	1・2	2		
	Ha1-3	住生活論	1・2	2		
	Ha2-4	心の健康	1・2	2		
	Ha1-5	PC活用演習 ※	1	1		
	Ha2-6	CG基礎演習 ※	1	1		
キャリア支援系	Ha1-10	キャリア実務入門	1	2	2	
	Ha2-11	キャリアを考える	1	2		
演習系 特別	Ha2-12	チャレンジ・ゼミナール	1	2	4	
	Ha4-13	★卒業ゼミナール	2	4		

専門教育科目（生活デザインコース）

	科目ナンバリング	授業科目	年次	単位	卒業要件	備考
プロダクトデザイン系	Hc1-1	生活デザイン論	1	2	2	
	Hc2-2	★生活プロダクトデザイン演習	1	4		
	Hc2-4	カラーコーディネート演習	1	2		
	Hc1-3	デッサン（実習）	1	1		
	Hc3-5	プロダクトデザイン論	2	2		
	Hc3-6	イラストレーション（実習）	2	1		
	Hc4-7	彫金実習	2	1		
ファッションデザイン系	Hc2-10	ファッションデザイン論	1	2	2	
	Hc2-8	★ファッションデザイン演習	1	4		
	Hc1-9	染色工芸実習	1	1		
	Hc2-11	アパレル制作実習	1	1		
	Hc3-12	ファッションビジネス論	2	2		
	Hc4-14	アパレル企画演習	2	2		
	Hc3-13	和装デザイン実習	2	1		
インテリアデザイン系	Hc2-17	快適住環境論	1	2	2	[インテリア設計演習]を修得していること
	Hc1-15	インテリア設計演習	1	2		
	Hc2-18	インテリア製図演習Ⅰ	1	2		
	Hc2-16	★インテリアCAD実習基礎	1	2		
	Hc4-21	インテリア構成論	2	2		
	Hc3-19	インテリア製図演習Ⅱ	2	2		
	Hc3-20	インテリアCAD実習応用	2	1		
必修科目					6	
選択必修科目					12	
上記全科目より (他コース・他学科科目 12単位まで含むことができる)					30	
計					48	

★は通年科目
※は事前貼り付け

〈食・健康コース〉

コース共通専門教育科目（3コース共通）

	科目ナンバリング	授業科目	年次	単位	卒業要件	フードスペシャリスト	備考
生活科学基礎系	Ha1-1	衣生活論	1・2	2	6		
	Ha2-2	食生活論	1・2	2			
	Ha1-3	住生活論	1・2	2			
	Ha2-4	心の健康	1・2	2			
	Ha1-5	PC活用演習 ※	1	1			
	Ha2-6	CG基礎演習 ※	1	1			
キャリア支援系	Ha1-10	キャリア実務入門	1	2	2		
	Ha2-11	キャリアを考える	1	2			
演習系 特別	Ha2-12	チャレンジ・ゼミナール	1	2	4		
	Ha4-13	★卒業ゼミナール	2	4			

専門教育科目（食・健康コース）

	科目ナンバリング	授業科目	年次	単位	卒業要件	フードスペシャリスト	備考
食デザイン系	Hd2-1	調理学	1	2	2	◎	
	Hd2-3	調理学実習基礎	1	1		◎	
	Hd2-2	フードメディア演習	1	2			
	Hd3-4	フードコーディネータ論	2	2		◎	
	Hd4-6	フードパッケージ実習	2	1			
	Hd3-5	調理学実習応用	2	1		◎	
	Hd4-7	スイーツ実習	2	1			
健康マネジメント系	Hd1-8	食物基礎科学	1	2	2	◎	
	Hd2-10	栄養学	1	2		◎	
	Hd1-9	生活基礎演習	1	2			
	Hd2-11	食育演習	1	2			
	Hd3-12	女性と健康	2	2			
	Hd4-13	ライフステージ栄養演習	2	2			
フードスペシャリスト系	Hd2-16	食品学	1	2		◎	
	Hd2-17	食品衛生学	1	2		◎	
	Hd1-15	嗜好評価処理演習	1	2		◎	
	Hd1-14	食品学実験	1	1		◎	
	Hd3-18	食品の消費と流通	2	2		◎	
	Hd3-19	フードスペシャリスト論	2	2		◎	
	Hd3-20	フードスペシャリスト演習	2	2			
必修科目					6	21	◎の科目
選択必修科目					10		
上記全科目より (他コース・他学科科目 12 単位まで含むことができる)					32		
計					48	21	

★は通年科目

※は事前貼り付け

チャレンジ・ゼミナール

1. 就職チャレンジ、編入学チャレンジ、の2種類があり、これらの内1つを選んで履修します。
2. 履修しようとするときは、就職、編入学のどちらかを選び、指導教員が決定した後、履修登録します。
3. 1年次で履修してください。履修登録は6月に行います。
4. 2単位とし、指導教員が単位（成績を含む）を認定します。詳細は、基礎ゼミナールの授業で説明します。

卒業ゼミナール

1. 卒業ゼミナールの履修は、所定の方法に従い、担当教員に申込書を提出してください。
2. 卒業ゼミナールは、通年4単位とし、卒業ゼミナール発表会で報告し、また指定された日時までに論文・作品および卒業ゼミナール要旨集原稿を提出することを前提に、指導教員が単位（成績を含む）を認定します。
研究論文、卒業作品、要旨集原稿等の提出先は各指導教員です。

インターンシップ制度について

この制度は学生が夏期、春期休業中等に2週間程度、企業や団体で研修を行うもので、学校内での学修の上に、広く実社会での研修を積み重ね、自分の関心の高い分野でより高度な経験をすることができます。こうした研修およびその前後の学修を行い、関連科目の単位を取得した場合、「自己開発」の単位を取得することができます。ただし、同じインターンシップという名称の実質的には就職活動の一部であるものは、この制度の対象外です。

生活科学科に關係するインターンシップ制度には大きく以下の方法があります。

1. 共立女子大学、短期大学へ企業や団体から研修応募依頼があるもの
学生支援課キャリア支援グループが担当し、**kyonet** で案内が届きます。
2. インテリア・インターンシップ・インコーポレーション（I. I. I.）に基づく研修
住居・インテリアデザイン系の教科内容を持つ大学・短大（本学科を含む）・専門学校5校とインテリア・ディスプレイ・住宅設備・リフォーム等の分野の10事業団体とが協力して、住居・インテリア系の企業・団体で研修を行う制度です。主に1年の春期休業中に行い、参加希望者の登録や相手の企業・団体との連絡等は学科で行います。研修を終えた学生による報告会を行います。
3. 上記以外の、教員の紹介による研修で上記に相当する内容を持つもの

9. 諸資格

フードスペシャリスト、専門フードスペシャリスト

フードスペシャリスト資格とは

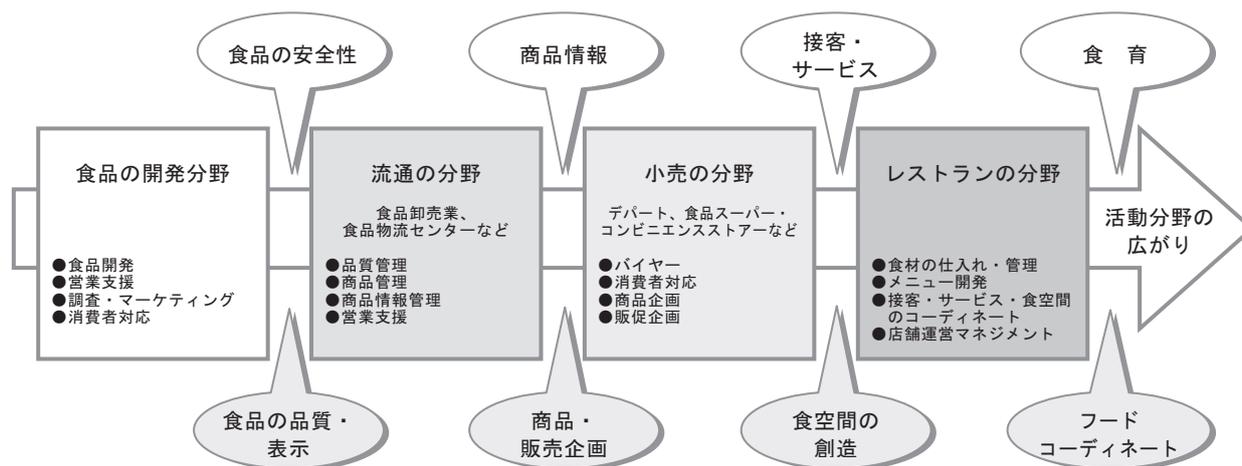
フードスペシャリストとは、フードスペシャリスト協会が認定する民間資格で、「食」に関する総合的・体系的な知識・技術を身につけた「食」の専門職のことです。フードスペシャリスト資格は、フードスペシャリスト協会が認定した本学科で「食」について2年間学んだ後、フードスペシャリスト協会が主催する資格認定試験に合格して得られる資格です。

フードスペシャリストの活躍が期待されている職域は、食品メーカー、食品流通業、食品小売業、レストランなどの飲食業（外食産業）などが挙げられます。また、専門性を駆使して食品の開発製造から流通、販売、外食、消費に至る幅広い分野での活躍が期待されています。

フードスペシャリスト、専門フードスペシャリストの主な業務項目（四訂フードスペシャリスト論第4版（建帛社）より抜粋）

1. 食品の鮮度・熟度、官能評価、成分検査、微生物汚染検査など（品質判定）
2. 食品の情報調査とその提供（広報活動）
3. 食品の栄養価・機能性・安全性についての知識の普及（教育）
4. 食品の陳列・サービスに関する助言（販売促進とコーディネート）
5. レストランにおける食べ物、食環境の調和を総合的に調節（食のコーディネート）
6. 健康で快適な食生活の啓発と食育の普及（食育活動）

■ フードスペシャリストの活躍が期待される職域の広がり



資格をとるためには

公益社団法人日本フードスペシャリスト協会の認定校である本学で所定の単位を修得し、資格認定試験を受け、合格し、なおかつ短期大学を卒業することが条件です。履修ガイドにあるカリキュラム表のとおり履修することで受験資格が得られます。しかし、フードスペシャリストの資格認定試験に合格するためには、◎以外の科目も積極的に履修することが望まれます。専門フードスペシャリストは、フードスペシャリストと同日に受験可能ですが、フー

ドスペシャリストに合格することが専門フードスペシャリストの合格要件です。

資格認定試験について

例年2年次の12月第3日曜日に実施されます。試験は2部構成で、前半にフードスペシャリスト、後半に専門フードスペシャリストの試験を行います。合格すると、短期大学の卒業を要件としてフードスペシャリスト協会から資格認定証が交付されます。

食品衛生責任者

食品衛生責任者とは

食品衛生責任者とは、営業者の指示に従い食品衛生上の管理運営にあたる人を言います。食品関係の営業を行う場合、次のとおり食品衛生責任者の設置と義務が定められています。(食品衛生法施行条例別表第一「公衆衛生上講ずべき措置の基準」より抜粋)

- ・ 営業者は、許可施設ごとに自ら食品衛生に関する責任者となるか、又は当該施設における従事者のうちから食品衛生責任者1名を定めて置かなければならない。
- ・ 食品衛生責任者は、営業者の指示に従い食品衛生上の管理運営に当たるものとする。
- ・ 食品衛生責任者は、食品衛生上の危害の発生を防止するための措置が必要な場合は、営業者に対して改善を進言し、その促進を図らなければならない。
- ・ 食品衛生責任者は、法令の改廃等に留意し、違反行為のないように努めなければならない。

資格をとるためには

食品衛生責任者になるためには、次の2つの道があります。ひとつは栄養士、調理師、製菓衛生師などの有資格者だと、自動的に食品衛生責任者になれます。もうひとつは保健所長(特別区にあっては、特別区の区長)が実施する、食品衛生責任者になるための講習会または知事の指定した講習会を受講すると資格を得ることができます。資格取得講習会は6時間以上のカリキュラム(テスト含む)です。

- ・ 公衆衛生学(伝染病、疾病予防、環境衛生、労働衛生等) 1時間
- ・ 衛生法規(食品衛生法、施設基準、管理運営基準、規格基準、公衆衛生法規等) 2時間
- ・ 食品衛生学(食品事故、食品の取扱い、施設の衛生管理、自主管理等) 3時間

本学の学生は長期休みなどを利用して、東京都内などで実施される養成講習会を受講します。講習会受講料は12,000円(当日会場払い(2022年1月現在))で、別途交通費および昼食代がかかります。

10. カリキュラムマップ

科目ナンバリング	授業科目	到達目標（成績評価 A）	学びのステージ I:1年前期 II:1年後期 III:2年前期 IV:2年後期	DP1 （知識・理解） 社会に貢献し、自立した生活を送るための知識・理解を身に付ける。	DP2 （技能） 家庭や社会で生活するために必要な生活スキルを身に付ける。	DP3 （思考・判断・表現） 社会生活に課題を見出し、問題解決力をつける。	DP4 （関心・意欲・態度） 積極的に課題に取り組む姿勢を身に付ける。
Ha1-1	衣生活論	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の素材や製造、管理と環境との関わり、技術革新に関する基礎的な知識を理解し、総合的に説明できる。（知識・理解） 衣服の社会的な役割を理解した上で、TPOやライフステージに応じた衣服を適切に選び、衣服の計画的な購入を示すことができる。（思考・判断・表現） 衣生活の変化に関心を持ち、これからの衣生活のありかたを具体的に示すことができる。（思考・判断・表現） 	I・II	◎		○	
Ha2-2	食生活論	<ul style="list-style-type: none"> 過去から現在に至る食生活の変化を理解し、現状を分析して課題を見出し、未来に向けてその解決をはかりながら自己の食生活に活用していくことができる。（知識・理解） ライフステージの特性を知り、ステージに合った食生活を適切に計画できる。（思考・判断・表現） 個人の食生活が地球レベルの社会・環境問題に繋がっていることを理解し説明できる。（思考・判断・表現） 	II・IV	◎		○	
Ha1-3	住生活論	<ul style="list-style-type: none"> 身近にある住まいについて、住居と住生活に関する知識を理解し、具体的に説明できるようになる。（知識・理解） 今後の自分と住まいとのつきあいをより良いものにしていくために必要な実践的な洞察力、判断力を身につけ、具体的な提案として説明することができる。（思考・判断・表現） 	I・II	◎		○	
Ha2-4	心の健康	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析、自己コントロールの大切さを十分理解して説明できる。（知識・理解） カウンセリングの手法を通して、自己や・他者を分析し、その行動を解釈することができる。（思考・判断・表現） 	II・IV	◎		○	
Ha1-5	PC活用演習	<ul style="list-style-type: none"> Word, Excel, PowerPoint, Acrobat等ソフトウェアの高度な機能、使用方法、連携方法を理解し、それを説明できる。（知識・理解） Word, Excel, PowerPoint, Acrobat等のソフトウェアの機能の中から適切な機能を選択し、専門教育科目の課題解決に活用できる。（技能） PCで作成したデータの保存および管理方法について理解し、適切なデータ管理ができる。（技能） 	I	○	◎		
Ha2-6	CG基礎演習	<ul style="list-style-type: none"> IllustratorとPhotoshopを連携して使用することができる。（知識・理解） Adobe Illustratorの用途・機能を知り、基礎的な図形作成、変形、合成、レイヤー操作、その他の機能が操作できる。また、Adobe Photoshopの用途・機能を知り、基礎的な画像修正、加工、色調補正などの操作ができる。（技能） デジタルデザインの基礎的な制作手法を学び、様々なデジタルグラフィックスの制作ができる。（技能） 	II	○	◎		
Ha3-7	CG応用演習	<ul style="list-style-type: none"> Adobe InDesign, Illustrator, Photoshopの特性を活用しながら、編集デザインのワークフローを深く理解できる。（知識・理解） アプリケーションの機能を理解し、デザイン性の高いビジュアル作成ができる。（技能） ページレイアウトの制作手法を学びながら、デザイン性の高い作品制作を目標にしたデータ制作、入稿、出力までの作業ができる。（技能） 	III	○	◎		
Ha1-10	キャリア実務入門	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の進路について、具体的な働き方や将来像を思い描き、自分のキャリア形成に必要な能力や資格、具体的な習得方法を的確に示すことができる。（知識・理解） 就学期間を準備期間として積極的に活用する計画を示すことができる。（関心・意欲・態度） 	I	◎			○

科目ナンバリング	授業科目	到達目標（成績評価 A）	学びのステージ I:1年前期 II:1年後期 III:2年前期 IV:2年後期	DP1 （知識・理解） 社会に貢献する女性と自立し求める幅を拡大する。生活科学に関するデザイン、情報、環境等の分野における能力を身に付ける。	DP2 （技能） 家庭および社会において生活する上で必要なメデイア、環境、コミュニケーション等に能力を付けている。	DP3 （思考・判断・表現） 社会課題について、問題の本質を洞察力を身に付けている。	DP4 （関心・意欲・態度） 学修の意欲や誠実な態度を身に付けている。
Ha2-11	キャリアを考える	<ul style="list-style-type: none"> 関心を持つ業界について、概要や実態を詳しく説明できる。（知識・理解） 「働く」とはどういうことかについて、自分のキャリア形成と関連づけて考え、具体的に説明できる。（思考・判断・表現） どのような仕事に興味があり、どのような能力・資格が必要か、どの方面へ進みたいかなど、自己発見について具体的に説明できる。（関心・意欲・態度） 	II	○		◎	○
Ha2-12	チャレンジ・ゼミナール	<ul style="list-style-type: none"> 就職活動・編入学等の進路選択に必要な洞察力、判断力を身に付け、必要な学習を実践的に取捨選択できる。（思考・判断・表現） 進路に関連する在学中の学習に関心を持ち、積極的に取り組む能力を身に付け、自身の活動として主体的に実践することができる。（関心・意欲・態度） 	II			◎	○
Ha4-13	卒業ゼミナール	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果や作品について論理的にプレゼンテーションすることができる。（技能） 自らテーマを見つけ、自分の考えを言葉や形で表現し、成果を論文や作品にまとめることができる。（思考・判断・表現） 長期間一つの課題に積極的に取り組んで理解を深めることにより、基礎的な持続力や集中力を身に付けることができる。（関心・意欲・態度） 	III・IV		○	◎	○
Hb1-1	メディア社会論	<ul style="list-style-type: none"> 情報メディアの種類と特徴、それらがどのように発展してきたか、それらが持つ役割やリスクについて説明できる。（知識・理解） 必要に応じた適切なメディアを選択して、情報発信の手段として有効かつ安全に利用でき、また、アナログメディア、デジタルメディア全般を理解し、今後のメディアの発展について意見を述べることができる。（思考・判断・表現） 	I	◎		○	
Hb1-2	ポップカルチャー論	<ul style="list-style-type: none"> ポップカルチャー、サブカルチャー、ハイカルチャーの違い、文化のグローバル化、ローカリゼーションのメカニズムを理解し、日本の政治的、外交的資源としてのポップカルチャーの役割を説明できる。（知識・理解） 海外で人気がある日本文化製品について調査し、その魅力について海外の文化との比較などを行いながら考察して、レポートにまとめることができる。（思考・判断・表現） 	I	◎		○	
Hb2-3	ソーシャルメディア論	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルメディアを簡単に定義し、ソーシャルメディアに分類される代表的なオンラインサービスを挙げて、それらのサービス内容を説明でき、サービス利用の際の個人情報漏洩、機密情報漏洩、犯罪、倫理等の諸問題について説明できる。（知識・理解） デジタル社会におけるリテラシーについて十分な知識を持ち、ソーシャルメディアを適切かつ安全に利用し、情報発信に活用することができる。（思考・判断・表現） 	II	◎		○	
Hb2-4	メディアカルチャー演習	<ul style="list-style-type: none"> メディアに関する様々な用語の定義および社会調査法の基本を理解し、フィールドワークやエスノグラフィについて説明できる。（知識・理解） 様々なデジタルメディア機器を活用して、フィールドワーク調査を実施できる。（技能） フィールドワークで集めたデータ（写真、動画、フィールドノート等）を社会学および文化的視点から考察・分析して、報告書を作成できる。（思考・判断・表現） 	II	○	◎	○	
Hb3-5	情報メディア演習	<ul style="list-style-type: none"> 基本となる色彩システムを深く理解し、色彩理論、色彩調和を理解した上で、実践的な色彩感覚を適用することができる。（知識・理解） 色彩生成、配色のさまざまな課題に対応した高い能力を示す制作ができる。（技能） 	II	○	◎		

科目ナンバリング	授業科目	到達目標（成績評価A）	学びのステージ Ⅰ：1年前期 Ⅱ：1年後期 Ⅲ：2年前期 Ⅳ：2年後期	DP1 （知識・理解） 社会に貢献する女性とらえられたい生活科を学ぶための知識・理解を身に付ける。	DP2 （技能） 家庭におよび社会に生活する上で活用する必要なスキルを身に付ける。	DP3 （思考・判断・表現） 社会の問題を察し、課題を解決する力を身に付ける。	DP4 （関心・意欲・態度） 積極的な学習態度をもち、協調性のある人間性を身に付けている。
Hb4-6	サステナブル社会論	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティの概念を理解し、日本が抱える環境問題・課題を知り、それらを解決するための方策について説明できる。（知識・理解） ・日本が目指すべき持続可能な社会の在り方を考察し、サステナブルな社会の実現に向けて、身近な問題を見つけることができる。（思考・判断・表現） ・日々の暮らしの中で、気候変動、生物多様性、SDGsなどの地球環境問題に関心を持ち、自分事として深く考究する態度を身につけることができる。（関心・意欲・態度） 	Ⅳ	◎		○	○
Hb1-7	メディアデザイン論	<ul style="list-style-type: none"> ・造形学的な観点からメディアの歴史について解釈し、メディア文化を客観的に説明し、造形原理を学びながら、「造形」「デザイン」「空間」「環境」をキーワードとしてメディアデザインについて述べることができる。（知識・理解） ・メディアのリテラシーを身につけ、造形、デザインの今後のあるべき姿について説明することができる。（思考・判断・表現） 	Ⅰ	○		◎	
Hb1-8	CG演習A （イラストレーター）	<ul style="list-style-type: none"> ・Adobe Illustratorによる基礎技能を習得し、ビジュアル表現に適用できる。（知識・理解） ・デザインワークフローを踏まえた実践的なデジタルデザイン手法を理解し、作品制作ができる。（技能） ・手順を組み立てて工夫しながら、イメージ通りのビジュアルを自由に作成できる。（技能） 	Ⅰ	○	◎		
Hb2-9	CG演習B （フォトショップ）	<ul style="list-style-type: none"> ・Adobe Photoshopによる基礎技能を習得し、ビジュアル表現が自由に適用できる。（知識・理解） ・画像データを元に、画像レタッチ等のコマンド機能を自由に操作し、画像設計をイメージ通りに補正できる。（技能） ・デザインワークフローを踏まえた実践的なデジタルデザイン手法を工夫し、作品制作ができる。（技能） 	Ⅱ	○	◎		
Hb2-10	アニメーション制作演習	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルイメージ、デジタルカラーについて詳しく説明できるようになる。（知識・理解） ・Adobe Animateによるモーショングラフィックス（動画）を習得し、さまざまな動画の制作手法を実践できるようになる。（技能） ・人の知覚の仕組みを解釈し、より効果的な動画表現ができるようになる。（思考・判断・表現） 	Ⅱ	○	◎		
Hb4-11	ユニバーサルデザイン論	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科学におけるユニバーサルデザインの必要性和意義について詳しく説明できる。（知識・理解） ・ユニバーサルデザイン7原則にもとづき、造形美と機能美の観点から多様性にもとづいた造形について詳しく説明できる。（思考・判断・表現） ・ユニバーサルデザインにおける「認知性」、「操作性」（ユーザビリティ）、「可読性」（レジビリティ）の活用能力を示すことができる。（関心・意欲・態度） 	Ⅳ	○		◎	○
Hb4-12	DTP演習	<ul style="list-style-type: none"> ・Adobe Photoshop、Illustratorの操作を解釈し、デザインワークフローを踏まえた高度なデジタルデザイン制作ができる。（知識・理解） ・手順を組み立てて工夫しながら、イメージ通りのビジュアルを自由に作成できる。（技能） ・実践的なDTP作品制作ができる。（技能） 	Ⅳ	○	◎		
Hb4-13	Webデザイン演習	<ul style="list-style-type: none"> ・Adobe DeramweaverによるWebサイトコンテンツ構築への展開について詳しく説明できる。（知識・理解） ・CG演習A・Bを踏まえた、Adobe Photoshop・Illustratorによる素材制作の操作ができる。（技能） 	Ⅳ	○	◎		

科目ナンバリング	授業科目	到達目標（成績評価A）	学びのステージ I:1年前期 II:1年後期 III:2年前期 IV:2年後期	DP1 （知識・理解） 社会に貢献する女性と自立しとらえるための生活科デザイン、情報、環境等における知識・能力を身に付ける。	DP2 （技能） 家庭および社会で生活する際に活用するデザイン、食、環境、コミュニケーション等に力を付けている。	DP3 （思考・判断・表現） 社会課題の本質を捉え、問題解決力をつけている。	DP4 （関心・意欲・態度） 積極的な学習態度や誠実な人間性を身に付けている。
Hb1-14	メディア心理演習	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア(アナログ、デジタル、コミュニケーション、マスメディア等)がもつ特徴を理解し、メディアが利用されている場面を考察し、それらが人間の心理や行動に与える影響を説明できる。(知識・理解) ・定量的調査法(調査紙調査)を使って集めたデータを統計分析ソフトウェアを使って分析し、メディアと人間の行動の関係を調査することができる。(技能) ・調査紙の質問文を適切な表現で作成し、調査報告書を作成する際には、適切な図表等を選んで、わかりやすい報告書としてまとめることができる。(思考・判断・表現) 	I	○	◎	○	
Hb1-15	心理データ解析演習(SPSS)	<ul style="list-style-type: none"> ・実証的な研究の進め方について理解し、尺度水準や質的データと量的データ、独立変数と従属変数などの違いについて説明できる。(知識・理解) ¥n・統計ソフトウェア(SPSS)を用いたデータの入力および目的に沿った適切な分析を行うことができる。(技能) ・心理調査を行う際の倫理的な配慮の必要性について知り、心理調査の目的に沿った適切な調査を実施し、得られた結果をもとに論理的な考察を行い、適切な表やグラフを選び、わかりやすいレポートを作成する。(思考・判断・表現) 	I	○	◎	○	
Hb2-16	消費者の心理	<ul style="list-style-type: none"> ・企業活動(商品、サービスの提供)と消費者心理とが密接に関連していることを理解し、消費者の心理がよりよい社会を実現するために必須であり、女性の消費者心理がよい企業を育て、よい社会をつくるということを説明できる。(知識・理解) ・企業が消費者心理に基づいて提供しているサービスや商品を知り、社会動向の分析を行い、顧客視点に立った商品やサービスを提案、発表することができる。(思考・判断・表現) ・消費行動や企業活動についての知識をベースに、顧客視点の商品サービスを提案する。(関心・意欲・態度) 	II	◎		○	○
Hb3-17	メディア心理学	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア心理学の学問的な位置付けソーシャル、メディア、ソーシャルメディアの社会的影響力を知り、情報やメディアの種類によって人は行動・態度を変えようということを理解する。(知識・理解) ・ソーシャルメディアの問題点を考察し、それらに対する心理学的な議論を展開し、意見を述べるができる。(思考・判断・表現) 	II	◎		○	
Hb3-18	マーケティングリサーチ演習	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングとは何かを理解し、マーケティング・リサーチの役割およびプロセスおよびマーケティングリサーチを実施するための調査方法について説明できる。(知識・理解) ・調査を通してデータの収集・整理や解析方法、報告書作成に関するスキルやノウハウを身につける。(技能) ・調査テーマにあった調査法や質問項目を選びだし、適切な質問文を作ることができる。(思考・判断・表現) 	II	○	◎	○	
Hc1-1	生活デザイン論	<ul style="list-style-type: none"> ・社会における様々なデザインの価値・役割を生活者の立場から具体的に説明できる。(知識・理解) ・具体的な事例をもとに、開発プロセスや使用環境を体験することによって、職能領域の流れやユーザーエクスペリエンスを理解・説明できる。(知識・理解) ・持続可能なデザインへの理解を深め、これからの社会におけるデザインのありかたを具体的に提案することができる。(思考・判断・表現) ・フィールドワークやインタビュー等の調査を自分で組み立てて調査・分析を行い、一連の結果を客観的に捉え、スケッチ課題に的確に記述・発表することができる。(思考・判断・表現) 	I	◎		○	

科目ナンバリング	授業科目	到達目標（成績評価 A）	学びのステージ I:1年前期 II:1年後期 III:2年前期 IV:2年後期	DP1 （知識・理解） 社会に貢献する女性としての自立と、自らを表現する能力を身に付ける。 広げる幅と、生活科の学習を通して、食・環境・情報・コミュニケーション等に関する知識・能力を身に付ける。	DP2 （技能） 家庭・社会において生活するために必要なデザイン・情報・コミュニケーション等に関する知識・能力を身に付ける。	DP3 （思考・判断・表現） 社会課題の解決に資する力を身に付ける。	DP4 （関心・意欲・態度） 積極的な態度で、自らを表現し、周囲の人と協力し、豊かな人間性を身に付ける。
Hc2-2	生活プロダクトデザイン演習	<ul style="list-style-type: none"> 生活にかかわるプロダクトデザインに関連する専門的な知識について理解・説明できる。(知識・理解) 演習課題に取り組み、優れた想像力、造形力、表現力を磨き、独創的な創造的思考力と具現化能力を修得した上で、作品を完成させることができる。(技能) 人間工学、安全性、市場性を理解した上で、企画・デザインしたり、具体的な形に表現することに加え、発展的な課題に取り組み、レポートや作品等を通じて、記述・発表できる。(技能) 	I・II	○	◎		
Hc1-3	デッサン（実習）	<ul style="list-style-type: none"> デッサンの基本を学び、造形に対する深い知識を習得し、的確に説明できる。(知識・理解) 基礎演習を積み重ね、テクニックを学ぶことで、あらゆるものに必要なデッサン力を習得し、自らの表現活動に活かせる描写力と洞察力を身に付けることができる。(技能) イラスト制作を通じて表現の楽しさや感性を磨き、日頃から造形作品に親しみ、鑑賞できる態度を養うことができる。(技能) 	I	○	◎		
Hc2-4	カラーコーディネート演習	<ul style="list-style-type: none"> 色彩学の知識（色彩工学・色彩心理・応用色彩学）、および、美しく調和のとれた配色デザインとは何か、ユニバーサルデザインについて充分に理解した上で、得られた知識を学修課題に活用・応用できる。(知識・理解) 演習課題を通じ、優れた色彩の選択ができることに加え、色彩の理論をふまえた表現ができる。(技能) 優れた作品例を鑑賞し、豊かな色彩表現につなげたり、身の回りの色彩環境を創造的に構築することができる。(技能) 	II	○	◎		
Hc3-5	プロダクトデザイン論	<ul style="list-style-type: none"> 生活者の立場からデザインを捉え、デザインが生活に与える影響や責任、文化的・社会的意義が的確に説明できる。(知識・理解) ソリューション・デザイン、ソーシャル・デザイン、サステイナブル、ダイバーシティ等、プロダクトデザインの分野で使用される用語を正しく理解し、デザイン思考の方法論について説明できる。(知識・理解) 感性工学的・人間工学的なデザインの基本に基づき、プロダクトの機能や役割を様々な視点から検討・判断することができる。(思考・判断・表現) 	III	○	◎		
Hc3-6	イラストレーション（実習）	<ul style="list-style-type: none"> イラストレーションの基本を学び、造形に対する知識を習得した上で、様々なテクニックを学び、イラストレーションに必要な的確な描写力と豊かな表現力を習得できる。(技能) イラスト制作を通じて表現に対する感性を養い、イラストレーションの目的である「テーマを伝えること」を理解し、描く過程での試行錯誤を通じて、イラストレーションで明確なメッセージを伝えることができる。(思考・判断・表現) 	III		◎	○	
Hc4-7	彫金実習	<ul style="list-style-type: none"> 「彫金」という金属工芸の伝統技法の習得を通じ、素材や歴史的背景について十分な説明ができる。(知識・理解) 制作を通して様々な工具を的確に使い、作品を作り上げることで、デザイン・造形力・感性を磨く力を修得できる。(技能) 現代における工芸、金属造形のあり方を考え、独自の表現と新たな方向性を探り、デザインに反映できる能力と、具現化できる表現力を発揮し、オリジナル作品を完成させることができる。(技能) 	IV	○	◎		

科目ナンバリング	授業科目	到達目標（成績評価 A）	学びのステージ I:1年前期 II:1年後期 III:2年前期 IV:2年後期	DP1 （知識・理解） 社会に貢献する女性として自立しとらるべき幅を求めたい生活に関するデザイン、情報、環境等の知識・能力を身に付ける。	DP2 （技能） 家庭および社会に生かすために活用するメデア、環境、コミュニケーション等に力を付けている。	DP3 （思考・判断・表現） 社会課題の本質を察し、問題解決力をつけている。	DP4 （関心・意欲・態度） 積極的な学習意欲や誠実な人間性を身に付けている。
Hc2-8	ファッションデザイン演習	<ul style="list-style-type: none"> ファッションに関する素材やシルエット、TPOに応じた装いなどについて具体的に示すことができる。（知識・理解） 服飾デザインの基本的な縫製技術やコミュニケーション能力を身につけることができる。（技能） 表現力、経済性、社会性、環境に配慮した適切な衣服や着装を具体的に説明することができる。（思考・判断・表現） 消費者への提案や適切な助言を具体的に示すことができる。（思考・判断・表現） 	I・II	○	◎	○	
Hc1-9	染色工芸実習	<ul style="list-style-type: none"> 素材である繊維や布の特徴に応じた染色方法を具体的に説明できる。（知識・理解） 伝統的な染織工芸について具体的に説明できる。（知識・理解） 基本的な染色を的確に行うことができる。（技能） 伝統的な文様や染色技法をデザインに取り入れて、表現することができる。（思考・判断・表現） 	I	○	◎	○	
Hc2-10	ファッションデザイン論	<ul style="list-style-type: none"> 近現代のファッション史、ファッションデザインの流れ、ディテール、色彩、トレンド、現代のファッションの問題点について、具体的かつ、詳しく説明できる。（知識・理解） 設定されたテーマに加え、自らで考案したアイデアをもとに、ファッションデザインの企画やプレゼンテーションを通じて、授業で理解した内容を的確に表現できる。（知識・理解） ファッションデザインの変遷に基づき、現在のファッションデザインの問題点を指摘し、消費・生産・流通等の諸課題について具体的に提言することができる。（思考・判断・表現） 	II	◎		○	
Hc2-11	アパレル制作実習	<ul style="list-style-type: none"> 衣服や帽子的制作方法について理解し、具体的に説明することができる。（知識・理解） 衣服や帽子的製作技術を修得し優れた作品を完成させることができる。（技能） TPO やライフステージに応じたファッションを適切に選び、コーディネートを楽しむことができるようになる。（思考・判断・表現） 	II	○	◎	○	
Hc3-12	ファッションビジネス論	<ul style="list-style-type: none"> アパレル・ファッション業界の構造や基本的な知識を修得し、アパレル業界の現状を具体的に説明できる。（知識・理解） アパレル・ファッション分野特有の構造や機能について具体的に説明できる。（知識・理解） アパレル・ファッション業界特有の生産・流通・消費構造を修得し、新たな流通機構やブランドを創造できる。（思考・判断・表現） アパレル・ファッション業界に関心を持って活発にコミュニケーションすることができる。（関心・意欲・態度） 	II	◎		○	○
Hc3-13	和装デザイン実習	<ul style="list-style-type: none"> 浴衣の基本的な構造や機能についての的確に説明できる。（知識・理解） 浴衣の製作や着付けを的確に行うことができる。（技能） 和装についての基本的な知識を理解し、TPO に合った的確な着装を示すことができる。（思考・判断・表現） 和装の優れた機能を具体的に示し、伝えることができる。（思考・判断・表現） 	II	○	◎	○	
Hc4-14	アパレル企画演習	<ul style="list-style-type: none"> グループワークを積極的に行い、コミュニケーション能力を向上させることができる。（技能） アパレルにおける企画の具体的な役割を理解し、提案できる。（思考・判断・表現） アパレル業界の動向や消費者動向に強い関心を持って消費者ニーズを具体的に説明できる。（思考・判断・表現） アパレル・ファッション業界に関心を持って積極的に取り組むことができる。（関心・意欲・態度） 	IV		○	◎	○

科目ナンバリング	授業科目	到達目標（成績評価A）	学びのステージ I:1年前期 II:1年後期 III:2年前期 IV:2年後期	DP1 （知識・理解） 社会に貢献する女性とらえらるる幅を拡大する。生活科学に関するデザイン、情報、環境等の知識・能力を身に付ける。	DP2 （技能） 家庭において生活に活用するために、メデイア、食、環境、コミュニケーション等に力を付けている。	DP3 （思考・判断・表現） 社会課題の本質を捉え、問題解決力を持っている。	DP4 （関心・意欲・態度） 積極的な学習意欲や誠実な人間性を身に付けている。
Hd3-4	フードコーディネート論	・食品のコーディネートに関する総合的な知識を身に付け、論述および実践することができる。（知識・理解） ・フードスペシャリスト資格認定試験に合格できる。（技能） ・実社会で活用されているフードコーディネートについて十分に説明できる。（思考・判断・表現）	II	◎		○	
Hd3-5	調理学実習応用	・調理に必要な詳細な調理理論について理解し、説明でき、充実したレポート作成ができる。（知識・理解） ・日本料理、西洋料理、中国料理の調理操作ができる。（技能） ・調理特性が説明でき、グループワークやレポート作成を通じて、コミュニケーション力や表現力、まとめ方を実践することができる。さらに、アクティブラーニングに積極的に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）	II	○	◎		○
Hd4-6	フードパッケージ実習	・市販されている様々な食品について特徴を理解し、消費者が求めるパッケージについて事例を挙げて説明できる。（知識・理解） ・新たな食品を開発し、それに適したパッケージを作成した上で、食品の魅力をプレゼンテーションできる。（技能） ・消費者が求める食品について理解し、事例を挙げて説明できる。（関心・意欲・態度）	IV	○	◎		○
Hd4-7	スイーツ実習	・調理特性が説明でき、充実したレポート作成ができる。（知識・理解） ・日本、西洋、中国のスイーツ類の調理操作ができる。（技能） ・アクティブラーニングに積極的に取り組むことができ、グループワークやレポート作成を通じて、コミュニケーション力や表現力、まとめ方を実践することができる。（関心・意欲・態度）	IV	○	◎		○
Hd1-8	食物基礎科学	・食品成分の化学的な事項を十分理解することで、これから学ぶ栄養学、食品学等の基礎が十分に説明できる。（知識・理解） ・栄養素や酵素、食品のにおいや味、食品の鑑別方法などに関する事項を十分に説明できる。（思考・判断・表現）	I	◎		○	
Hd1-9	生活基礎演習	・単位の種類や互換性、身の回りのものの性質や特徴について関心を持って、的確に説明できる。（知識・理解） ・実験時の基本的な操作方法や適切な取り扱い方、グループワークやレポート作成を通じて、得られた結果を的確に伝えることができる。（技能）	I	○	◎		
Hd2-10	栄養学	・栄養素の生理機能、消化・吸収・代謝機構について十分に理解した上で、説明することができる。また、フードスペシャリスト試験の出題ポイントを十分に理解して、試験の準備ができる。（知識・理解） ・健康を保持・増進するための食生活の役割について十分に理解し、説明することができる。（思考・判断・表現）	II	◎		○	
Hd2-11	食育演習	・栄養成分について理解し、詳細に説明できる。さらに、生活習慣を整えることの意義や各ライフステージにおける生活習慣に関連した諸問題を理解し、事例を挙げて詳細に説明できる。（知識・理解） ・各ライフステージにおける生活習慣に関連した諸問題を解決する様々な手法を実践できる。（技能）	II	◎	○		
Hd3-12	女性と健康	・女性のライフサイクルやライフサイクルにおける健康問題について理解し、その特徴を、事例を挙げて説明できる。さらに、健康問題を解決するための様々な手法を理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） ・グループワークを通じて、女性における健康について詳細に議論することができる。（技能） ・日頃から健康維持・増進に対する詳細な取り組みが実践できる。（関心・意欲・態度）	II	◎	○		○

科目ナンバリング	授業科目	到達目標（成績評価 A）	学びのステージ I:1年前期 II:1年後期 III:2年前期 IV:2年後期	DP1 （知識・理解） 社会に貢献する女性として自立し、求められる教育と生活に関するデザイン、情報、環境等における能力を身に付ける。	DP2 （技能） 家庭および社会で生活する際に活用するメデイア、食、環境、コミュニケーション等に力を付けている。	DP3 （思考・判断・表現） 社会について問題を見抜く力を身に付けている。	DP4 （関心・意欲・態度） 積極的な学習態度をもち、協調性のある人間性を身に付けている。
Hd4-13	ライフステージ栄養演習	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の化学的性質や代謝、消化酵素について理解を深めることができ、詳細に説明できる。また、乳幼児期から高齢期までの各ライフステージの特徴を理解し、それぞれのライフステージにおいて求められる生活習慣、健康問題について、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） ・栄養計算ソフトが使用できるようになり、得られた結果を用いた説明ができる。（技能） ・各ライフステージの健康問題を理解することの意義および心身が健康で豊かになるための食について総合的に説明できる。（関心・意欲・態度） 	IV	◎	○		○
Hd1-14	食品学実験	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養成分における定量・定性の手法、実験器具の操作法について十分に説明できる。また、実験レポートの書き方を十分に理解し、適切な考察ができる。さらに、加工食品の原理について説明でき、新しい加工食品が十分に開発できる。（知識・理解） ・実験器具の取扱いができ、栄養成分における定量・定性の操作が実践できる。さらに、加工食品が製造できる。（技能） 	I	○	◎		
Hd1-15	嗜好評価処理演習	<ul style="list-style-type: none"> ・官能評価の基本的な知識や実施方法、データ処理方法、官能評価の結果から、食品の嗜好性に及ぼす要因を的確に説明できる。（知識・理解） ・官能評価の手法を適切に選び、統計ソフトを的確に操作することができる。さらに、グループワークを通して、実践力や発信力を積極的に身に付けることができる。（技能） 	I	○	◎		
Hd2-16	食品学	<ul style="list-style-type: none"> ・水の性質、五大栄養素の性質を理解し、水分活性と保蔵性の関係について、代表的な食品を例にして説明できる。また、調理過程における食品成分の化学変化や食品の嗜好性、食品の機能性について総合的に理解し、代表的な食品を例にして説明できる。（知識・理解） ・食材の調理・加工の詳細な事例を説明できる。（思考・判断・表現） 	II	◎		○	
Hd2-17	食品衛生学	<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒の原因となる細菌や寄生虫、自然毒などといった食中毒の特徴について総合的に理解し、事例を挙げて説明できる。さらに、食品の衛生的な取り扱いについて総合的な観点から理解し、食品ごとに事例を挙げて説明できる。また、リスクを回避するための方法や行政の仕組みを理解し、事例を挙げて説明できる。（知識・理解） ・食中毒の実例の事例について、原因やリスク回避の方法を詳細に説明できる。（思考・判断・表現） 	II	◎		○	
Hd3-18	食品の消費と流通	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のが国の食料消費や食生活の変化と食品の流通体系についての現状を説明することができる。（知識・理解） ・学習を通じて、食生活と食産業の健全な発展に役立つフードスペシャリストとしての経済学における応用的知識を使用することができる。（思考・判断・表現） 	II	◎		○	
Hd3-19	フードスペシャリスト論	<ul style="list-style-type: none"> ・食文化や食品流通、食品保蔵について総合的に理解し、日本や世界の食文化について詳細に説明できる。（知識・理解） ・フードスペシャリストについて総合的に理解し、フードスペシャリストの資格について詳細に説明できる。さらに、食にまつわる話題について総合的に理解し、事例を挙げて詳細に説明できる。（思考・判断・表現） 	II	◎		○	
Hd3-20	フードスペシャリスト演習	<ul style="list-style-type: none"> ・嗜好評価処理、調理、食品、栄養、食料経済、食品衛生、フードコーディネートの各分野を学習することによって専門フードスペシャリスト試験合格レベルに到達する。（知識・理解） ・予想問題を詳細に推測できる。（思考・判断・表現） 	II	◎		○	○

11. カリキュラムツリー

ディプロマ・ポリシー	<p>CP4</p> <p>生活科学のコース専門教育科目を修得するにあたって、メテオリア社会コース、生活サイエンスコース、食・健康コースの3つのコースに沿って、体系的・順次性を踏まえて、2年次以降に主としてコースの学びを深めていく科目を体系的に研究・制作に取り組み「卒業セミナー」をコース共通科目として修得する。卒業セミナーは、自己の専門科目と他科目の知識・技能を統合し、卒業論文の執筆を通して、生活科学の発展と社会への貢献を促す。卒業論文の執筆を通して、専門知識を深め、専門性を磨く。</p>
-------------------	--

DP1 <small>(知識・理解)</small> 家庭および社会において、生活者として知識を応用するために必要な、メテオリア、デザイン、食・情報、環境、コミュニケーション等における知識・能力を身に付けている。	DP2 <small>(技能)</small> 家庭および社会において、生活者として知識を応用するために必要な、メテオリア、デザイン、食・情報、環境、コミュニケーション等に関する能力を身に付けている。	DP3 <small>(思考・判断・表現)</small> 社会における課題を捉え、問題の本質を追究し解決力と批判力を身に付けている。	DP4 <small>(関心・関与・態度)</small> 建設的な学修態度を持ち、思いやりのある誠実で協調性に富んだ人間性を身に付けている。
メテオリア社会コース (発展) メテオリア社会論 メテオリア心理学 情報メテオリアデザイン論 DTP演習 Webデザイン演習 マーケティングリサーチ演習	生活サイエンスコース (発展) フロダクトデザイン論 フロダクトデザイン論 食・健康コース 和菓子デザイン実習 インテリアCAD実習 インテリアCAD実習 インテリアCAD実習	メテオリア社会コース (発展) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習	メテオリア社会コース (発展) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習
メテオリア社会コース (基礎) メテオリア社会論 メテオリア心理学 情報メテオリアデザイン論 DTP演習 Webデザイン演習 マーケティングリサーチ演習	生活サイエンスコース (基礎) フロダクトデザイン論 フロダクトデザイン論 食・健康コース 和菓子デザイン実習 インテリアCAD実習 インテリアCAD実習 インテリアCAD実習	メテオリア社会コース (基礎) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習	メテオリア社会コース (基礎) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習

1-1 卒業科目・特別演習科目 (発展)

メテオリア社会コース (発展) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習	生活サイエンスコース (発展) フロダクトデザイン論 フロダクトデザイン論 食・健康コース 和菓子デザイン実習 インテリアCAD実習 インテリアCAD実習 インテリアCAD実習	メテオリア社会コース (基礎) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習	メテオリア社会コース (基礎) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習
---	--	---	---

ディプロマ・ポリシー	<p>CP3</p> <p>生活科学のコース専門教育科目を修得するにあたって、メテオリア社会コース、生活サイエンスコース、食・健康コースの3つのコースに沿って、体系的・順次性を踏まえて、2年次以降に主としてコースの学びを深めていく科目を体系的に研究・制作に取り組み「卒業セミナー」をコース共通科目として修得する。卒業セミナーは、自己の専門科目と他科目の知識・技能を統合し、卒業論文の執筆を通して、生活科学の発展と社会への貢献を促す。卒業論文の執筆を通して、専門知識を深め、専門性を磨く。</p>
-------------------	--

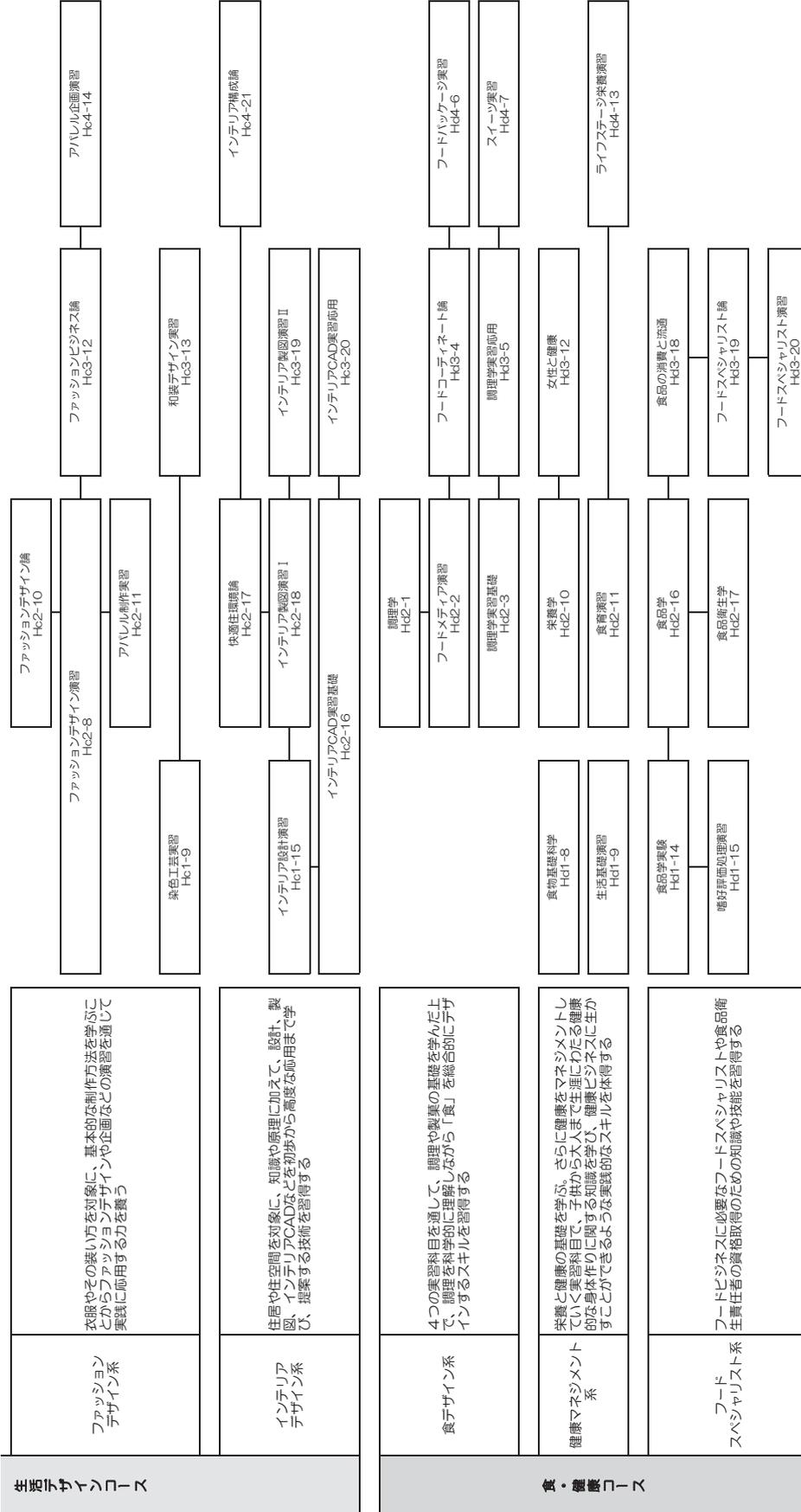
メテオリア社会コース (発展) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習	生活サイエンスコース (発展) フロダクトデザイン論 フロダクトデザイン論 食・健康コース 和菓子デザイン実習 インテリアCAD実習 インテリアCAD実習 インテリアCAD実習	メテオリア社会コース (基礎) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習	メテオリア社会コース (基礎) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習
---	--	---	---

1-2 卒業科目

メテオリア社会コース (発展) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習	生活サイエンスコース (発展) フロダクトデザイン論 フロダクトデザイン論 食・健康コース 和菓子デザイン実習 インテリアCAD実習 インテリアCAD実習 インテリアCAD実習	メテオリア社会コース (基礎) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習	メテオリア社会コース (基礎) メテオリア社会論 メテオリア心理学 マーケティングリサーチ演習
---	--	---	---

12. 履修系統図

分野	1年次		2年次	
	前期	後期	前期	後期
コース共通専門教育科目	生活科学基礎系 生活科学を成り立たせている最も基本的な学問分野について学ぶ	衣生活論 Ha1-1 住生活論 Ha1-3	食生活論 Ha2-2	
	キャリア支援系 生活科学の学びを活かした女性の自立を学ぶ	キャリア導入入門 Ha1-10	キャリアを養える Ha2-11	
	特別演習系 主体的な学びから専門性を高める	PC活用演習 Ha1-5 キャリア導入入門 Ha1-10	CG基礎演習 Ha2-6 キャリアを養える Ha2-11	CG応用演習 (メディア社会コース) Hb3-7 心の健康 Hb2-4
	メディア社会系 ソーシャルメディアを中心に生活に密着したメディアについての最新の状況や持続可能な発展を支える社会的役割について理解する	メディア社会学 Hb1-1 ポッドキャスト論 Hb1-2	ソーシャルメディア論 Hb2-3 メディアカルチャー演習 Hb2-4	卒業ゼミナール Ha4-13 サステイナブル社会論 Hb4-6
メディア社会コース	メディアデザイン系 情報処理や情報活用能力、企画・プレゼンテーション能力を養い、ビジネス実践とさまざまなクリエイティブ制作の実践力を身に付ける	メディアデザイン論 Hb1-7 CG演習A (イラストレーター) Hb1-8	メディアデザイン論 Hb1-7 CG演習B (フォトショップ) Hb2-9 アニメーション制作演習 Hb2-10	ユニバーサルデザイン論 Hb4-11 DTP演習 Hb4-12 Webデザイン演習 Hb4-13
	メディア心理系 新たなメディア社会が生活者の行動・心理に及ぼす影響について理解する	メディア心理演習 Hb1-14 心理データ解析演習 (SPSS) Hb1-15	消費者の心理 Hb2-16 マーケティングリサーチ演習 Hb3-18	メディア心理学 Hb3-17 マーケティングリサーチ演習 Hb3-18
	プロダクトデザイン系 生活に必要な道具や製品を対象に、形、大きさ、色彩などの要素について学び、演習や実習を通じてデザインするスキルを身に付ける	生活デザイン論 Hc1-1 生活プロダクトデザイン演習 Hc2-2 デザイン Hc1-3	生活プロダクトデザイン演習 Hc2-2 イラストレーション Hc3-6 カラーコーディネート演習 Hc2-4	彫金実習 Hc4-7 プロダクトデザイン論 Hc3-5 イラストレーション Hc3-6



ナンバリングの読み方 (例) 衣生活論：Ha1-1

H 学科	H：生活科学科	a 分野	a:コース共通専門科目 b:メディア社会コース c:生活デザインコース d:食・健康コース	1 順次性	1:入門、基礎科目 2:中級、基幹科目 3:上級、発展科目 4:学士卒業レベル	-1 通し番号	一意の数字を 表す通し番号
----------------	---------	----------------	--	-----------------	--	-------------------	------------------

13. 履修モデル

科目区分	授業科目名	単位数	配当年次	【履修モデルA】 メディア社会コース デザインスキルを学ぶ演習科目を中心に履修するモデル	【履修モデルB】 生活デザインコース 3つの系をバランス良く学び、生活デザインを多角的に履修するモデル	【履修モデルC】 食・健康コース フードスベジタリアンに関する科目を中心に履修するモデル	【履修モデルD】 専門分野の学びを幅広く深めるため、他コース・短大開放科目を履修するモデル (メディア社会コースの例)	○選択科目	
								○必修科目	○選択科目
自備と第2コア	基礎ゼミナール	1	1前	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	論理的思考・文章表現	1	1前						
	ライフプランと自己実現	2	1後	○	○	○	○	○	
	課題解決ワークショップ	1	1後						
	データサイエンスとITの基礎	2	1前・後	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	情報処理	2	1前・後	○	○	○	○	○	○
	情報の分析と活用A	2	1前・後	○	○	○	○	○	○
	情報の分析と活用B	2	1前・後	○	○	○	○	○	○
	英語A (リスニング・スピーキング)	2	1通	○	○	○	○	○	○
	英語B (リーディング・ライティング)	2	1通	○	○	○	○	○	○
	芸術をひらく	2	1前・後	○	○	○	○	○	○
	心理を学ぶ	2	1前・後	○	○	○	○	○	○
	地域社会と家族を学ぶ	2	1前・後	○	○	○	○	○	○
	経済を学ぶ	2	1前・後	○	○	○	○	○	○
創造とキャリアコア	2	1前・後	○	○	○	○	○	○	
協働とリーダーシップコア	社会を学ぶ	2	1前・後	○	○	○	○	○	○
	数学への招待	2	1前・後	○	○	○	○	○	○
	生物學への招待	2	1前・後	○	○	○	○	○	○
	化学への招待	2	1前・後	○	○	○	○	○	○
	健康スポーツ実習A・B	1	1前・後	○	○	○	○	○	○
	企業と社会のしくみ	2	2前・後	○	○	○	○	○	○
	マーケティング	2	2前・後	○	○	○	○	○	○
	女性の生き方と社会	2	2前・後	○	○	○	○	○	○
	現代社会の諸課題(経済・産業)	2	2前・後	○	○	○	○	○	○
	現代社会の諸課題(経済・科学)	2	2前・後	○	○	○	○	○	○
	現代社会の諸課題(文化・芸術)	2	2前・後	○	○	○	○	○	○
	現代社会の諸課題(生活・地域)	2	2前・後	○	○	○	○	○	○
	現代社会の諸課題(メディア・表現)	2	2前・後	○	○	○	○	○	○
	衣生活論	2	1前・2前	○	○	○	○	○	○
衣食生活論	2	1後・2後	○	○	○	○	○	○	
住生活論	2	1後・2後	○	○	○	○	○	○	
心の健康	2	1後・2後	○	○	○	○	○	○	
ICT活用演習	1	1前	○	○	○	○	○	○	
CG基礎演習	1	1後	○	○	○	○	○	○	
CG応用演習	1	2前	○	○	○	○	○	○	
キャリア実務入門	2	1前	○	○	○	○	○	○	
キャリアを考える	2	1後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
キャリアを磨く	2	1後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
交換系	2	1後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
特別演習系	4	2通	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
メディア社会論	2	2前	○	○	○	○	○	○	
ポップカルチャー論	2	1前	○	○	○	○	○	○	
ソーシャルメディア論	2	1後	○	○	○	○	○	○	
メディアカルチャー演習	2	1後	○	○	○	○	○	○	
情報メディア演習	2	1後	○	○	○	○	○	○	
ゼミナール	2	2前	○	○	○	○	○	○	
ゼミナール	2	2後	○	○	○	○	○	○	
×									

学年	科目名	単位数	履修可能	履修済み	履修予定	履修可能	履修済み	履修予定	履修可能	履修済み	履修予定
1年次	メディアデザイン系	メディアデザイン論	2	○							
		CG演習A(イラストレーター)	2	○							
		CG演習B(フォトショップ)	2	○							
		アニメーション制作演習	2	○							
		ユニバーサルデザイン論	2	○							
		DTA演習	2	○							
		Webデザイン演習	2	○							
		メディア心理演習	2	○							
		心理学者タレント演習(SPSS)	2	○							
		消費者の心理	2	○							
	メディア心理系	メディア心理学	2	○							
		マーケティングリサーチ演習	2	○							
		生活デザイン論	2	○							
		生活プロダクトデザイン演習	4	○							
		テラサツ(実習)	1	○							
		カラーコーディネート演習	2	○							
		プロダクトデザイン論	2	○							
		イラストレーション(実習)	1	○							
		影響演習	1	○							
		ファッションデザイン演習	4	○							
プロダクトデザイン系	染色工芸実習	1	○								
	ファッションデザイン論	2	○								
	デジタル制作実習	1	○								
	デジタル制作実習	2	○								
	ファッションビジネス論	2	○								
	和装デザイン実習	1	○								
	アパレル企画演習	2	○								
	インテリア設計演習	2	○								
	インテリアCAD実習基礎	2	○								
	快適住環境論	2	○								
インテリアデザイン系	インテリア視図演習	2	○								
	インテリア視図演習	2	○								
	インテリアCAD実習応用	1	○								
	インテリア構成論	2	○								
	調理学	2	○								
	フードメディア演習	2	○								
	調理実習基礎	1	○								
	フードコーディネート論	2	○								
	調理実習応用	1	○								
	フードパッケージ実習	1	○								
食・健康マネジメント系	スイーツ実習	1	○								
	食物基礎科学	2	○								
	生活基礎演習	2	○								
	栄養学	2	○								
	食育演習	2	○								
	女性と健康	2	○								
	ライフステージ栄養演習	2	○								
	食品学実験	1	○								
	嗜好加工処理演習	2	○								
	食品学	2	○								
フードスタビリティ系	食品衛生学	2	○								
	食品の消費と流通	2	○								
	フードスタビリティ論	2	○								
	フードスタビリティ演習	2	○								
	古典文学を讀む1	2	○								
	古典文学の研究1	2	○								
	映画論	2	○								
	カウセリング論	2	○								
	資格と応用	2	○								
	1年次 単位数	40									
2年次 単位数	22										
合計単位数	62										
1年次 単位数	40										
2年次 単位数	24										
合計単位数	64										

48

■ 文科

1. 文科の人材養成目的

文科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「学生自身が自らの将来を切り開いていくために自ら積極的に学ぼうとする意欲を引き出し、ひとりの自立した人間として成長していくための、表現する能力、コミュニケーションの能力、理解する力、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識等を涵養し、そして、他者を思いやり人のために尽くす生き方ができるような誠実で友愛に溢れた人間性を持つ女性を育成する」ことである。

2. 文科の教育目標

自分らしく社会を生き抜くための幅広い教養と、言語・文学・人間心理・文化に係る専門的知識を教授し、社会に対する理解力や問題意識、自己表現のための言語力・コミュニケーション力を育むとともに、周りの人々に対する思いやりの心、他者と協働し、主体的に行動する力を持った、自立した人間として広く社会に貢献できる女性を育成することを教育目標とする。

3. 文科の3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）】

文科は、本科の課程を修め、62単位以上の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような社会に広く貢献できる自立した女性としての必要な知識、技能並びに資質を備えた人物に学位を授与する。

DP1【知識・理解】

ことばをとおして世界と関り、広く社会に貢献するための知識と教養をもち、それを伝えることができる。

DP2【技能】

文章表現の技術を身につけ、コミュニケーション・スキルを修得し、社会の人々と協働して行動することができる。

DP3【思考・判断・表現】

言語・文学・人間心理・文化に通じ、自分に相応しい社会的テーマを見つけ出し追求する問題意識を持ち、表現することができる。

DP4【関心・意欲・態度】

社会的リテラシーとリーダーシップを有し、まわりの人々への思いやりをもった配慮と想像力を兼ねそなえ、自律した市民としての学習意欲を身につけている。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）】

文科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などを学生に修得させるために必要な授業科目を配置し、順次性に配慮し体系的かつ効果的に教育課程を編成する。

教育課程編成及び授業実施にあたっての、教育内容、教育方法、学修成果の評価の在り方についての方針を次の通り定める。

＜教育内容＞

【教養教育科目】

- ・自己を確立し、生涯学び続けるための基礎的な力を育成する。

- ・大学生活・社会生活を送る上で身に付けておくべき基本的な表現力、情報活用能力および健康な日常生活を送るための知識・技能を育成する。
- ・専攻分野の枠を超えて共通に求められる知識と技能の伝達により、知的好奇心を喚起し、豊かな人間性や柔軟な思考を育成する。
- ・新たな価値を創造し、社会を生き抜くための基礎的な力を育成する。
- ・現代社会における諸課題に自らの使命・役割・責任を関連付け、適切に対処できる知識と能力を育成する。
- ・他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な能力を育成する。
- ・専攻する学問の理解を助け、関連する諸分野への幅広い視点を獲得するための知識・技能を育成する。

【専門教育科目】

■専門発展科目 CP4

日本文学・表現コース、英語コース、心理学コースの3つの分野に、これまでの学修を深めていく専門科目を配置する。専門発展科目では、学生の関心・意欲や目指している将来像にしたがって、各分野の科目を履修すると同時に、一つの分野にとどまらない幅広い知識・教養の獲得を目指す。

また、それぞれの学修をもとに設定したテーマを追求し、専門的知識・技術修得の成果を生かす演習科目を配置し、思考能力・表現能力の更なる向上をサポートする。

■専門基幹科目 CP3

「専門基礎科目」で得た知識・技能との繋がりをもとに、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識を涵養するための科目を設けて、未来を切り開く積極性や、他者を思いやる豊かな人間性をもった女性を育成する。また、各分野の全体像を理解するための科目を配し、専門性を発展させる基盤を作り上げる。

■専門基礎科目 CP2

日本文学・表現コース、英語コース、心理学コースの各分野を学ぶ目的や方法を理解するための諸科目や、「文章表現法」「コミュニケーション論」及びプレゼンテーションの力を伸ばす「伝える技術」などの共通科目を設け、自律した人間として成長していくための文章表現能力やコミュニケーション能力の養成を目指す。

■教養教育科目 CP1

ひとりの女性・ひとりの人間として日々の生活を豊かに充実して生き、主体的に社会に参加して責任ある役割を果たすために、以下の「自律と努力コア」「創造とキャリアコア」「協働とリーダーシップコア」に区分する。

＜教育方法＞

- (1) 教育内容の実施にあたっては、その内容に相応しい適切な授業形態を用い、必要に応じてアクティブ・ラーニングの手法を適切に取り入れる。
- (2) 授業開始後の学修の指針として機能する適切なシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。
- (3) シラバスにおいて、事前・事後の学修内容、目安の学修時間を提示し、事前・事後学修を担保する。
- (4) レポート等の課題を出す時期と課題の整合性をはかり、期中にフィードバックを行う。
- (5) 思考力、判断力、表現力を養うとともに、他者を理解し他者と協力する態度を身に付けるためにグループディスカッションやグループワークを取り入れる。
- (6) 学修効果を高めるため、少人数授業を取り入れ、担任教員や助手による個別指導を取り入れる。
- (7) 社会の仕組みの理解、社会人基礎力を身に付けるため、学外施設等を活用した授業や外部講師を招聘した特別講義を実施する。

＜学習成果の評価＞

- (1) 各授業科目の到達目標に応じて、求める到達水準を明確化して、その到達状況を適切に評価する。

- (2) 各授業科目の学修成果の最終的な評価は試験により行う。また、授業科目の内容に応じて、日常的な課題、小テスト、レポート、意欲・態度等を適切に評価する。
- (3) 1年次において、年度初めのプレイスメントテストと年度末の学年末アチーブメントテストを実施することにより、英語の語学力向上を定量的に評価する。
- (4) 1年次から2年次に進級するためには、卒業に必要な62単位のうち20単位以上を修得していることを条件とする。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】

文科は、ディプロマ・ポリシーに定める知識、技能などの修得を目指し、カリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるための条件として、次のような知識・技能、能力並びに目的意識・意欲を備えた人物を求める。

- (1) 高等学校卒業相当の知識があり、入学後の修学に必要な技能を有している。(知識・技能)
- (2) 「国語」と「英語」に興味と学習意欲を持ち、読む・書く・聞く・話すという基礎的な技能を高めることに喜びを見出すことができる。また、数量的な思考力を養うために「数学」を幅広く学修しているとより良い。(知識・技能)
- (3) 課題に対して多様なものの見方ができ、論理的に考える力を有し、授業を通して「自分」を認識できる思考力・判断力を持つ事ができる。(思考力・判断力・表現力)
- (4) 他者との意思疎通をはかり、目的達成に向かって協働できるようなコミュニケーションの能力を有している。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- (5) 人の心を理解し、他者を思いやり、人のために尽くす価値観を大事にすることができる。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
- (6) 将来にわたり、ことばとところに対する深い理解を持つことを心がけ、自分と人の人生を大切にすることができる。(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

4. 学科の概要

文科では次のような学生を受け入れています

- 1 将来を自分の力で切り開いていこうとする意欲を持った人
- 2 表現する能力や、コミュニケーションの能力を高めようと思っている人
- 3 読書が好きで、文章を書く力や読解力を身に付けたいと思っている人
- 4 知的探求心を持ち、豊かな文化的教養を身に付けたいと思っている人
- 5 世界の文化に関心を持ち、異文化に触れてみたいと思っている人
- 6 人の心を理解し、他者を思いやり、人のために尽くす価値観を大事にしている人

文科の科目についての説明

文科は、日本文学・表現コース、英語コース、心理学コースの3つのコースからなる学科です。各コースとも特色あるカリキュラムを用意し、それぞれのコースに関する専門的な知識と豊かな人間性とを兼ね備えた、新しい時代にふさわしい人材の養成を目指しています。文科全体としてはリテラシー教育に力を入れており、各コース共通の「文章表現法」「コミュニケーション論」及びプレゼンテーションの力を伸ばす「伝える技術」の科目を設け、一人の自立した人間として成長していくための、文章表現能力やコミュニケーション能力の養成を目指していま

す。また、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識等を涵養するための共通科目として、「カルチャー科目」「キャリアサポート科目」を設けています。以上のように、文科のカリキュラムは、各コースの専門科目と共通科目、さらには、全学共通の教養教育科目を通して、一人の自立した人間として未来を切り開く積極性や、豊かな表現能力、コミュニケーションの能力、他者を思いやる豊かな人間性を持った女性を育成することを目指しています。

5. カリキュラムの全体像

文科のカリキュラムは下記の表のとおり、「教養教育科目」と「専門教育科目」から構成されています。

教養教育科目 (全学共通)	①自律と努力コア ②創造とキャリアコア ③協働とリーダーシップコア [11～17ページに解説]		
専門教育科目	リテラシー基礎（3コース共通） カルチャー（3コース共通） キャリアサポート（3コース共通） [52～53ページに解説]		
	日本文学・表現コース 専門科目 ①リテラシー ②リテラチャー ③クリエイト [54ページに解説]	英語コース 専門科目 ①4 Skills ② Language & Literature ③ Business Skills [54ページに解説]	心理学コース 専門科目 ①自分を知る ②心理学の基礎を学ぶ ③人間を知る・学ぶ [54ページに解説]

6. 専門教育科目

専門教育科目は、それぞれのコースの教育課程に従って設けられています。なお、各コースの共通科目として「リテラシー基礎」「カルチャー」「キャリアサポート」があります。

〔日本文学・表現コース〕

日本文学・表現コースは、**リテラシー**（ことば）・**リテラチャー**（文学）・**クリエイト**（創造）・**カルチャー**（教養）の2L&2Cを軸に、現代の社会が要求する知性と教養とを身につけ、広い分野で活躍できる人材の育成を目指しています。履修上の最大の特徴は、専門科目の**選択の自由さ**にあります。特定の分野を集中的に学ぶことも、まんべんなく幅広く学ぶことも、みなさんの希望次第なのです。

リテラシー部門では、特に文章表現を重視し、ことばの技術を全員で学びます。また現代社会で情報を的確に選択し活用するために、「現代のことば」「コミュニケーション論」などの科目を設けています。**リテラチャー**部門では、日本文学についての基本的知識や鑑賞方法を学びます。1年次の基礎的な講義では読解力を養い、2年次の古典文学や近代現代文学の研究では、各時代の作品や資料を、より深く掘り下げます。また、少人数制の「文学とことばのセミナー」では研究やものの考え方を身につけられるよう、きめ細かく指導しています。

クリエイト部門では児童文学、映画・演劇論などから、小説の創作方法を作家から実地に指導を受けられる「文学創作演習」やアニメについて学ぶ「アニメの物語学」といった科目、また**カルチャー**部門では、「ジェンダー論」「こども文化論」「環境文化論」「映像メディア論」など、視野を広げることのできる多彩な科目を履修できます。

〔英語コース〕

英語コースでは '**4 Skills**'、'**Language & Literature**'、'**Business Skills**' の3つを柱に、英語の運用能力と英文学・英米文学・国際社会の教養を身につけ、社会で活躍できる人材の養成を目的としています。

4 Skills の分野では、1年次は Reading I・II、Writing I・II、Listening I・II、Oral English I・II の習熟度別のクラスで「読む・書く・聞く・話す」の英語運用能力の確実なステップアップを図ります。2年次の English for Special Purposes では、就職や進学に役立つ内容や日常英会話・外国文化を学びながら、総合的な英語運用能力の向上を図ります。

Language & Literature の分野では、英語の分析的な研究、英米文学作品の鑑賞、異文化の理解など、英語の知識ばかりではなく幅広い教養も身につけられるような授業を設置しています。

Business Skills の分野は、社会人になってから役に立つ技術と教養を身につけることを目指しており、News English、Business English、通訳法、翻訳法などの授業があります。また、TOEIC 演習を設置して、習熟度別のクラスで各自のレベルに合った内容を効率よく学び、卒業時まで TOEIC テスト 500 点以上の取得を目指します。

授業の他に、年1回の文科主催の英語スピーチコンテストや大学・短大による海外語学研修を通して、英語によるコミュニケーション能力の向上を図り、異文化への理解を深めることに努めます。

〔心理学コース〕

心理学コースは、心を「客観的」にとらえる事を通して、人との「コミュニケーションの能力」や自分あるいは他者を理解する力を身につけ、自分を表現する力を養うコースです。カリキュラムは、大きく「**自分を知る**」「**心理学の基礎を学ぶ**」「**人間を知る・学ぶ**」の三つに分かれていますが、この他に、文科の共通科目として、「リテラシー基礎」「カルチャー」「キャリアサポート」科目群があります。「自分を知る」は、表現する力と、心理学の基礎となる**自分や他人の心を分析する方法**を学びます。「心理学の基礎を学ぶ」では、心理学という学問の基礎を体系的に学びます。「人間を知る・学ぶ」では、心理学の応用的な知識を学びます。2年次には「**心理学卒業演習**」を必修で履修することになりますが、ここでは心理学コースで学んだことを通して、教員による指導のもと卒業論文作成に挑みます。このように心理学コースでは、**心理学の基礎的な知識のみならず、幅広くかつ深い知識**を習得できるような科目構成になっています。

7. 卒業の要件

1. 文科の修業年限は2年です。2年間で所定の単位を修得できない場合は、在学期間を延長することができますが、通算して4年を超えることはできません。
2. 文科に2年以上在学し、所定の単位数を修得した者は、学位記が授与され、短期大学士（文科）の学位が与えられます。
3. 1年次終了時の修得単位数が20単位未満の場合は2年次に進級できません。
4. 卒業に必要な最低の単位数は、次の通りです。

(数字は単位数)

区分		コース		英語コース		心理学コース	
		日本文学・表現コース					
教養教育科目	必修科目	4	16	4	16	4	16
	選択必修科目	4		4		4	
	選択科目	8		8		8	
専門教育科目	必修科目	14	46	18	46	12	46
	選択必修科目	18		17		16	
	選択科目	14		11		18	
合計		62		62		62	

卒業要件単位を超えて修得した教養教育科目の単位は、専門教育科目の単位には加算されません。

卒業要件単位を超えて修得した専門教育科目の単位は、教養教育科目の単位には加算されません。

卒業要件単位数の見かた

授業科目区分は学科の定める名称によるほか、履修の自由度に応じて次のように分けられます。

必修科目	必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	指定された複数科目の中から決められた単位数を修得しなければならない科目
選択科目	各自の自由意志に基づいて選択履修する科目

8. 教育課程（カリキュラム）および履修方法

教育課程（カリキュラム）表の見かた

- 卒業要件の欄の単位数は、卒業に必要な最低の単位数を示しています。
 必修科目……… 1科目ごとに横線で区切られ、単位数が記入されています。
 選択必修科目… 2科目以上にわたる欄の中央に単位数が記入されています。
 選択科目……… 空欄になっています。

2. 開講期間の表示

記号	記号の意味
無印	半期（前期または後期）開講
★	通年開講
※	事前貼り付け科目

3. 科目ナンバリング

科目ナンバリングは、授業科目に番号を付し、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系的性を明らかにしているものです。学生は自身の履修する科目の参考にしてください。

<教養教育科目>

教育課程（カリキュラム）

【教養教育科目ナンバリング指針】

学部等	分野英語名	分野コード	科目分類	科目分類コード	学修段階	学修段階コード	科目分類ごとの識別コード
全学共通教育（教養教育）	Liberal Arts	L	自立・自活のための基礎科目	a	入門レベル	1	1
			情報リテラシー	b	中級レベル	2	2
			英語	c	上級レベル	3	3
			初習外国語	d	学士卒業レベル	4	4
			人間を理解するための教養	e	-		5
			社会を理解するための教養	f			6
			自然を理解するための教養	g			7
			身体と健康を管理するための教養	h			.
			キャリアを創造するための教養	i			.
			現代社会の諸課題の解決	j			.
			課題解決実践演習	k			.
			リーダーシップ開発	l			.

例：基礎ゼミナール：La1-1

【専門教育科目ナンバリング指針】

学科等	分野英語名	分野コード	中分類 (コース分類)	中分類 コード	小分類 (科目分類)	科目分類コード	学修段階	学修段階コード	科目分類ごとの 識別コード
文科	Language and Literature	A	日本文学・表現コース	I	リテラシー	a	入門、基礎科目	1	一連の数字を 表す通し番号
					リテラチャー	b	中級、基幹科目	2	
					クリエイティブ	c	上級、発展科目	3	
					セミナー	d	短期大学学士 卒業レベル	4	
			4-skills	a					
			英語コース	II	Language&Literature	b	-		
					BusinessSkills	c			
					卒業セミナー	d			
			心理学コース	III	自分を知る	a	-		
					心理学の基礎を学ぶ	b			
					人間を知る・学ぶ	c			
					ゼミナール・卒業論文	d			
			コース共通専門科目	IV	リテラシー基礎	a	-		
					カルチャー	b			
					キャリアサポート	c			

教養教育科目（各コース共通）

		科目 ナンバリング	授業科目	年次	単位	卒業要件
努力と自律と ココア	自立・自活のための基礎科目	La1-1	基礎ゼミナール ※	1	1	1
		La1-2	論理的思考・文章表現 ※	1	1	1
		La1-3	ライフプランと自己実現 ※	1	2	
		La1-4	課題解決ワークショップ	1	1	
創造とキャリアココア	情報リテラシー	Lb1-1	データサイエンスと ICT の基礎	1	2	2
		Lb1-2	情報処理	1	2	
		Lb2-3	情報の分析と活用 A	1・2	2	
		Lb2-4	情報の分析と活用 B	1・2	2	
	英語	Lc1-1	★英語 A (リスニング・スピーキング) ※	1	2	2
		Lc1-2	★英語 B (リーディング・ライティング)	1	2	
		Lc2-3	★アドバンスト英語 A (ビジネス口頭表現)	2	2	
		Lc2-4	★アドバンスト英語 B (ビジネス文章表現)	2	2	
		Lc2-5	★アドバンスト英語 C (TOEIC)	2	2	
	初習外国語	Ld1-1	フランス語 I (入門)	1	2	2
		Ld1-2	フランス語 II (表現)	1	2	
		Ld2-3	★応用フランス語 (総合)	2	2	
		Ld1-4	中国語 I (入門)	1	2	
		Ld1-5	中国語 II (表現)	1	2	
		Ld2-6	★応用中国語 (総合)	2	2	
		Ld1-7	ドイツ語 I (入門)	1	2	
		Ld1-8	ドイツ語 II (表現)	1	2	
		Ld2-9	★応用ドイツ語 (総合)	2	2	
		Ld1-10	★コリア語 I (入門)	1	2	
		Ld1-11	★コリア語 II (表現)	1	2	
		Ld1-12	★スペイン語 I (入門)	1	2	
		Ld1-13	★スペイン語 II (表現)	1	2	
		Ld1-14	★イタリア語	1	2	
		Ld1-15	★アラビア語	1	2	
		Ld1-16	★基礎日本語 (留学生対象)	1・2	2	
		Ld2-17	★応用日本語 (留学生対象)	1・2	2	
	人間を理解するための教養	Le1-1	日本の歴史を学ぶ	1・2	2	2
		Le1-2	世界の歴史を学ぶ	1・2	2	
		Le1-3	人間と地理を学ぶ	1・2	2	
		Le1-4	文学をひらく	1・2	2	
		Le1-5	芸術をひらく	1・2	2	
		Le1-6	哲学とは何か	1・2	2	
		Le1-7	心理を学ぶ	1・2	2	
		Le1-8	自己開発	1・2	2	
社会を理解するための教養	Lf1-1	法律を学ぶ (日本国憲法)	1・2	2	2	
	Lf1-2	法律を学ぶ (概論)	1・2	2		
	Lf1-3	政治を学ぶ	1・2	2		
	Lf1-4	倫理学とは何か	1・2	2		
	Lf1-5	国際関係を学ぶ	1・2	2		
	Lf1-6	地域社会と家族を学ぶ	1・2	2		
	Lf1-7	経済を学ぶ	1・2	2		
	Lf1-8	社会を学ぶ	1・2	2		
自然を理解するための教養	Lg1-1	自然と地理を学ぶ	1・2	2	2	
	Lg1-2	数学への招待	1・2	2		
	Lg1-3	生物学への招待	1・2	2		
	Lg1-4	物理学への招待	1・2	2		
	Lg1-5	化学への招待	1・2	2		
身体と健康を管理するための教養	Lh1-1	健康スポーツ実習 A	1・2	1	2	
	Lh1-2	健康スポーツ実習 B	1・2	1		
キャリアを創造するための教養	Li2-1	企業と社会の仕組み	2	2	2	
	Li2-2	マーケティング	2	2		
	Li2-3	女性の生き方と社会	2	2		
リーダーシップココア	現代社会の諸課題の解決	Lj2-1	現代社会の諸課題 (経済・産業)	2	2	2
		Lj2-2	現代社会の諸課題 (環境・科学)	2	2	
		Lj2-3	現代社会の諸課題 (文化・芸術)	2	2	
		Lj2-4	現代社会の諸課題 (生活・地域)	2	2	
		Lj2-5	現代社会の諸課題 (メディア・表現)	2	2	
	課題解決実践演習	Lk2-1	★教養総合ワークショップ A	1・2	4	
リーダーシップ開発	Ll3-1	★教養総合ワークショップ B	2	4		
		ワークショップファシリテーション	2	2		
必修科目						4
選択必修科目						4
上記全科目より						8
計						16

文科

専門教育科目（日本文学・表現コース）

区分	科目 ナンバリング	科目名	履修年次	単位数	卒業要件	備考
基礎 リテラシー	AV a1-1	文章表現法	1	2	2	文科共通科目
	AV a1-2	コミュニケーション論	1・2	2	2	
	AV a1-3	伝える技術	1・2	2		
リテラシー	AI a1-1	ことばの仕組みⅠ	1・2	2	2	
	AI a2-2	ことばの仕組みⅡ	1・2	2		
	AI a1-3	現代のことばⅠ	1・2	2	2	
	AI a2-4	現代のことばⅡ	1・2	2		
リテラチャー	AI b1-5	★古典文学の歴史	1・2	4	4	
	AI b1-6	★近代文学の歴史	1・2	4		
	AI b2-7	古典文学を読むⅠ	1	2	6	
	AI b2-8	古典文学を読むⅡ	1	2		
	AI b2-9	近代現代文学を読むⅠ	1	2		
	AI b2-10	近代現代文学を読むⅡ	1	2	6	
	AI b3-11	古典文学の研究Ⅰ	2	2		
	AI b3-12	古典文学の研究Ⅱ	2	2		
	AI b3-13	近代現代文学の研究Ⅰ	2	2		
	AI b3-14	近代現代文学の研究Ⅱ	2	2		
セミナー	AI d2-20	★文学とことばのセミナー	1	2	2	
	AI d4-21	★文学とことばの卒業セミナー	2	4	4	
クリエイティブ	AI c2-15	文学創作演習	1・2	2		
	AI c3-16	児童文学	1・2	2		
	AI c3-17	映画・演劇論	1・2	2		
	AI c3-18	サブカルチャー論	1・2	2		
	AI c3-19	アニメの物語学	1・2	2		
カルチャー	AV b2-4	伝統文化論	1・2	2	文科共通科目	
	AV b2-5	地域文化論	1・2	2		
	AV b2-6	こども文化論	1・2	2		
	AV b2-7	ジェンダー論	1・2	2		
	AV b2-8	映像メディア論	1・2	2		
	AV b2-9	出版メディア論	1・2	2		
	AV b2-10	環境文化論	1・2	2		
	AV b2-11	からだと健康	1・2	2		
	AV b2-12	東京学	1・2	2		
キャリアサポート	AV c2-13	観光英語を学ぶⅠ	1・2	2	文科共通科目	
	AV c2-14	観光英語を学ぶⅡ	1・2	2		
	AV c2-15	漢字を学ぶ	1・2	2		
	AV c2-16	秘書実務を学ぶⅠ	1・2	2		
	AV c2-17	秘書実務を学ぶⅡ	1・2	2		
	AV c2-18	キャリアデザイン演習	1	2		2
上記専門科目より 14 単位 (他学科・他コース開放科目 8 単位を含む・注)					14	

★通年科目

専門教育科目（英語コース）

区分	科目 ナンバリング	科目名	履修年次	単位数	卒業要件	備考
リテラシー 基礎	AMa1-1	文章表現法	1	2	2	文科共通科目
	AMa1-2	コミュニケーション論	1・2	2		
	AMa1-3	伝える技術	1・2	2		
4 Skills	AIIa1-1	Reading I	1	1	1	
	AIIa1-2	Writing I	1	1	1	
	AIIa1-3	Listening I	1	1	1	
	AIIa1-4	Oral English I	1	1	1	
	AIIa2-5	Reading II	1	1	1	
	AIIa2-6	Writing II	1	1	1	
	AIIa2-7	Listening II	1	1	1	
	AIIa2-8	Oral English II	1	1	1	
	AIIa3-9	English for Special Purposes A I	2	1	4	
	AIIa3-10	English for Special Purposes B I	2	1		
	AIIa3-11	English for Special Purposes C I	2	1		
	AIIa3-12	English for Special Purposes D I	2	1		
	AIIa3-13	English for Special Purposes A II	2	1		
	AIIa3-14	English for Special Purposes B II	2	1		
	AIIa3-15	English for Special Purposes C II	2	1		
	AIIa3-16	English for Special Purposes D II	2	1		
Language & Literature	AIIb1-17	★ 英文法	1	2	2	
	AIIb1-18	★ 英語音声学	1	2		
	AIIb2-19	★ 英語学概論	1・2	4	4	
	AIIb2-20	★ 英米文学概論	1・2	4		
	AIIb3-21	英語学演習	2	1	3	
	AIIb3-22	英米文学演習	2	1		
	AIIb3-23	英語学研究	2	2		
AIIb3-24	英米文学研究	2	2			
Business Skills	AIIc1-25	★ TOEIC 演習 I	1	2	2	
	AIIc3-26	★ TOEIC 演習 II	2	2		
	AIIc2-27	News English I	1・2	1	4	
	AIIc2-28	News English II	1・2	1		
	AIIc2-29	Business English I	1・2	1		
	AIIc2-30	Business English II	1・2	1		
	AIIc2-31	通訳法 I	1・2	1		
	AIIc2-32	通訳法 II	1・2	1		
	AIIc2-33	翻訳法 I	1・2	1		
	AIIc2-34	翻訳法 II	1・2	1		
Seminar	AII d4-35	★ 卒業セミナー	2	4	4	

★通年科目

(次ページへ続く→)

文科

(←前ページから)

区分	科目 ナンバリング	科目名	履修年次	単位数	卒業要件	備考
カルチャー	AM b 2-4	伝統文化論	1・2	2		文科共通科目
	AM b 2-5	地域文化論	1・2	2		
	AM b 2-6	こども文化論	1・2	2		
	AM b 2-7	ジェンダー論	1・2	2		
	AM b 2-8	映像メディア論	1・2	2		
	AM b 2-9	出版メディア論	1・2	2		
	AM b 2-10	環境文化論	1・2	2		
	AM b 2-11	からだと健康	1・2	2		
	AM b 2-12	東京学	1・2	2		
キャリア サポート	AM c 2-13	観光英語を学ぶⅠ	1・2	2		文科共通科目
	AM c 2-14	観光英語を学ぶⅡ	1・2	2		
	AM c 2-15	漢字を学ぶ	1・2	2		
	AM c 2-16	秘書実務を学ぶⅠ	1・2	2		
	AM c 2-17	秘書実務を学ぶⅡ	1・2	2		
	AM c 2-18	キャリアデザイン演習	1	2		
上記専門科目より 11 単位 (他学科・他コース開放科目 6 単位を含む・注)					11	

★通年科目

専門教育科目（心理学コース）

区分	科目ナンバリング	科目名	履修年次	単位数	卒業要件	備考
リテラシー基礎	AMa1-1	文章表現法	1	2	2	文科共通科目
	AMa1-2	コミュニケーション論	1・2	2	2	
	AMa1-3	伝える技術	1・2	2	2	
自分を知る	AⅡa1-1	自己開発トレーニング	1	2	2	
心理学の基礎を学ぶ	AⅢb1-2	★心理学概論	1	4	4	8
	AⅢb1-3	心理データ解析演習（SPSS）	1	2		
	AⅢb2-4	発達心理学Ⅰ	1・2	2		
	AⅢb2-5	発達心理学Ⅱ	1・2	2		
	AⅢb2-6	社会心理学	1・2	2		
	AⅢb2-7	臨床心理学Ⅰ	1・2	2		
	AⅢb2-8	臨床心理学Ⅱ	1・2	2		
	AⅢb2-9	健康心理学	1・2	2		
	AⅢb2-10	カウンセリング論	1・2	2		
	AⅢb2-11	教育心理学	1・2	2		
人間を知る・学ぶ	AⅢc3-13	コミュニケーション心理	2	2	4	
	AⅢc3-14	こころと行動	2	2		
	AⅢc3-15	性格とは何か	2	2		
	AⅢc3-16	消費者の心理	1・2	2	2	
	AⅢc3-17	アートと心理	1・2	2		
	AⅢc3-18	音楽とこころ	1・2	2		
ゼミナール・卒業論文	AⅢc3-19	文学に見る行動心理	1・2	2		
	AⅢd4-20	★心理学卒業演習	2	2	2	
カルチャー	AMb2-4	伝統文化論	1・2	2		文科共通科目
	AMb2-5	地域文化論	1・2	2		
	AMb2-6	こども文化論	1・2	2		
	AMb2-7	ジェンダー論	1・2	2		
	AMb2-8	映像メディア論	1・2	2		
	AMb2-9	出版メディア論	1・2	2		
	AMb2-10	環境文化論	1・2	2		
	AMb2-11	からだと健康	1・2	2		
キャリアサポート	AMb2-12	東京学	1・2	2		文科共通科目
	AMc2-13	観光英語を学ぶⅠ	1・2	2		
	AMc2-14	観光英語を学ぶⅡ	1・2	2		
	AMc2-15	漢字を学ぶ	1・2	2		
	AMc2-16	秘書実務を学ぶⅠ	1・2	2		
	AMc2-17	秘書実務を学ぶⅡ	1・2	2		
AMc2-18	キャリアデザイン演習	1	2	2		
上記専門科目より 18 単位 (他学科・他コース開放科目 8 単位を含む・注)					18	

★通年科目

文科

他コース開放科目

専攻	科目ナンバリング	授 業 科 目	年 次	単 位	備 考
日本文学・表現コース	AIa1-1	ことばの仕組みⅠ	1・2	2	
	AIa2-2	ことばの仕組みⅡ	1・2	2	
	AIa1-3	現代のことばⅠ	1・2	2	
	AIa2-4	現代のことばⅡ	1・2	2	
	AIb1-5	★古典文学の歴史	1・2	4	
	AIb1-6	★近代文学の歴史	1・2	4	
	AIb2-7	古典文学を読むⅠ	1	2	
	AIb2-8	古典文学を読むⅡ	1	2	
	AIb2-9	近代現代文学を読むⅠ	1	2	
	AIb2-10	近代現代文学を読むⅡ	1	2	
	AIb3-11	古典文学の研究Ⅰ	2	2	
	AIb3-12	古典文学の研究Ⅱ	2	2	
	AIb3-13	近代現代文学の研究Ⅰ	2	2	
	AIb3-14	近代現代文学の研究Ⅱ	2	2	
	AIc2-15	文学創作演習	1・2	2	
	AIc3-16	児童文学	1・2	2	
	AIc3-17	映画・演劇論	1・2	2	
	AIc3-18	サブカルチャー論	1・2	2	
	AIc3-19	アニメの物語学	1・2	2	
英語コース	AIa3-9	English for Special Purposes AⅠ	2	1	*英語コースの科目については人数制限をする場合がある。
	AIa3-10	English for Special Purposes BⅠ	2	1	
	AIa3-11	English for Special Purposes CⅠ	2	1	
	AIa3-12	English for Special Purposes DⅠ	2	1	
	AIa3-13	English for Special Purposes AⅡ	2	1	
	AIa3-14	English for Special Purposes BⅡ	2	1	
	AIa3-15	English for Special Purposes CⅡ	2	1	
	AIa3-16	English for Special Purposes DⅡ	2	1	
	AIb1-17	★英文法	1	2	
	AIb1-18	★英語音声学	1	2	
	AIb2-19	★英語学概論	1・2	4	
	AIb2-20	★英米文学概論	1・2	4	
	AIb3-21	英語学演習	2	1	
	AIb3-22	英米文学演習	2	1	
	AIb3-23	英語学研究	2	2	
	AIb3-24	英米文学研究	2	2	
	AIc2-27	News EnglishⅠ	1・2	1	
	AIc2-28	News EnglishⅡ	1・2	1	
	AIc2-29	Business EnglishⅠ	1・2	1	
	AIc2-30	Business EnglishⅡ	1・2	1	
AIc2-31	通訳法Ⅰ	1・2	1		
AIc2-32	通訳法Ⅱ	1・2	1		
AIc2-33	翻訳法Ⅰ	1・2	1		
AIc2-34	翻訳法Ⅱ	1・2	1		
心理学コース	AIb2-4	発達心理学Ⅰ	1・2	2	
	AIb2-5	発達心理学Ⅱ	1・2	2	
	AIb2-6	社会心理学	1・2	2	
	AIb2-7	臨床心理学Ⅰ	1・2	2	
	AIb2-8	臨床心理学Ⅱ	1・2	2	
	AIb2-9	健康心理学	1・2	2	
	AIb2-10	カウンセリング論	1・2	2	
	AIb2-11	教育心理学	1・2	2	
	AIb2-12	認知心理学	1・2	2	
	AIc3-13	コミュニケーション心理	2	2	
	AIc3-14	こころと行動	2	2	
	AIc3-15	性格とは何か	2	2	
	AIc3-16	消費者の心理	1・2	2	
	AIc3-17	アートと心理	1・2	2	
	AIc3-18	音楽とこころ	1・2	2	
AIc3-19	文学に見る行動心理	1・2	2		

9. カリキュラムマップ

コース	科目区分	ナンバリング	科目名称	到達目標	配当年次	【知識・理解】 とほをとほとして世界と関わり、広く社会に貢献するための知識と教養をもち、それを伝えることができる。	【技能】 文章表現の技術を身につけ、コミュニケーション・スキルを修得し、社会の人々と協働して行動することができる。	【思考・判断・表現】 文学・文化・英語・人間心理に精通し、自分に相応しい社会的テーマを見つけ出し、追求する問題意識を持ち、表現することができる。	【関心・意欲・態度】 社会的リーダーシップを有し、まわりの人々への思いやりをもった配慮と想像力を兼ね備え、自律した市民としての学習意欲を身につけている。
リテラシー基礎		AIVa1-1	文章表現法	<ul style="list-style-type: none"> 論文等の文章を読んでその文章の主題や構成をきちんと把握出来るようになる。(知識・理解) 自分の意見や考えを他者に正確に伝えるための基本的な知識や技術をきちんと習得し、実践できるようになる。(技能) レポート等の文章で自分の意見を述べていくための、問題意識、構成力、表現力等をきちんと習得し、実践できるようになる。(判断・思考・表現) 	1		◎	○	
		AIVa1-2	コミュニケーション論	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの理論についての基礎的な知識がきちんと身につくようになる。(知識・理解) より豊かなコミュニケーションを図るための基本的な知識や技術がきちんと身につくようになる。(技能) 他者とコミュニケーションするための積極的な姿勢をとれるようになる。(関心・意欲・態度) 	1		◎	○	
		AIVa1-3	伝える技術	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を簡潔に整理する事がきちんとできるようになる。(知識・理解) 自分の考えや意見を他人に伝える為のより効果的で効率的な伝達の基礎的な技術をきちんと習得し、実践できるようになる。(判断・思考・表現) プレゼンテーションの基礎的な技術をきちんと身につけることができる。(技能) 	1		◎	○	○
文科 共通科目	カルチャー	AIVb2-4	伝統文化論	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統文化の多様なジャンルを学ぶことで、日本の伝統文化についての一定の知識を語る事が出来るようになる。(知識・理解) 日本の伝統文化についての話題で外国の人と交流が出来るようになる。(関心・意欲・態度) 	1	◎		○	
		AIVb2-5	地域文化論	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容を深く理解し、授業で取り上げた地域の文化について一定の知識を身につけられるようになる。(知識・理解) 自分たちとは異なる地域文化もしくは異文化について積極的に理解する姿勢を身につけられるようになる。(関心・意欲・態度) 	1	◎		○	
		AIVb2-6	こども文化論	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの文化というものについて考える手がかりを得ることが出来るようになる。(関心・意欲・態度) 子ども文化の一例としての児童文学の成り立ちについて、明治の古典的作品から現代の作品まで広く対象にしながらかかりと理解を深めることが出来るようになる。(知識・理解) 児童文学を学ぶことを通して、子どもがどのような状況におかれていたのか、家族のあり方はどのような状況にかかわって深く理解出来るようになる。(知識・理解) 児童文学が、子どもをめぐる状況を映し出す鏡であることを実感出来るようになる。(思考・判断・表現) 	1	◎		○	
		AIVb2-7	ジェンダー論	<ul style="list-style-type: none"> 生物学的性差に対して社会的性差を指すジェンダーが、いかに文化的に作り上げられるかをしっかりと問い直すことができるようになる。(関心・意欲・態度) それとあわせて、一人の人間として、セクシャル・アイデンティティを葆ちながらどう生きていったらいいかの考えをしっかりと深めることができるようになる。(思考・判断・表現) 	1	◎		○	
		AIVb2-8	映像メディア論	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメンタリーやコメディ、CM、アニメなどの様々な映像メディアの見方、利用のスキルをしっかりと習得できるようになる。(知識・理解) 映像メディアの情報に対する問題点やそれについての考え方をしっかりと身につけられるようになる。(思考・判断・表現) 	1	◎		○	
		AIVb2-9	出版メディア論	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容を深く理解し、出版文化についての一定の知識をしっかりと習得できるようになる。(知識・理解) 本に関わる文化に積極的な関心をいざくことができるようになる。(関心・意欲・態度) 	1	◎		○	
		AIVb2-10	環境文化論	<ul style="list-style-type: none"> 人間が、環境としての自然を文化としてどのようにとらえ、またどうつきあってきたのかについての多くの知見を得ることが出来るようになる。(知識・理解) 神話、文学、祭祀等に環境としての自然がどのように描かれあるいは扱われているのかについての多くの知識を有することができるようになる。(知識・理解) 	1	◎		○	
		AIVb2-11	からだ健康	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なからだの機能を理解し、心身の健康を守り管理していくために何が必要かを考え、具体的に説明することができる。(知識・理解) 女性特有の健康問題について理解し、健康状態の維持 増進、疾病予防の改善策について考察し説明することができる。(知識・理解)(思考・表現) 健康に関する正しい知識の習得を図り、ヒトを取り巻く健康問題について多面的に関心を持ち、考察することができる。(知識・理解)(思考) 基本的な応急手当について理解し、技術を習得できる。(知識)(技能) 自分自身の生活習慣について分析・考察し、どのように改善すべきかを理解し具体的に述べる事が出来る。(知識・理解)(思考・判断・表現) 	1	◎		○	○
		AIVb2-12	東京学	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容を十分に理解し、選択した「名所江戸百景」の名所について、江戸の当時から現在までの変遷を十分に調査するとともに、説明することができる。(知識・理解・表現) 	1	◎		○	

文科

コース	科目区分	ナンバリング	科目名称	到達目標	配当 年次	【知識・理解】 こばをとおして 界と関り、広く 社会に貢献する ための知識と教 養をもち、それ を伝えることが できる。	【技能】文章表現 の技術を身につ け、コミュニケーション ・スキルを修得し、社会の 人々と協働して行 動することができる。	【思考・判断・表 現】文学・文化・ 英語・人間心理に 適し、自分に相応 しい社会的テーマ を見つけ出し、追 求める問題意識を 持ち、表現するこ とができる。	【関心・意欲・態 度】社会的リテラ シーとリーダー・ シップを有し、ま わりの人々への思 いやりをもった配 慮と想像力を兼ね せなえ、自往した 市民としての学習 意欲を身につけて いる。
文科 共通科目	キャリア サポート	AMc2-13	観光英語を学ぶI	・海外旅行に必要な英語表現を身につけ、英語で的確にコミュニケーションを取ることができる。 ・空港、交通、ホテル、観光、ショッピング等の場面で英語を正確に解釈できる。 ・観光英語検定の取得に必要な、旅行・観光の分野における英語の運用能力（英語での接客、外国人への道案内、英語によるパンフレット類の説明を含む）を的確に使用できる。	1	◎	○		
		AMc2-14	観光英語を学ぶII	・海外旅行に必要な英語表現を身につけ、英語で的確にコミュニケーションを取ることができる。 ・空港、交通、ホテル、観光、ショッピング等の場面で英語を正確に解釈できる。 ・観光英語検定の取得に必要な、旅行・観光の分野における英語の運用能力（英語での接客、外国人への道案内、英語によるパンフレット類の説明を含む）を的確に使用できる。	1	◎	○		
		AMc2-15	漢字を学ぶ	・基本的な漢字が書けるようになり、漢字能力を高めることができるようになる。（技能） ・漢字の歴史、文化的背景や日本における漢字の受容などについての総合的な知識を身につけることができるようになる。（知識・理解）	1	○	◎		
		AMc2-16	秘書実務を学ぶI	・一人の大人として自立して生きる自分のキャリアについてのデザインがしっかりと出来るようになる。（思考・判断・表現） ・仕事や家庭生活で自分がどのように働き、またどのような家庭生活を作っていくのかについてしっかりと考えられるようになる。（関心・意欲・態度） ・秘書実務についての検定試験に必要な知識を十分に習得出来るようになる。（知識・理解）	1			◎	◎
		AMc2-17	秘書実務を学ぶII	・授業に自ら進んで主体的に参加し、他の学生と協力しあって「ワーク」をすすめる事が出来るようになる。（関心・意欲・態度） ・社会人としてあるいは職業者としての基本的なマナーや知識を習得出来るようになる。（知識・理解） ・秘書検定2級程度の知識を得ることが出来るようになる。（知識・理解）	1			◎	◎
		AMc2-18	キャリアデザイン演習	・卒業後の進路について、具体的な将来像を思い描くことができるようになる。（思考・判断・表現） ・将来像の実現に向けて必要とされる知識やスキル、特に就職活動に必要な知識やスキルを十分に身につけていく。（技能） ・自己理解やコミュニケーションの力を十分に身につけていく。（関心・意欲・態度）	1			◎	◎
		AIa1-1	ことばの仕組みI	・授業を通して、ことばが伝達されるためのことばの仕組みについて基本的な仕組みや規則についてしっかりと理解出来るようになる。（知識・理解） ・ことばの仕組みについての積極的な関心を持つことができるようになる。（関心・意欲・態度）	1	◎	○		
		AIa2-2	ことばの仕組みII	・ある出来事を伝達する手段としてのことばについての役割やその組み立て方について基本的な知識を有することができるようになる。（知識・理解） ・また、その基本的なことばの役割や仕組みについて、現代日本語の具体例を通して理解出来るようになる。（知識・理解） ・言葉の仕組みや現代日本語について積極的な関心を抱くことができるようになる。（関心・意欲・態度）	1	◎	○		
日本文学・ 表現 コース	リテラシー	AIa1-3	現代のことばI	・言語学に必要な観点を習得し、様々な観点で自分が使っている日本語と他人が使っている日本語を比較する態度を身につけることができる。（関心・意欲・態度） ・ことばをことばで説明することの難しさや楽しさを味わうことができるようになる。（知識・理解）	1	◎	○		
		AIa2-4	現代のことばII	・現代の日本語の文法を学ぶための基本的な考え方をしっかりと理解出来るようになる。（知識・理解） ・基本的な文法の知識をしっかりと有している。（知識・理解） ・言語にとっての文法の意味についてしっかりと理解出来るようになる。（思考・判断・表現）	1	◎	○		
		AIb1-5	古典文学の歴史	・授業で扱う分野における日本文学の歴史について詳しく説明出来る知識を獲得出来ている。（知識・理解） ・文学作品の生まれる歴史的な背景について深く分析する力が身につけている。（知識・理解） ・歴史的な背景を踏まえて文学作品を多角的に分析する力が身につけている。（知識・理解）	1	◎			
		AIb1-6	近代文学の歴史	・授業で扱う分野における日本文学の歴史について詳しく説明出来る知識を獲得出来ている。（知識・理解） ・文学作品の生まれる歴史的な背景について深く分析する力が身につけている。（知識・理解） ・歴史的な背景を踏まえて文学作品を多角的に分析する力が身につけている。（知識・理解）	1	◎			
		AIb2-7	古典文学を読むI	・古典の原文に触れて、そのことばと内容を深く理解し、現代の小説を読むようにより楽しんで読めるようになる。（知識・理解） ・話の筋や展開だけでなく、歴史的な時代の習俗や風俗を学ぶことで、普遍に思える現代の価値観や生活観が、時代と共に変化するものだとより深く理解出来るようになる。（知識・理解） ・文学としての古典作品が時代を超えた人間の普遍的な姿を描いていることを深く理解出来るようになる。（知識・理解）	1	◎		○	

コース	科目区分	ナンバリング	科目名称	到達目標	配当 年次	【知識・理解】 こ世社とばをとおして界と関り、広く社会に貢献するための知識と教養をもち、それを伝えることができる。	【技能】 文章表現の技術を身につける。コミュニケーション・スキルを修得し、社会の人々と協働して行動することができる。	【思考・判断・表現】 文学・文化・英語・人間心理に達し、自分に相応しい社会的テーマを見つけ出し、追求する問題意識を持ち、表現することができる。	【関心・意欲・態度】 社会的リーダーシップを有し、まわりの人々への思いやりをもった配慮と想像力を兼ね兼ね、自律した市民としての学習意欲を身につけている。
日本文学・表現コース	リテラチャー	AI b2-8	古典文学を読むⅡ	・古典の原文に触れて、そのことばと内容を深く理解できるようになる。(知識・理解) ・古典作品をより深く楽しんで読めるようになる。(知識・理解) ・作品の筋や展開だけでなく、その作品を生み出した「時代」を知り、時代の習俗や風俗を学ぶことで、古典作品をより深く多角的に理解出来るようになる。(知識・理解) ・古典作品を通して現代の価値観や生活観を振り返りそこから変化するものや変わらないものを具体的に理解できるようになる。(知識・理解)	1	◎		○	
		AI b2-9	近代現代文学を読むⅠ	・日本の近代文学を味読するための基礎力を身につけることができるようになる。(知識・教養) ・また、日本の近代文学についての基礎的教養をやしなうことができるようになる。(知識・教養) ・文学を楽しむことをとおして、自分を見つめ直す力を育み、さらに日本人の感性についての理解を深めることができるようになる。(知識・教養)	1	◎		○	
		AI b2-10	近代現代文学を読むⅡ	・日本の近代文学を味読するための基礎力を身につけることができるようになる。(知識・教養) ・また、日本の近代文学についての基礎的教養をやしなうことができるようになる。(知識・教養) ・文学を楽しむことをとおして、自分を見つめ直す力を育み、さらに日本人の感性についての理解を深めることができるようになる。(知識・教養)	1	◎		○	
		AI b3-11	古典文学の研究Ⅰ	・古典の原文に触れて、そのことばと内容を深く理解できるようになる。(知識・理解) ・和歌のことばや題材、詠みぶりといった韻文特有のことば ・表現に詳しい知識を有することができるようになる。(知識・理解) ・自分なりのテーマで和歌を使っての表現ができるようになる。その際、受講者全員の前で映像や音を用いて効果的な発表ができるようになる。	2	◎		○	
		AI b3-12	古典文学の研究Ⅱ	・古典の原文に触れて、そのことばと内容を深く理解できるようになる。(知識・理解) ・説話特有の文脈展開がわかり、物語や随筆など他の文体を持つ文学との差異を理解できるようになる。 ・当時の地図や絵画、また日記や文書といった史料が、文学の理解の上で不可欠であることを具体的に知るようになる。(知識・理解)	2	◎		○	
		AI b3-13	近代現代文学の研究Ⅰ	・日本の近代文学を味読するための応用力を身につけることができるようになる。(知識・教養) ・また、日本の近代文学についての教養を深めることができるようになる。(知識・教養) ・文学作品を読むことをとおして自分を見つめ直し、感性を磨くと同時に言語能力を高めることができるようになる。(知識・教養) ・自らすすんで文学に関わろうとする問題意識も養うことができるようになる。(知識・教養)	2	◎		○	
		AI b3-14	近代現代文学の研究Ⅱ	・日本の近代文学を味読するための応用力を身につけることができるようになる。(知識・教養) ・また、日本の近代文学についての教養を深めることができるようになる。(知識・教養) ・文学作品を読むことをとおして自分を見つめ直し、感性を磨くと同時に言語能力を高めることができるようになる。(知識・教養) ・自らすすんで文学に関わろうとする問題意識も養うことができるようになる。(知識・教養)	2	◎		○	
	クリエイト	AI c2-15	文学創作演習	・創作の準備としていくつもの小説(短編)や文章を読み込む力がしっかりと身につけている。(知識・理解) ・作品を実際に書く力がしっかりと身につくようになってきている。(技能) ・作品を創作する創造性や文章力を身につけることができる。(思考・判断・表現)	1	○	◎	○	
		AI c3-16	児童文学	・数々の優れた児童文学作品を読み、作品を様々な切り口で分析する力をしっかりと習得することができるようになる。(知識・理解) ・日常生活の中の材料から童話作品をきちんと創作することができるようになる。(判断・思考・表現) ・想像力、創造力、文章力をおおいに高めることができるようになる。(判断・思考・表現)	1	○		○	
		AI c3-17	映画・演劇論	・映画と演劇に関する基本的な知識をしっかりと習得できている。(知識・理解) ・映画と演劇の社会的文化的背景にも目を向けながら作品を批評的に読む力をきちんと身につけることができる。(知識・理解) ・自らの意見を説得的に表現できる力をしっかりと身につけることができる。(判断・思考・表現)	1	○		◎	
		AI c3-18	サブカルチャー論	・中心と周縁が曖昧化している今日の、メイン・カルチャーから隔たったサブ・カルチャーの意義について深い理解を有している。(知識・理解) ・サブ・カルチャーの持つ文化的エネルギーについて深い理解を有している。(知識・理解) ・カウンター・カルチャーの成果を通して日本文化を特質を批評的に捉え直し、グローバルな魅力を理解する優れた能力を身につけることができる。(知識・理解)	1	○		◎	

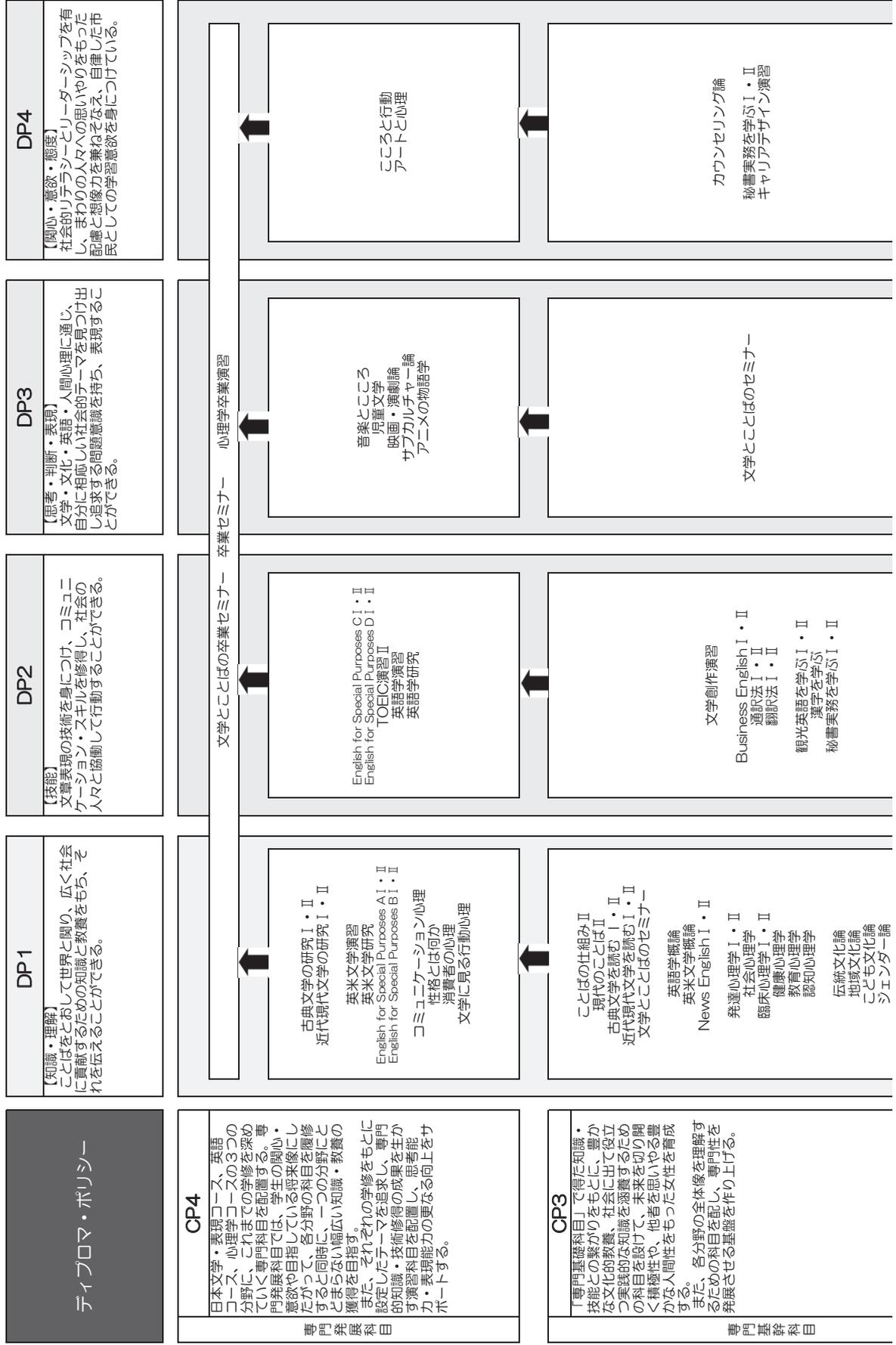
コース	科目区分	ナンバリング	科目名称	到達目標	配当年次	【知識・理解】	【技能】	【思考・判断・表現】	【関心・意欲・態度】
日本文学・表現コース	クリエイティブ	A I c3-19	アニメの物語学	・抽象的な「物語」について多様な角度から考察し定義することができる。(思考・判断・表現) ・グリム童話からディズニーアニメまでの流れを時代背景などを踏まえて的確に説明できる。(知識・理解) ・戦後の日本のアニメを時代のかかりや物語性の観点からの確に説明できる。(知識・理解) ・宮崎駿の作品について、物語性や時代性、文化や思想という観点から要点を的確に説明できる。(知識・理解) ・物語という観点からアニメ作品について深く論じることができる。(思考・判断・表現)	1	○		◎	
				A I d2-20	文学とことばのセミナー	・文学やことばについて、研究すべき自分のテーマを明確に見つけ出すことができるようになる。(思考・判断・表現) ・文学やことばについてより深い知識を身につけることができる。(知識・理解) ・自分のテーマについて説得力ある意見を述べ、また他人の発表について積極的に意見を述べる事ができるようになる。(関心・意欲・態度) ・レポートの書き方がしっかりと身についている。(技能)	1	◎	○
	A I d4-21	文学とことばの卒業セミナー	・自分の研究テーマや、創作の課題について明確なビジョンを持つことができるようになる。(思考・判断・表現) ・長文のレポートや創作のための文章力を身につけることができるようになる。(技能) ・優れたレポートあるいは個性的な創作を完成させる力を修得できるようになる。(技能)	2	◎	◎	◎	◎	
	英語コース	4 Skills	A I I a1-1	Reading I	・スキミング、トピックセンテンスの発見、パラグラフ構成の理解、予測・推論などの技術を的確に活用して英文を読み理解することができる。(技能)(知識・理解) ・高度な内容の英文読解に必要な語彙を身につけ、使用できる。(知識・理解)(思考・判断・表現)	1	○	◎	
A I I a1-2			Writing I	・英文法の知識を十分に身につけ、単文レベルの英作文が正確にできる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現) ・平易な内容の英作文に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。(知識・理解)(思考・判断・表現)	1		○	◎	
A I I a1-3			Listening I	・日常会話レベルの英語を聞いて、内容を正確に解釈できる。(知識・理解)(思考・判断・表現) ・平易な内容の英語の聞き取りに必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。(知識・理解)	1	○	◎		
A I I a1-4			Oral English I	・日常会話レベルの内容を英語で正確に表現できる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現) ・日常会話レベルの英語の運用に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現)	1		○	◎	
A I I a2-5			Reading II	・スキミング、トピックセンテンスの発見、パラグラフ構成の理解、予測・推論などの技術を的確に活用して英文を読み理解することができる。(技能)(知識・理解) ・高度な内容の英文読解に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。(知識・理解)(思考・判断・表現)	1	○	◎		
A I I a2-6			Writing II	・英文法の知識を十分に身につけ、パラグラフを構成しながら英文で正確に表現できる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現) ・高度な内容の英作文に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。(知識・理解)(思考・判断・表現)	1		◎	○	
A I I a2-7			Listening II	・アナウンスやスピーチやニュース原稿などの英語を聞いて、内容を正確に解釈できる。(知識・理解)(思考・判断・表現) ・アナウンスやスピーチやニュース原稿などの英語の聞き取りに必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。(知識・理解)	1	○	◎		
A I I a2-8			Oral English II	・スピーチなどのまとまった量の情報を英語で正確に表現できる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現) ・英語でまとまった量の情報を発信する際に必要な語彙を十分に身につけ、使用できる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現)	1	○	◎		
A I I a3-9			English for Special Purposes A I	・歌詞の内容を正確に解釈できる。(知識・理解) ・授業で学んだ英語表現を的確に使用できる。(技能)(思考・判断・表現)	2	◎	○		
A I I a3-10			English for Special Purposes B I	・英語の日常表現を正確に解釈できる。(知識・理解) ・ナチュラルスピードの英語を正確に聞き取ることができる。(知識・理解) ・日常に関することを自然な英語で的確に表現できる。(技能)(思考・判断・表現)	2	◎	○		
A I I a3-11			English for Special Purposes C I	・ビジネスの場面でよく使用される表現や、ビジネスレターやEメールの書式を十分に理解して身につけている。(知識・理解) ・英語のビジネス文書を的確に解釈できる。(知識・理解) ・英語のビジネス文書を的確に作成できる。(思考・判断・表現)	2	○	◎		
A I I a3-12			English for Special Purposes D I	・ホスピタリティ・ビジネスで必要とされる英語の語彙や口語表現を的確に使用できる。(技能)(思考・判断・表現) ・日本と英語圏の文化を比較し、違いを的確に述べる事ができる。(知識・理解)(思考・判断・表現)	2	○	◎		

コース	科目区分	ナンバリング	科目名称	到達目標	配当 年次	【知識・理解】 とばをとおして 界と関り、広く 社会に貢献する ための知識と教 養をもち、それ を伝えることが できる。	【技術】文章表 現の技術を身に つけ、コミュニケ ーションスキルを 修得し、社会の 人々と協働して 行動することがで きる。	【思考・判断・表 現】文学・文化・ 英語・人間心理に 適し、自分に相 応しい社会的テ ーマを見つけ出し、 追求する問題意識 を持ち、表現する ことができる。	【関心・意欲・態 度】社会的リテ ラシーとリーダー シップを有し、ま わりの人々への思 いやりをもった配 慮と想像力を兼ね せざる、自律した 市民としての学習 意欲を身につけて いる。	
英語 コース	4 Skills	A II a3-13	English for Special Purposes A II	・歌詞の内容を正確に解釈できる。(知識・理解) ・授業で学んだ英語表現を会話の場面で的確に使用できる。(技能)(思考・判断・表現)	2	◎	○			
		A II a3-14	English for Special Purposes B II	・英語の日常表現を正確に解釈できる。(知識・理解) ・ナチュラルスピードの英語を正確に聞き取ることができる。(知識・理解) ・日常に関する内容を自然な英語で的確に表現できる。(技能)(思考・判断・表現)	2	◎	○			
		A II a3-15	English for Special Purposes C II	・ビジネスの場面でよく使用される表現や、ビジネスレターやEメールの書式を十分に理解して身につけている。(知識・理解) ・英語のビジネス文書を的確に解釈できる。(知識・理解)・英語のビジネス文書を的確に作成できる。(思考・判断・表現)	2	○	◎			
		A II a3-16	English for Special Purposes D II	・ホスピタリティー・ビジネスで必要とされる英語の語彙や口語表現を的確に使用できる。(技能)(思考・判断・表現) ・日本と英語圏の文化を比較し、違いを的確に述べることができる。(知識・理解)(思考・判断・表現)	2	○	◎			
	Language & Literature	A II b1-17	英文法	英文法の重要項目の内容を十分に理解し、正確に使用できる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現)	1	◎	○			
		A II b1-18	英語音声学	・英語の個々の音声の特徴を理解し、発音を正確に行うことができる。(知識・理解)(技能) ・英語のイントネーションやリズムを理解し、句や文の発音を正確に行うことができる。(知識・理解)(技能) ・発音記号を正確に読める。(知識・理解)	1	○	◎			
		A II b2-19	英語学概論	・英語学の全体像を十分に把握できる。(知識・理解) ・英語という言語を科学的に分析し、深く理解できる。(思考・判断・表現) ・社会と言語の関係、国際社会における英語の役割について考えを十分に深めることができる。(関心・意欲・態度)	1	◎	○		○	
		A II b2-20	英米文学概論	・英文学史、米文学史の流れを十分に理解できる。(知識・理解) ・文学作品を読み解き、研究するための基礎知識について具体的に述べることができる。(知識・理解) ・特定の作家および作品について十分に調査し、的確な分析・考察ができる。(思考・判断・表現)	1	◎		○		
		A II b3-21	英語学演習	・英語の様々な時制表現の違いについて正確に説明できる。(知識・理解)(思考・判断・表現) ・英語の様々な時制表現を的確に使用できる。(技能)(思考・判断・表現)	2	○	◎			
		A II b3-22	英米文学演習	・英語で書かれた文学作品を正確に読解し、的確な分析・考察ができる。(思考・判断・表現) ・文学作品に描かれている人間や社会の様々な側面について深く洞察し十分に理解できる。(知識・理解)	2	◎		○		
		A II b3-23	英語学研究	・英語の定冠詞と不定冠詞、冠詞の有無、可算名詞と不可算名詞、動名詞と不定詞、仮定法と直説法、などの違いを具体的に述べることができる。(知識・理解)(思考・判断・表現) ・英語の定冠詞と不定冠詞、冠詞の有無、可算名詞と不可算名詞、動名詞と不定詞、仮定法と直説法、などを正確に使用できる。(技能)(思考・判断・表現)	2	○	◎			
		A II b3-24	英米文学研究	・英語で書かれた特定の文学作品について詳しく説明できる。(知識・理解) ・英語で書かれた文学作品を正確に読解し、作品に描かれている人間や社会の様々な側面について深く洞察し十分に理解できる。(思考・判断・表現)	2	◎		○	○	
		Business Skills	A II c1-25	TOEIC演習 I	TOEIC受験に必要な語彙、文法の知識、リーディング、リスニングの技術を十分に身につけ、500点以上の取得を目指すことができる。(知識・理解)	1	○	◎		
			A II c3-26	TOEIC演習 II	TOEIC受験に必要な語彙、文法の知識、リーディング、リスニングの技術を十分に身につけ、600点以上の取得を目指すことができるようになる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現)	2	○	◎		
	A II c2-27		News English I	・英字新聞の英語を正確に解釈できる。(知識・理解) ・ニュース番組の英語を聞き取り、内容を具体的に述べることができる。(知識・理解)(思考・判断・表現) ・政治や経済の専門用語を的確に説明できる。(思考・判断・表現)	1	◎		○		
	A II c2-28		News English II	・英字新聞の英語を正確に解釈できる。(知識・理解) ・ニュース番組の英語を聞き取り、内容を具体的に述べることができる。(知識・理解)(思考・判断・表現) ・政治や経済の専門用語を的確に説明できる。(思考・判断・表現)	1	◎		○		
	A II c2-29		Business English I	・ビジネスの場面でよく使用される基本的表現や、英文レターやEメールの書式を十分に理解して身につけている。(知識・理解) ・英語のビジネス文書を的確に解釈できる。(知識・理解) ・英語のビジネス文書を的確に作成できる。(思考・判断・表現)	1	○	◎			

コース	科目区分	ナンバリング	科目名称	到達目標	配当年次	【知識・理解】	【技能】	【思考・判断・表現】	【関心・意欲・態度】
英語コース	Business Skills	A II c2-30	Business English II	・ビジネスの場面でよく使用される基本的表現や、英文レターやEメールの書式を十分に理解して身につけている。(知識・理解) ・英語のビジネス文書を的確に解釈できる。(知識・理解) ・英語のビジネス文書を的確に作成できる。(思考・判断・表現)	1	○	◎		
		A II c2-31	通訳法 I	・通訳の基礎を十分に理解し、基礎訓練方法を身につけ、簡単な逐次通訳ができる。(技能)(思考・判断・表現) ・身近な事柄、日本文化・社会、国際問題等のテーマなどに関する語彙を十分に身につけている。(知識・理解) ・通訳者として必要な英語力及び表現力を十分に身につけている。(技能)(思考・判断・表現)	1	○	◎		
		A II c2-32	通訳法 II	・通訳技術訓練方法に熟練し、通訳法の内容よりも高度な逐次通訳が的確にできる。(技能)(思考・判断・表現) ・身近な事柄、日本文化・社会、国際問題等のテーマなどに関して、通訳法の内容よりも高度な知識と語彙を十分に身につけている。(知識・理解) ・通訳法の内容よりも高度な英語力及び表現力を十分に身につけている。(技能)(思考・判断・表現)	1	○	◎		
		A II c2-33	翻訳法 I	・英文翻訳に必要な読解力が十分に身につけている。(知識・理解) ・英文翻訳に必要な表現力が十分に身につけている。(思考・判断・表現) ・平易な内容の英文の翻訳が的確にできる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現)	1	○	◎		
		A II c2-34	翻訳法 II	・翻訳法よりも高度な英文翻訳に必要な読解力が十分に身につけている。(知識・理解) ・翻訳法よりも高度な英文翻訳に必要な表現力が十分に身につけている。(思考・判断・表現) ・翻訳法よりも高度な内容の英文の翻訳が的確にできる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現)	1	○	◎		
	卒業セミナー	A II d4-35	卒業セミナー	・担当教員が指定するテーマ(英語学・英米文学・国際関係・異文化コミュニケーション)について主体的に調べ、問題点を具体的に述べることができる。(知識・理解)(技能)(思考・判断・表現) ・自分が選んだテーマについて調べた結果を、的確に系統立てて表現することができる。(思考・判断・表現)	2	◎	○	○	○
心理学コース	自分を知る	A III a1-1	自己開発トレーニング	・複数の心理学測定法について、特徴をふまえた説明ができる。(知識・理解) ・パーソナリティの分析手法を多面的に説明できる。(理解) ・自分のパーソナリティを客観的に分析できる。(思考・判断・表現) ・自分を学ぶ学習を通じて、自分のパーソナリティについて関心をもつようになったことを明確に表現できる。(関心・意欲・態度) ・自分のパーソナリティを複数の心理テストで測定できる。(技能)	1	○	◎		
		A III b1-2	心理学概論	・実験や調査等の手法を用いて人間の行動を説明しようとする心理学の考え方を系統立てて説明できる。(知識・理解) ・現代社会の問題と心理学の関連性を指摘し、心理学的アプローチを用いて説明できる。(思考・判断・表現) ・自らの行動を心理学的な観点から主体的に分析できる。(技能) ・他者理解及び自己理解の心理学的知識をふまえて、他者を尊重して関わるができる。(関心・意欲・態度)	1	◎	○		
	心理学の基礎を学ぶ	A III b1-3	心理データ解析演習 (SPSS)	・実証的な研究の進め方について理解し、尺度水準や質的データと量的データ、独立変数と従属変数などの違いについて説明できる。(知識・理解) ・統計ソフトウェア (SPSS) を用いたデータの入力および目的に沿った適切な分析を行うことができる。(技能) ・心理調査を行う際の倫理的配慮の必要性について知り、心理調査の目的に沿った適切な調査を実施し、得られた結果をもとに論理的な考察を行い、適切な表やグラフを並び、わかりやすいレポートを作成する。(思考・判断・表現)	1	○	◎		
		A III b2-4	発達心理学 I	・幼児期、児童期の発達に関する認知的、情動的、社会的要因のすべてを説明できる。(知識・理解) ・現代の社会的相互作用における課題を自ら同定し、発達理論の観点から解釈できる。(思考・判断・表現)	1	◎	○		
		A III b2-5	発達心理学 II	・青年期、成人期、老年期の発達に関する認知的、情動的、社会的要因のすべてを説明できる。(知識・理解) ・現代の社会的相互作用における課題を自ら同定し、発達理論の観点から解釈できる。(思考・判断・表現)	1	◎	○		
		A III b2-6	社会心理学	・社会心理学における「社会」の概念を、複数の具体例を挙げて説明できる。(知識・理解) ・社会の中の対人関係や集団活動は外部刺激(他の人、環境)から様々な影響を受けている。その時に人間がどう行動、態度を取るのかについて、実際の事例と関連づけて考察できる。(思考・判断・表現)	1	◎	○		
		A III b2-7	臨床心理学 I	・実例や理論や自己洞察により、臨床心理学の基礎について説明できるようになる。(知識・理解) ・心理テストなどで自己について洞察し、表現できるようになる。(思考・判断・表現) ・精神疾患への初歩的な対応ができるようになる。(技能) ・精神疾患への対応にある程度の関心をもって関われる。(関心・意欲・態度)	1	◎	○		

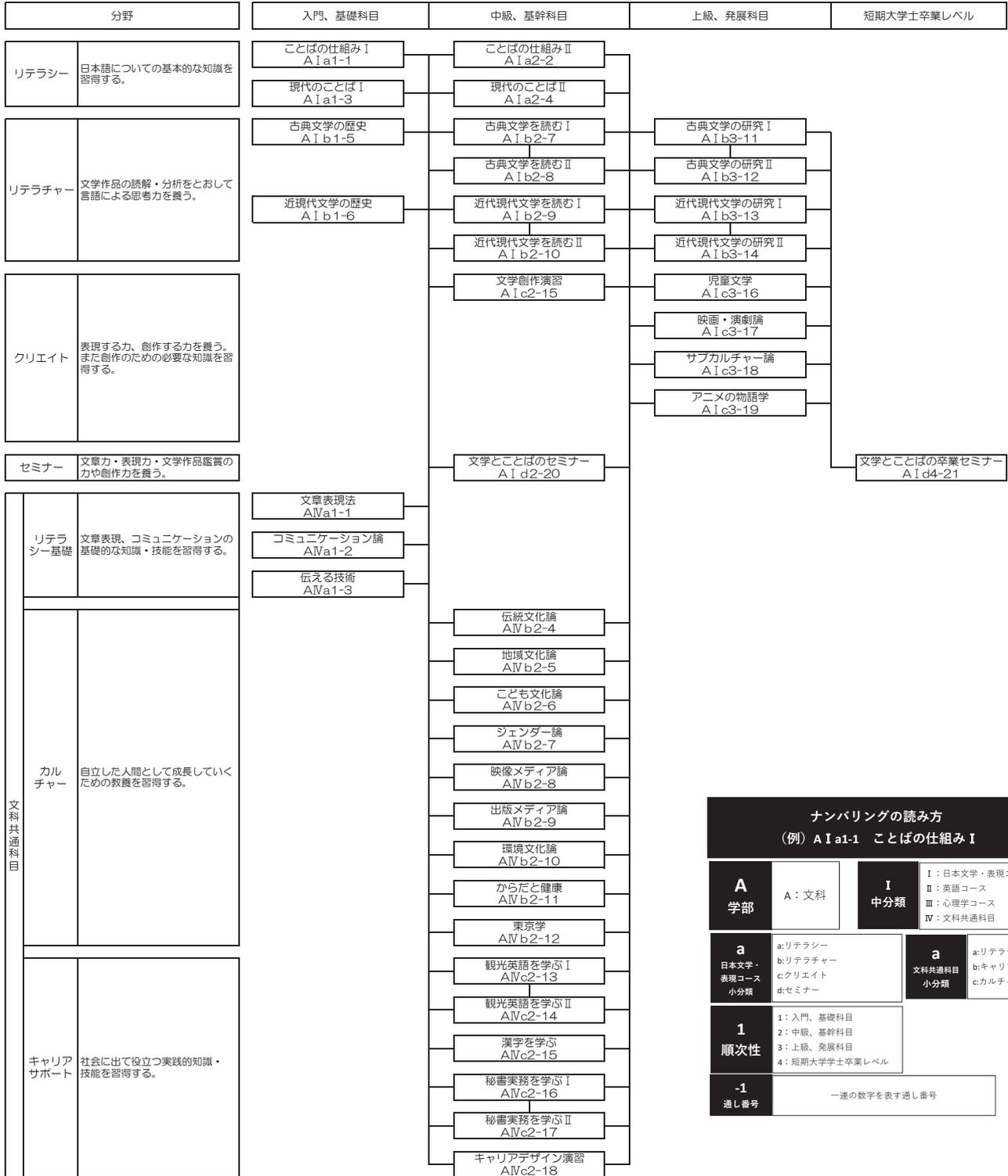
コース	科目区分	ナンバリング	科目名称	到達目標	配当 年次	【知識・理解】 とばをとおして 界と関り、広く 社会に貢献する ための知識と教 養をもち、それ を伝えることが できる。	【技能】文章表現 の技術を身につ け、コミュニケーション・ スキルを修得し、社会 の人々と協働して行 動することができる。	【思考・判断・表 現】文学・文化・ 英語・人間心理に 適し、自分に相応 しい社会的テーマ を見つけ出し、追 求する問題意識を 持ち、表現するこ とができる。	【関心・意欲・態 度】社会的リテラ シーとリーダー・ シップを有し、ま わりの人々への思 いやりをもった配 慮と想像力を兼ね せなえ、自律した 市民としての学習 意欲を身につけて いる。	
心理学の 基礎を学ぶ	心理学の 基礎を学ぶ	AⅢb2-8	臨床心理学Ⅱ	・実例や理論や自己洞察により、臨床心理学の応用について説明できるようになる。(知識・理解) ・心理テストなどで自己についてより深く洞察し、詳しく表現できるようになる。(思考・判断・表現) ・精神疾患への対応がかなりできるようになる。(技能) ・精神疾患への対応に大きな関心をもって関われる(関心・意欲・態度)	1	◎	○			
		AⅢb2-9	健康心理学	・人間の健康が身体・精神の両面から支えられていることを、健康心理学の概念を用いて考察できる。(思考・判断・表現) ・健康の維持や病気の予防へのアプローチについて系統立てて説明できる。(知識・理解)	1	◎		○		
		AⅢb2-10	カウンセリング論	・他人の悩みに対してアドバイスができるようになる。(技能) ・他人の話を深く傾聴できるようになる(関心・意欲・態度) ・ロールプレイによって、相手の気持ちや解釈できるようになる。(知識・理解) ・自分のストレスを適切に表現できるようになり、カウンセリングへの洞察ができるようになる。(思考・判断・表現)	1		○		◎	
		AⅢb2-11	教育心理学	・教育心理学の知識や研究方法を系統立てて説明できる。(知識・理解) ・教育心理学の知見を利用して教育の諸問題を自ら同定し、考察できる。(思考・判断・表現)	1	◎		○		
		AⅢb2-12	認知心理学	・認知心理学の基礎的な知見を幅広く身につけ、説明できるようになる。(知識・理解) ・授業で学んだことを日常生活と結びつけて説明できるようになる。(思考・判断・表現) ・日常生活の出来事について認知心理学的な関心をもてるようになる。(関心・意欲・態度) ・認知心理学的なトピックスについて、調べることができるようになる。(技能)	1	◎		○		
	心理学 コース	人間を知る・ 学ぶ	AⅢc3-13	コミュニケーション心理	・コミュニケーションに関する心理学の知見や研究方法を系統立てて説明できる。(知識・理解) ・心理学の知見を、主体的に豊かなコミュニケーションの実践に役立てることができるようになる。(思考・判断・表現)	2	◎		○	
			AⅢc3-14	こころと行動	・特に心身についての臨床心理学的な技法のメカニズムを説明できるようになる。(知識・理解) ・フォーカシング、マインドフルネス、自律訓練法などの方法を使えるようになる。(技能) ・心身の観点から自分のストレスについて深く考えることができるようになる。(思考・判断・表現) ・ストレス耐性を高められるようになる。(関心・意欲・態度)	2		○		◎
			AⅢc3-15	性格とは何か	・複数のパーソナリティ理論を比較し、その違いをふまえて各理論の特徴を説明できる。(知識・理解) ・パーソナリティの形成過程を、遺伝的・社会的要因の影響をふまえて考察できる。(思考・判断・表現)	2	◎		○	
			AⅢc3-16	消費者の心理	・企業活動(商品、サービスの提供)と消費者心理とが密接に関連していることを理解し、消費者の心理がよりよい社会を実現するために必須であり、女性の消費者心理がよい企業を育て、よい社会をつくるということを説明できる。(知識・理解) ・企業が消費者心理に基づいて提供しているサービスや商品を知り、社会動向の分析を行い、顧客視点に立った商品やサービスを提案、発表することができる。(思考・判断・表現) ・消費行動や企業活動についての知識をベースに、顧客視点の商品サービスを提案する。(関心・意欲・態度)	1	◎		○	
			AⅢc3-17	アートと心理	・アートセラピーの解釈の仕方を説明できるようになる。(知識・理解) ・アートセラピーの考え方を利用して、自己洞察を深められるようになる。(思考・判断・表現) ・アートを芸術療法の観点から解釈できるようになる。(技能) ・アートセラピーを通じて自分の感性を磨くことができるようになる。(関心・意欲・態度)	1		○		◎
			AⅢc3-18	音楽とこころ	自分の音楽経験と聴く姿勢を見つめ直し、これまで知らなかった音や音楽の世界への耳を開くことによって、聴く行為が、「私」というものの形成にどのように関わっているかについて主体的に考えられるようになる。(思考・判断・表現)	1	○		◎	
			AⅢc3-19	文学に見る行動心理	・心理学が文学に与えた影響を具体例と関連づけて説明できる。(知識・理解) ・心理学のキーワードを使って心理学の歴史的背景をふまえた作品分析ができる。(知識・理解)	1	◎		○	
ゼミナール・ 卒業論文	AⅢd4-20	心理学卒業演習	・自分でテーマを見つけて卒業論文を完成させることができる。(関心・意欲・態度) ・論文の書き方、テーマの見つけ方、文献の探し方等の基本的な論文作成の技術をすべて習得し、卒業論文を作成することができる。(技能) ・客観的な心理学的分析の考え方を説明できると同時に論文作成に応用できる。(知識・理解) ・自分が決めたテーマについて心理学的な考察ができる。(思考・判断・表現)	2	○	○	◎	○		

10. カリキュラムツリー



11. 履修系統図

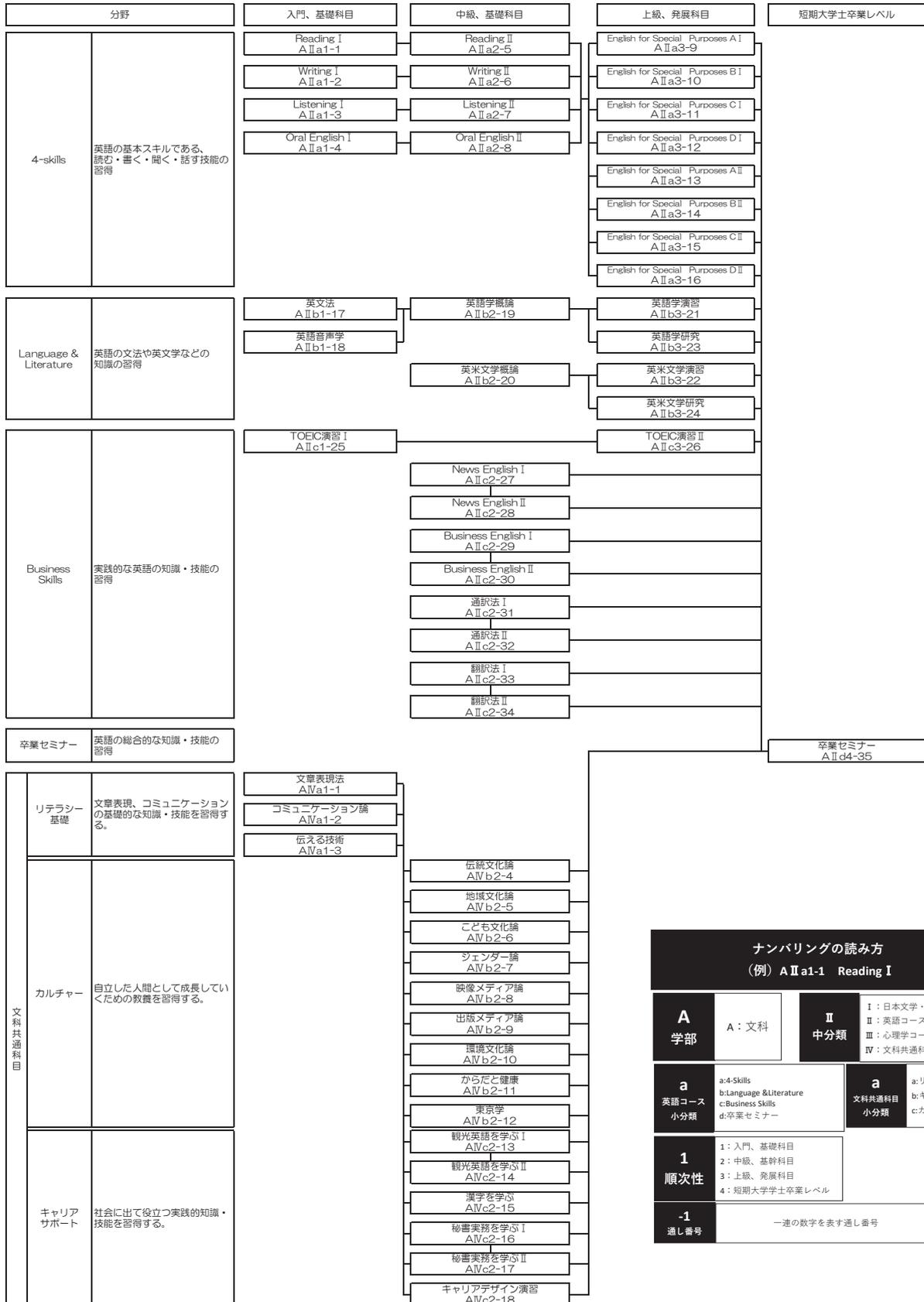
日本文学・表現コース



ナンバリングの読み方
(例) AⅠa1-1 ことばの仕組みⅠ

A 学部	A: 文科	I 中分類	I: 日本文学・表現コース II: 英語コース III: 心理学コース IV: 文科共通科目
a 日本文学・表現コース 小分類	a:リテラシー b:リテラチャー c:クリエイト d:セミナー	a 文科共通科目 小分類	a:リテラシー基礎 b:キャリアサポート c:カルチャー
1 順次性	1: 入門、基礎科目 2: 中級、基幹科目 3: 上級、発展科目 4: 短期大学士卒業レベル		
-1 通し番号	一連の数字を表す通し番号		

英語コース

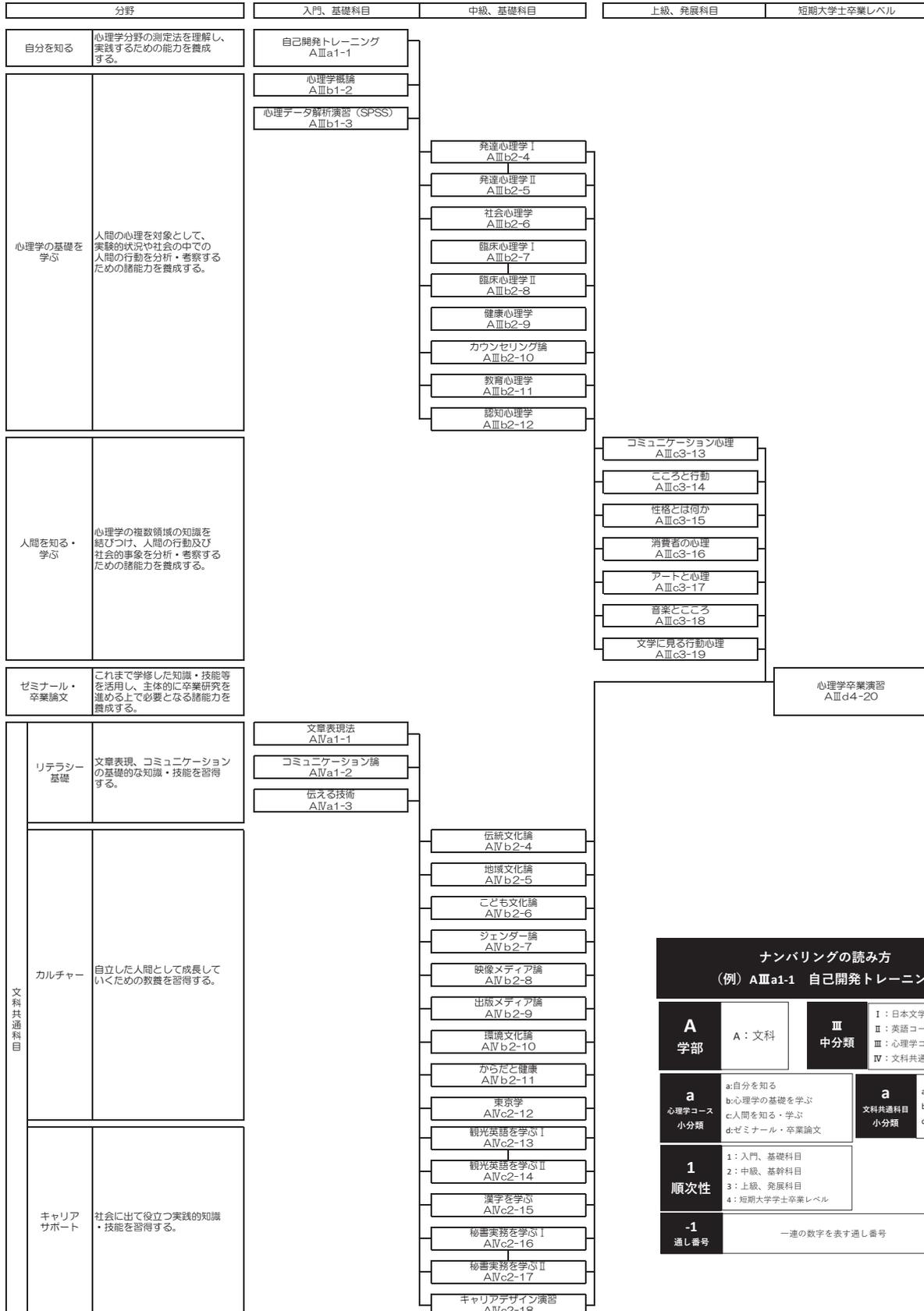


文科

ナンバリングの読み方 (例) AⅡa1-1 Reading I

A 学部	A: 文科	Ⅱ 中分類	Ⅰ: 日本文学・表現コース Ⅱ: 英語コース Ⅲ: 心理学コース Ⅳ: 文科共通科目
a 英語コース小分類	a:4-Skills b:Language & Literature c:Business Skills d:卒業セミナー	a 文科共通科目小分類	a:リテラシー基礎 b:キャリアサポート c:カルチャー
1 順次性	1: 入門、基礎科目 2: 中級、基礎科目 3: 上級、発展科目 4: 短期大学士卒業レベル		
-1 通し番号	一連の数字を表す通し番号		

心理学コース



ナンバリングの読み方
(例) AⅢa1-1 自己開発トレーニング

A 学部	A: 文科	Ⅲ 中分類	I: 日本文学・表現コース II: 英語コース III: 心理学コース IV: 文科共通科目
a 心理学コース 小分類	a: 自分を知る b: 心理学の基礎を学ぶ c: 人間を知る・学ぶ d: ゼミナール・卒業論文	a 文科共通科目 小分類	a: リテラシー基礎 b: キャリアサポート c: カルチャー
1 順次性	1: 入門、基礎科目 2: 中級、基礎科目 3: 上級、発展科目 4: 短期大学士卒業レベル		
-1 通し番号	一連の数字を表す通し番号		

12. 履修モデル

日本文学・表現コース

◎必修科目 ○選択科目

科目区分	授業科目名	単位数	配当年次	【履修モデルA】	【履修モデルB】	【履修モデルC】	卒業要件	修得単位数		
				近現代文学探究を中心に履修するモデル	古典文学探究を中心に履修するモデル	文学創作を中心に履修するモデル				
教養教育科目(抜粋)	基礎ゼミナール	1	1前	◎	◎	◎	1	16		
	自律と努力コア	1	1前	◎	◎	◎	1			
	ライフプランと自己実現	2	1後	◎	◎	◎				
	課題解決ワークショップ	1	1後							
	創造とキャリアコア	データサイエンスとICTの基礎	2	1前・後	◎	◎	◎		2	
		英語A(リスニング・スピーキング)	2	1通	◎	◎	◎		2	
		英語B(リーディング・ライティング)	2	1通	○	○	○			
		日本の歴史を学ぶ	2	1・2前・後	○	○	○		2	
	世界の歴史を学ぶ	2	1・2前・後	○						
	人間と地理を学ぶ		1・2前・後		○					
	哲学とは何か	2	1・2前・後			○				
	協働とリーダーシップコア	現代社会の諸課題(文化・芸術)	2	1・2前・後	○	○				
		現代社会の諸課題(メディア・表現)	2	1・2前・後			○			
	専門教育科目	リテラシー基礎	文章表現法	2	1後	◎	◎		◎	2
			コミュニケーション論	2	1・2前	○	○			2
		リテラシー	伝える技術	2	1・2後				○	
ことばの仕組みⅠ			2	1・2前		○		4		
ことばの仕組みⅡ			2	1・2後		○				
現代のことばⅠ			2	1・2前	○		○			
現代のことばⅡ		2	1・2後	○		○				
リテラチャー		古典文学を読むⅠ	2	1前	○	○	○	6		
		古典文学を読むⅡ	2	1後		○				
		近代現代文学を読むⅠ	2	1前	○	○	○			
		近代現代文学を読むⅡ	2	1後		○	○			
		古典文学の研究Ⅰ	2	2前	○	○	○	6		
		古典文学の研究Ⅱ	2	2後		○				
		近代現代文学の研究Ⅰ	2	2前	○	○	○			
		近代現代文学の研究Ⅱ	2	2後	○		○			
古典文学の歴史		4	1・2通		○		4			
近代文学の歴史	4	1・2通	○		○					
セミナー	文学とことばのセミナー	2	1通	◎	◎	◎	2			
	文学とことばの卒業セミナー	4	2通	◎	◎	◎	4			
クリエイティブ	児童文学	2	1・2前・後	○		○				
	映画・演劇論	2	1・2後			○				
	サブカルチャー論	2	1・2前・後	○	○	○				
	アニメの物語学	2	1・2前	○	○	○				
カルチャー	文学創作演習	2	1・2後			◎				
	伝統文化論	2	1・2前		○	○				
	地域文化論	2	1・2前	○	○					
	こども文化論	2	1・2前・後	○	○					
	ジェンダー論	2	1・2後	○						
	映像メディア論	2	1・2前	○		○				
	出版メディア論	2	1・2後		○	○				
	環境文化論	2	1・2後		○					
からだと健康	2	1・2前			○					
キャリアサポート	漢字を学ぶ	2	1・2前	○	○		2			
	キャリアデザイン演習	2	1後	◎	◎	◎				
短大開放科目	文学に見る行動心理	2	1後	○						

修得単位数	1年次 単位数	38	38	38
	2年次 単位数	24	24	24
	合計単位数	62	62	62

文科

英語コース

○必修科目 ○選択科目 ◎つきー奨励

科目区分	授業科目名	単位数	配当年次	〔履修モデルA〕	〔履修モデルB〕	〔履修モデルC〕	卒業要件	修得単位数
				英米文化を中心に履修するモデル	国際コミュニケーションを中心に履修するモデル	語学を中心に履修するモデル		
専攻教育科目 (全課程)	自律と努力 コア	基礎ゼミナール	1	1前	◎	◎	◎	1
		論理的思考・文章表現	1	1前・後	◎	◎	◎	1
		ライフプランと自己表現	2	1後	○	○	○	
	創造と キャリアコア	データサイエンスとICTの基礎	2	1前・後	◎	◎	◎	2
		英語A (リスニング・スピーキング)	2	1通	◎	◎	◎	2
		英語B (リーディング・ライティング)	2	1通	○	○	○	
		アドバンスト英語A (ビジネス口頭表現)	2	2通			○	
		アドバンスト英語B (ビジネス文章表現)	2	2通			○	
		中国語Ⅰ (入門)	2	1前		○		
		中国語Ⅱ (表現)	2	1後		○		
		応用中国語 (総合)	2	2前・後		○		
		世界の歴史を学ぶ	2	1・2前・後	○			
	国際関係を学ぶ	2	1・2前・後		○			
	企業と社会の仕組み	2	2前・後			○		
	協働と リーダーシップ コア	現代社会の諸課題 (文化・芸術)	2	2前・後	○			
		現代社会の諸課題 (生活・地域)	2	2前・後	○			
現代社会の諸課題 (メディア・表現)		2	2前・後	○				
リテラシー 基礎	文章表現法	2	1後	◎	◎	◎	2	
	コミュニケーション論	2	1・2前		○			
	伝える技術	2	1・2後	○	○			
	4 Skills	Reading I	1	1前	◎	◎	◎	1
		Writing I	1	1前	◎	◎	◎	1
		Listening I	1	1前	◎	◎	◎	1
		Oral English I	1	1前	◎	◎	◎	1
		Reading II	1	1後	◎	◎	◎	1
		Writing II	1	1後	◎	◎	◎	1
		Listening II	1	1後	◎	◎	◎	1
		Oral English II	1	1後	◎	◎	◎	1
		ESP- A I	1	2前			○	4
ESP- B I		1	2前	○				
ESP- C I		1	2前		○	○		
ESP- D I		1	2前	○	○	○		
ESP- A II		1	2後	○				
ESP- B II		1	2後	○				
ESP- C II	1	2後		○	○			
ESP- D II	1	2後	○	○	○			
Language & Literature	★ 英文法	2	1通			○	2	
	★ 英語音声学	2	1通	○	○	○	4	
	★ 英語学概論	4	1・2通		○	○		
	★ 英米文学概論	4	1・2通	○			3	
	英語学演習	1	2前		○	○		
	英米文学演習	1	2前	○		○		
	英語学研究	2	2後		○	○		
英米文学研究	2	2後	○					
Business Skills	★ TOEIC 演習 I	2	1通	○	○	○	2	
	★ TOEIC 演習 II	2	2通			○		
	News English I	1	1・2前	○			4	
	News English II	1	1・2後	○				
	Business English I	1	1・2前		○	○		
	Business English II	1	1・2後		○	○		
	通訳法 I	1	1・2前		○			
	通訳法 II	1	1・2後		○			
翻訳法 I	1	1・2前	○		○			
翻訳法 II	1	1・2後	○		○			
Seminar	★ 卒業セミナー	4	2通	◎	◎	◎	4	
カルチャー	伝統文化論	2	1・2前	○				
	地域文化論	2	1・2前	○				
	ジェンダー論	2	1・2後	○		○		
キャリアサ ポート	観光英語を学ぶⅠ	2	1・2前		○			
	観光英語を学ぶⅡ	2	1・2後		○			
	秘書実務を学ぶⅠ	2	1・2前			○		
	秘書実務を学ぶⅡ	2	1・2後			○		
	キャリアデザイン演習	2	1後	○	○	◎	2	

修得単位数	1年次 単位数	40	40	40
	2年次 単位数	22	23	22
	合計単位数	62	63	62

心理学コース

◎必修科目 ○選択科目

科目区分	授業科目名	単位数	配当年次	【履修モデルA】 対人調整モデル	【履修モデルB】 対人支援モデル	【履修モデルC】 語学強化モデル	卒業要件	習得単位数	
				企業等組織における調整能力や顧客対応に必要とされる判断力・表現力を身に付け、組織の成果に貢献する人材。 企業等の対人交渉・調整が重視される部門等で、身に付けた知識・技能を活かし、活躍を目指す。	企業等組織における対人支援能力や人材育成に必要とされる判断力・表現力を身に付け、組織の成果に貢献する人材。 公共団体等の心理学の専門性が重視される部門等で、身に付けた知識・技能を活かし、活躍を目指す。	大学等の専門科目の学修・課外活動に必要とされる学力・思考力・表現力を身に付け、主体的に学修する人材。 学修の基礎となる論文作成力や語学を修得した上で、それらの知識・技能を活かし、編入学を目指す。			
教養教育科目（抜粋）	自律と努力コア	基礎ゼミナール	1	1前	◎	◎	◎	1	
		論理的思考・文章表現	1	1前	◎	◎	◎	1	
		ライフプランと自己実現	1	1後	○	○	○		
	創造とキャリアコア		データサイエンスとICTの基礎	2	1前・後	◎	◎	◎	2
			英語A(リスニング・スピーキング)	2	1通	◎	◎	◎	
			英語B(リーディング・ライティング)	2	1通	○	○	○	2
			アドバンスト英語A(ビジネス口頭表現)	2	2通			○	
			アドバンスト英語B(ビジネス文章表現)	2	2通			○	
			国際関係を学ぶ	2	1前・後		○		
			経済を学ぶ	2	1前・後	○			
		数学への招待	2	1前・後	○	○			
	協働とリーダーシップコア		現代社会の諸課題(経済・産業)	2	2前・後	○			
		現代社会の諸課題(環境・科学)	2	2前・後		○			
		現代社会の諸課題(メディア・表現)	2	2前・後			○		
専門教育科目	リテラシー基礎	文章表現法	2	1	◎	◎	◎	2	
		コミュニケーション論	2	1・2	○		○	2	
		伝える技術	2	1・2		○			
	自分を知る	自己開発トレーニング	2	1	◎	◎	◎	2	
		心理学概論	4	1	◎	◎	◎	4	
	心理学の基礎を学ぶ	心理データ解析演習(spss)	2	1	○	○	○		
		発達心理学Ⅰ	2	1・2	○	○	○		
		発達心理学Ⅱ	2	1・2	○	○	○		
		社会心理学	2	1・2	○	○	○		
		臨床心理学Ⅰ	2	1・2	○	○	○		
		臨床心理学Ⅱ	2	1・2	○		○		
		健康心理学	2	1・2		○	○		
		カウンセリング論	2	1・2		○	○		
		教育心理学	2	1・2	○		○		
		認知心理学	2	1・2	○	○	○		
	人間を知る・学ぶ	コミュニケーション心理	2	2	○		○		
		ところと行動	2	2		○		4	
		性格とは何か	2	2	○	○	○		
		消費者の心理	2	1・2	○	○			
		アートと心理	2	1・2	○		○		
音楽とところ		2	1・2	○	○		2		
文学に見る行動心理		2	1・2		○				
ゼミナール・卒業論文	心理学卒業演習	2	2	◎	◎	◎	2		
	カルチャー(抜粋)	こども文化論	2	1・2		○			
キャリアサポート(抜粋)		映像メディア論	2	1・2	○				
		からだと健康	2	1・2	○	○			
		観光英語を学ぶⅠ	2	1・2		○			
		観光英語を学ぶⅡ	2	1・2		○			
		秘書実務を学ぶⅠ	2	1・2	○				
	キャリアデザイン演習	2	1後	◎	◎	◎	2		
修得単位数	1年次 単位数			40	40	40			
	2年次 単位数			22	22	22			
	合計単位数			62	62	62			

文科

■ 短期大学開放科目

短期大学開放科目とは、生活科学科と文科の学生が、両科の垣根を越えて、関心のある科目を履修し、所定の単位を専門科目の卒業要件（単位）に加えることができる制度です。また、年間 40 単位以内であれば、卒業要件に関わらず履修することもできます。是非、この制度を利用して、両学科の専門科目を幅広く学ぶことを期待します。

生活科学科 3コース：他コース・他学科科目として 12 単位まで卒業要件に含むことができる

文 科 日本文学・表現コース：他コース・他学科科目として 8 単位まで卒業要件に含むことができる

英語コース：他コース・他学科科目として 6 単位まで卒業要件に含むことができる

心理学コース：他コース・他学科科目として 8 単位まで卒業要件に含むことができる

※上記「卒業要件」とは、それぞれ「専門教育科目の選択科目」の卒業要件のことを指します。

短期大学開放科目（生活科学科専門教育科目：文科の学生対象）

専攻	科目 ナンバリング	授業科目	年次	単位	備考
コース共通	Ha1-1	衣生活論	1・2	2	
	Ha2-2	食生活論	1・2	2	
	Ha1-3	住生活論	1・2	2	
	Ha2-4	心の健康	1・2	2	
	Ha1-10	キャリア実務入門	1	2	
メディア社会コース	Hb1-1	メディア社会論	1	2	
	Hb2-3	ソーシャルメディア論	1	2	
	Hb1-2	ポップカルチャー論	1	2	
	Hb4-6	サステイナブル社会論	2	2	
	Hb1-7	メディアデザイン論	1	2	
	Hb4-11	ユニバーサルデザイン論	2	2	
	Hb3-17	メディア心理学	2	2	
生活デザインコース	Hc1-1	生活デザイン論	1	2	
	Hc3-5	プロダクトデザイン論	2	2	
	Hc2-10	ファッションデザイン論	1	2	
	Hc3-12	ファッションビジネス論	2	2	
	Hc2-17	快適住環境論	1	2	
	Hc4-21	インテリア構成論	2	2	
食・健康コース	Hd2-1	調理学	1	2	
	Hd3-4	フードコーディネート論	2	2	
	Hd1-8	食物基礎科学	1	2	
	Hd2-10	栄養学	1	2	
	Hd3-12	女性と健康	2	2	
	Hd2-16	食品学	1	2	
	Hd2-17	食品衛生学	1	2	
	Hd3-18	食品の消費と流通	2	2	

短期大学開放科目（文科専門教育科目：生活科学科の学生対象）

専攻	科目ナンバリング	授業科目	年次	単位	備考
日本文学・表現コース	AIa1-1	ことばの仕組みⅠ	1・2	2	
	AIa2-2	ことばの仕組みⅡ	1・2	2	
	AIa1-3	現代のことばⅠ	1・2	2	
	AIa2-4	現代のことばⅡ	1・2	2	
	AIb1-5	★古典文学の歴史	1・2	4	
	AIb1-6	★近代文学の歴史	1・2	4	
	AIb2-7	古典文学を読むⅠ	1	2	
	AIb2-8	古典文学を読むⅡ	1	2	
	AIb2-9	近代現代文学を読むⅠ	1	2	
	AIb2-10	近代現代文学を読むⅡ	1	2	
	AIb3-11	古典文学の研究Ⅰ	2	2	
	AIb3-12	古典文学の研究Ⅱ	2	2	
	AIb3-13	近代現代文学の研究Ⅰ	2	2	
	AIb3-14	近代現代文学の研究Ⅱ	2	2	
	AIc2-15	文学創作演習	1・2	2	
	AIc3-16	児童文学	1・2	2	
	AIc3-17	映画・演劇論	1・2	2	
	AIc3-18	サブカルチャー論	1・2	2	
	AIc3-19	アニメの物語学	1・2	2	
英語コース	AIIa3-9	English for Special Purposes AⅠ	2	1	
	AIIa3-10	English for Special Purposes BⅠ	2	1	
	AIIa3-11	English for Special Purposes CⅠ	2	1	
	AIIa3-12	English for Special Purposes DⅠ	2	1	
	AIIa3-13	English for Special Purposes AⅡ	2	1	
	AIIa3-14	English for Special Purposes BⅡ	2	1	
	AIIa3-15	English for Special Purposes CⅡ	2	1	
	AIIa3-16	English for Special Purposes DⅡ	2	1	
	AIIb1-17	★英文法	1	2	
	AIIb1-18	★英語音声学	1	2	
	AIIb2-19	★英語学概論	1・2	4	
	AIIb2-20	★英米文学概論	1・2	4	
	AIIb3-21	英語学演習	2	1	
	AIIb3-22	英米文学演習	2	1	
	AIIb3-23	英語学研究	2	2	
	AIIb3-24	英米文学研究	2	2	
	AIIc2-27	News EnglishⅠ	1・2	1	
	AIIc2-28	News EnglishⅡ	1・2	1	
	AIIc2-29	Business EnglishⅠ	1・2	1	
	AIIc2-30	Business EnglishⅡ	1・2	1	
AIIc2-31	通訳法Ⅰ	1・2	1		
AIIc2-32	通訳法Ⅱ	1・2	1		
AIIc2-33	翻訳法Ⅰ	1・2	1		
AIIc2-34	翻訳法Ⅱ	1・2	1		
心理学コース	AIIIb2-4	発達心理学Ⅰ	1・2	2	
	AIIIb2-5	発達心理学Ⅱ	1・2	2	
	AIIIb2-6	社会心理学	1・2	2	
	AIIIb2-7	臨床心理学Ⅰ	1・2	2	
	AIIIb2-8	臨床心理学Ⅱ	1・2	2	
	AIIIb2-9	健康心理学	1・2	2	
	AIIIb2-10	カウンセリング論	1・2	2	
	AIIIb2-11	教育心理学	1・2	2	
	AIIIb2-12	認知心理学	1・2	2	
	AIIIc3-13	コミュニケーション心理	2	2	
	AIIIc3-14	ところと行動	2	2	
	AIIIc3-15	性格とは何か	2	2	
	AIIIc3-16	消費者の心理	1・2	2	
	AIIIc3-17	アートと心理	1・2	2	
	AIIIc3-18	音楽とところ	1・2	2	
AIIIc3-19	文学に見る行動心理	1・2	2		

*英語コースの科目については人数制限をする場合がある。

Ⅱ 全学科に共通する事項

1. 学籍について

学籍とは、学生として身分を有することを意味し、本学の入学試験に合格して入学手続きを完了した者に、本学への入学が許可され、本学学生としての学籍が与えられます。在学中に本人の氏名・本籍地・現住所・保証人（外国人留学生は在日保証人）等の変更があった場合は、学生支援課にただちに届け出てください。

(1) 学籍番号は入学時に決定し、原則として在学中は変更しません。学校に提出する書類には、氏名とともに学籍番号を必ず記入することになっています。

(2) 学籍番号は次のような仕組みになっています。

例)

22	アルファベット	000	H = 生活科学科
入学年度	学部区分	個人番号	A = 文科

2. 学生証

(1) 学生証は、学生の身分を証明する重要なものです。常に携帯し、本学教職員の請求があった場合は呈示しなければなりません。学生証は、以下の場合に必ず必要になりますので、毎日必ず持参してください。

①授業の出席情報の登録

②試験を受ける際の身分確認

③各種証明書の交付

・証明書や学割証は、本館2階・3号館ロビーに設置の証明書自動発行機より発行します。

④情報処理演習室における印刷物のプリントアウト

⑤図書館の利用

(2) 学生証は他人に貸したり、譲ったり、出席情報登録などにおける悪用その他の不正使用をしてはなりません。不正使用した場合、学則（第60条）に反したとして厳しく処分されます。また、紛失、盗難にあって悪用されないよう十分注意してください。卒業、退学等により学生としての身分が消滅した場合は、学生証を教務課に返却してください。

(3) 学生証の記載事項に変更があった場合、および学生証を紛失した場合はただちに教務課へ届け出てください。特に学外での紛失・盗難の場合は、悪用される危険性があるので、最寄りの警察にも届けておくようにしてください。個人情報が登録されている大変重要なものですから、卒業時まで大切に扱ってください。

3. 学籍異動

長期欠席・休学・退学する場合は、早めに担任または教務課に相談してください。

A 休学・復学（学則第34条、第35条）

- (1) 病気その他やむを得ない理由によって1学期以上就学できない場合は、保証人連署のうえ願い出て、休学の許可を得なければなりません（病気の場合は診断書を添付）。
- (2) 休学期間はその年度内とし、願出によって引き続き1年以内休学することができます。
- (3) 休学期間は卒業するまで通算して生活科学科と文科は2年を超えることはできません。
- (4) 休学期間は学則に定められている修業年限および在学年数に算入されません。
- (5) 休学期間が終了して再び就学を希望する場合は、保証人連署のうえ「復学願」を提出して許可を得なければなりません。復学の時期は学期の始めとします。

B 退学（学則第36条）

病気その他やむを得ない理由によって退学しようとする場合は、保証人連署のうえ願い出て、許可を得なければなりません。ただし願い出た期日を含む学期の授業料等の学費を納入していなければなりません。

C 除籍（学則第38条の2）

次のいずれかに該当する場合は、教授会の議を経て除籍されます。

- (1) 学則に定める期限までに授業料等の学費を納入していない場合
- (2) 学則に定める在学年限を超えた場合
- (3) 学則に定める休学期間を超えた場合
- (4) 長期間にわたって行方不明の場合
- (5) 所定の期日までに履修しようとする授業科目の届け出がない場合

D 再入学（学則第38条）

退学した者または除籍となった者が2年以内に申し出て選考のうえ許可を得た場合は、再入学することができます。ただし、再入学の時期は学年の始めとします。

なお、在学年限を満たして退学または除籍となった場合は該当しません。

E 転学部・転学科・転専攻について

本学では学科相互間において選考のうえ、異動することができます。異動にあたっては同一年次で再度学修するなど2年間での卒業ができない場合もあります。毎年5月ごろ募集要項が完成します。詳細は教務課までご相談下さい。

4. 学費

- (1) 学費は、毎年下記の期限までに、保証人宛に郵送される振込み用紙により銀行に振り込んでください。授業料等の学費の納入期限は次のとおりです。

前期分	4月30日
後期分	10月20日

上記期限内に納入されない時は除籍の対象となり、学生としての身分を失うこととなります。不測の理由で期限までに納入できない場合は、教務課に「学費延納願」を提出し、許可された場合は納入期限を延長することができます。

ただし、延長することができる期限は、前期分は6月30日まで、後期分は12月31日までです。いずれも学費納入期限内に願い出た場合のみに、その理由により許可されます。

- (2) 学費納入済みの学期を過ぎて退学を願い出る場合は、4月30日までに「退学願」が提出された場合は3月31日に、10月20日までに提出された場合は9月20日にさかのぼって退学を許可します。ただし、前記期限を過ぎて願い出た場合は、除籍となります。なお、除籍期日は前年度の3月31日または当該年度の9月20日付けとなります。

納 入 額

	生活科学科	文科
入 学 金	150,000 円	150,000 円
授 業 料 (年額)	750,000 円	750,000 円
施設設備維持費(年額)	390,000 円	360,000 円
実験実習料(年額)	50,000 円	—
科目等履修登録料	16,000 円	16,000 円
科目等履修料(1単位につき)	12,000 円	12,000 円

納入方法

1. 授業料および施設設備維持費、実験実習料は半額ずつ前期分は4月30日まで、後期分は10月20日までに納入するものとする。
2. 2年次以降の納入金は、新入学者の納入金(入学金を除く。)と同額とする。
3. 最低在学年限を超過した学生の納入金は、当該学生の前年度納入金と同額とする。
4. 休学期間中は在籍料として半期休学の場合は5万円を、1年間休学の場合は10万円を納めなければならない。
5. 留年者の学費納入取り扱い基準
 - 卒業要件不足単位数が10単位以内は納入金の年額の4分の1とする。
 - 卒業要件不足単位数が11単位から25単位は納入金の年額の2分の1とする。
 - 卒業要件不足単位数が26単位以上は納入金の年額とする。
6. 再入学者の入学金は徴収しない。

◎高等教育の修学支援新制度について

高等教育の修学支援新制度は、2020年4月より始まった大学等が行う入学金・授業料の減免と日本学生支援機構の給付型奨学金を利用して、修学を支援する制度です。申請を検討している方は、学生支援課奨学金窓口あるいは教務課へご相談下さい。

5. 単位および授業期間

(1) 単位について

大学・短期大学は、高校と同じ単位制度を取っています。大学・短期大学での学修において、単位に応じて「必要な学修時間」の仕組みを必ず理解してください。

国の基準では『1単位は45時間の学修を必要とする』と決められています。単位を取得するためにどのくらいの学修時間が必要なのか、次の例で計算してみましょう。なお、大学の学修時間は慣習として1時間を45分として計算します。

【例】半期（前期もしくは後期）の講義科目=2単位

● 1単位=45時間の学修が必要 ⇒ 講義科目2単位=90時間=4,050分の学修が必要

授業内の学修時間	+	授業外の学修時間	=	必要な学修時間
1,400分（14回） 100分（1回）		2,650分 189分（授業1回分）		4,050分 授業+授業外

単位取得のためには、授業時間に加えて、授業外での学修が求められています。上記の2単位の講義科目例では週に3時間超の授業外学修時間が必要なことが分かりました。この授業外での学修は、事前学修・事後学修と言われ、各授業のシラバスにも、学修すべき内容が記載されています。自ら積極的に学修してください。

(2) 授業期間について

本学では学則第6条に示す通り、前期および後期の2学期にわけて実施しています

前期	4月1日～9月20日
後期	9月21日～3月31日

(3) 開講期間と科目の区分について

授業科目には、開講する期間に応じて次のような区分があります。

区 分	開 講 期 間
通年科目	年間を通して実施
半期科目	前期、または後期で完結
集中講義	短期間に集中して実施

6. 授 業

2022年度の授業方法は、「対面授業」を基本とします。なお、大学が教育上、効果があると認めた一部の科目については、「オンライン授業」を導入します。ただし、「オンライン授業」の形式は、**kyonet**（共立女子大学・共立女子短期大学教育ネットワークシステム）クラスプロファイルを使用した「オンデマンド型授業」とします。また、「オンライン授業」対象科目については、シラバス等で告知・周知することとします。

【新型コロナウイルス感染症の感染状況への対応】

上記の「授業方法」を原則とした上で、新型コロナウイルス感染状況によっては、三密を避ける等の対処に加え、授業の一部または全てを「オンライン授業」とする可能性があること、その対応を要請する可能性があることを予めご承知おきください。

（1）授業時間

平常の授業は、授業時間割表に従って次の時間で行なわれます。授業は通常1時限単位で行なわれますが、実験・実習科目等で1.5時限や2時限の授業もあります。

時限	時間
1時限	9：00～（9：50）～10：40
2時限	11：00～（11：50）～12：40
3時限	13：30～（14：20）～15：10
4時限	15：30～（16：20）～17：10
5時限	17：30～（18：20）～19：10

（2）休講・補講

授業担当者がやむを得ない理由で授業を休講する場合は、**kyonet**より伝達します。休講情報がなく、始業時より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務課に連絡して、その指示に従ってください。

授業が休講となった場合、補講を行なうことになっています。補講は主として土曜日の午後または補講調整日に行ないます。

(3) 授業への出席と遅刻・早退・欠席の取扱い

《授業への出席》

- ・授業には必ず出席してください。単位を修得するためには、授業に全て出席することが前提となります。
- ・授業に出席したら、出席情報登録システムのカードリーダー（教室のドア付近に設置）に学生証を当ててください。出席の情報は、授業担当者が出席情報を正しく把握するために使用します。
- ・カードリーダーは、教室、演習室、実験・実習室のドア付近にあります。100人以上収容の教室には2つ取り付けてあります。
- ・出席情報登録システムへの「出席」としての登録は、授業開始時刻10分前から授業開始時刻までです。
（例）1限の場合 8:50～9:00
- ・自身の出席情報は、通称 **kyonet** で確認することができます。
- ・授業によっては、カードリーダーによる出席情報の登録ができない場合があります。その場合は、授業担当者の指示に従ってください。
- ・学生証を忘れた場合は、その旨を直接授業担当者へ申し出てください。

《遅刻・早退》

- ・授業開始時刻から20分を経過するまでは遅刻の扱いとなります。
- ・出席情報登録システムへの「遅刻」としての登録は、授業開始時刻1分後から20分を経過する前までです。これを過ぎると「受付終了」と表示されます。
（例）1限の場合 9:01～9:19
- ・「受付終了」後は、欠席扱いとなりますが、必ずカードリーダーに学生証を当ててください。学生証を当てた時刻が記録されます。
- ・電車などの遅延で遅刻または受付終了となった場合、授業後すぐに授業担当者へ申し出てください（遅延証明書があれば、裏面に学籍番号と名前を記入して提出するようにしてください。なお、取り扱いは授業担当者に任されています）。
- ・止むを得ず授業を早退する場合は授業担当者にその旨を伝えてください。
- ・遅刻・早退は3回をもって欠席1回に換算されます。

《欠席》

- ・大学の試験規程により「当該授業科目の出席時間数が原則として授業総時間数の2/3以上あること」が受験資格の条件の一つとなっています。
- ・大学では公欠の取り扱いはありません。いかなる理由（忌引き、実習、就職活動等）でも欠席を出席とすることはしません。ただし以下の届け出に関しては、試験の受験資格に抵触する場合に授業担当者によって配慮されることがあります。

○病気やけがなどで一週間以上続けて欠席する場合

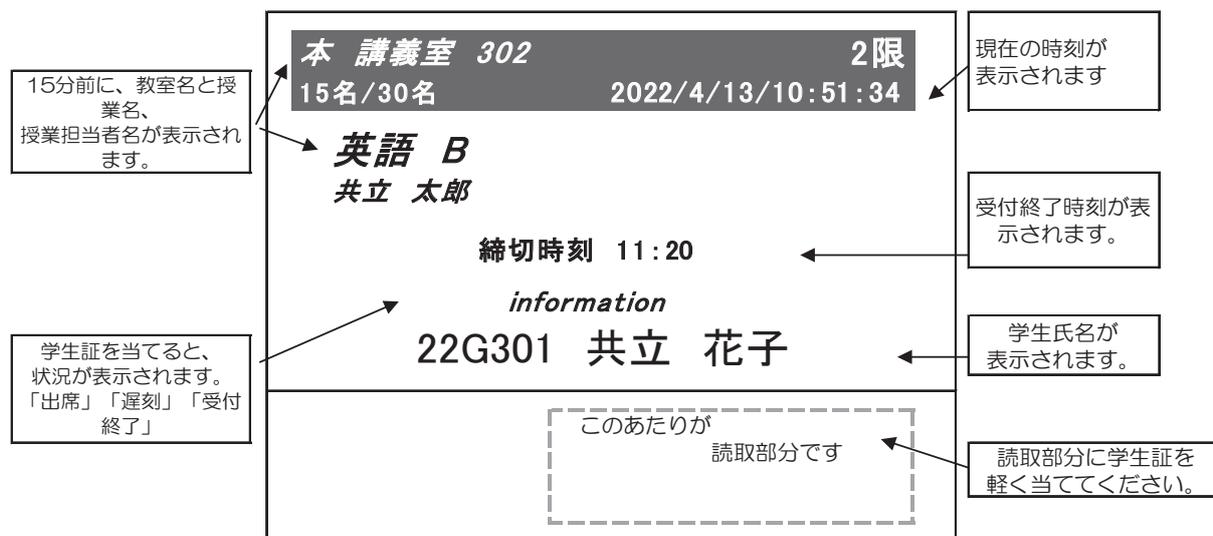
教務課にある所定の用紙「欠席届」による届け出が必要です。

病気やけがが治り、登校ができるようになってから提出してください。

試験の日程が迫っている場合は、教務課にお問合せください。

○就職活動における欠席届

＜カードリーダーの画面と登録方法＞



★何度学生証を当ててもエラーが出る場合は、カードの不良、または正しく履修登録がされていない可能性があります。すぐに教務課で確認してください。

(4) 緊急事態発生時の授業・試験等の取り扱い

緊急事態（天候・交通機関等）が発生した場合の授業・試験等の取り扱いは、**kyonet**、学内放送、ホームページ (<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>) で伝達します。

停電などの非常時は Facebook、Twitter を含めて伝達します。

緊急時には上記の方法でかならずご確認ください。

台風接近時等の授業実施の対応について、「開講」または「休講」の通知を一日に 2 回、以下の通り周知することがあります。

通知内容	通知時間
「午前授業」(1・2 時限) の実施について または「終日休講」の実施について	本学ホームページにおいて午前 6 時 00 分までに周知、 kyonet にて午前 6 時 30 分までに通知
「午後授業」(3・4・5 時限) の実施について	午前 10 時 50 分までに

備考：①台風や大雪等、気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合、また公共交通機関の計画運休等により授業実施が困難と予想される場合は、前日に授業の休講・試験の延期措置の決定を行うことがあります。その場合は、前日の 20 時までには周知します。

②気象状況等の急変により、その他措置を行う場合は、その都度周知します。

7. 履修登録

履修登録とは

各自が作成した授業時間割をもとに、履修しようとする科目を届け出ることをいいます。

履修登録されていない科目は、授業を受けることも、また試験を受けて単位修得することもできません。

履修登録は、指定された期間に1年間に履修するすべての科目を、**kyonet**（共立女子大学・共立女子短期大学教育ネットワークシステム）の**Web**履修登録により行います。学内の情報演習室に設置されたパソコンやラウンジ等に設置されたインフォメーションPCから入力できる他、インターネットを利用できる環境でしたら自宅のパソコンやスマートフォンからも入力できます。

「**Web**履修登録」の詳細は、オリエンテーション期間中のガイダンスでお知らせします。

履修登録期間は、履修しようとする科目や所属する年次等によりあらかじめ指定されますので、期日内に履修登録を確定する必要があります。

履修登録の流れの手順に沿って、履修登録を行ってください。わからないことがあった場合は、教務課へ相談、またはオリエンテーション期間中の「履修相談」の時間を利用してください。

履修登録の流れ

<前期履修登録>

- ① オリエンテーション期間中の各ガイダンスに出席し、注意事項を確認します。
- ② 『履修ガイド』の<卒業に必要な最低単位数>と<カリキュラム表>を熟読します。
- ③ 必修科目や選択必修科目、選択科目を確認し、それぞれの配当年次を考慮しながら、卒業時までの履修計画をたてます。
- ④ 履修しようとする科目の授業内容を共立シラバスで確認します。
- ⑤ 履修しようとする科目の開講曜日・時限を **kyonet** またはホームページの時間割で確認します。
- ⑥ 前期・後期・通年各科目単位数の合計が履修上限単位内に収まるように、1年間の履修計画をたてます。（授業の予習・復習する時間を考えて、38～40単位を目安に計画することをおすすめします）
- ⑦ 履修しようとする科目の履修条件を確認します。
- ⑧ 各自が履修しようとする時間割を下書き用紙に書き出します。
必修・選択必修科目→選択科目の順に時間割に書き込みます。
必修・選択必修科目は、高学年に進んでから単位不足に気づき、卒業年次になってから、多くの科目を履修することのないように、配当年次で履修することをおすすめします。
- ⑨ **kyonet** の「学生時間割表」でクラス指定された授業を確認します。
（時限を重複して登録はできませんので、下書き用紙に書き出した時間割に変更が必要か確認し、計画を立て直してください。）
- ⑩ 履修しようとする「抽選登録」の科目を指定された期間中に **kyonet** で履修登録します。（抽選にもれた場合は、他の曜日・時限の科目を選択するか、次年度に履修してください。）
- ⑪ 指定された期間に **kyonet** でその他の1年間分の科目（前期だけでなく、後期・通年科目も）を履修登録します。
- ⑫ **kyonet** の「学生時間割表」で、再度登録した科目を確認し、必修科目など登録し忘れがないかチェックします。
- ⑬ 時間割が確定したら、テキスト販売一覧を見て、一覧に載っているテキストは、指定の期間内に指定の方法で購入します。一覧にない科目については、授業担当者に確認してください。
- ⑭ 授業開始4週目経過後（予定）の一定期間内に「履修中止期間」を設けています。履修を中止したい授業科目がある場合、アカデミックアドバイザー（P.89 参照）に履修相談をし、認められた場合に中止できます。

<後期履修について> ※後期開講科目のみ対象

- ① 授業開始から4週目経過後（予定）に履修中止期間が設けられます。

履修登録上の注意

- (1) **1年間に履修登録できる単位の上限は原則として40単位までです。**ただし、2年次以降は前年度までの通算GPA3.0以上の学生については、履修指導の上、44単位まで認めます。
- ・認定単位（入学前既修得単位、本学が開設する認定科目の単位）はこの中に含まれません。
 - ・単位互換協定による授業も年間履修登録上限単位数に含まれます。
 - ・転学科した学生は上記年間履修登録上限単位数の適用となります。
 - ・後期に追加登録する場合、前期の不合格（D評価またはX評価）単位数も登録上限単位に含まれます。
 - ・履修中止にする場合、中止にした科目の単位数も履修登録上限単位に含まれます。
 - ・生活科学科－『チャレンジゼミナール』の単位は含みません。
2年次の後期には、通年科目を含めて4単位以上履修しなければいけません。
他コース・他学科科目も履修できますが、修得した単位は12単位を上限として専門教育科目選択科目に含めることができます。
転コースした者も上記上限単位が適用になります。
- (2) 授業によっては履修者数を制限したり、履修するクラスを指定する場合があります。原則として配当されている授業科目を履修してください。ことわりなく他のクラスを登録すると、履修を取り消されることがあります。
- (3) 上級年次配当の授業科目は履修できません。低年次に配当された科目であればいつでも履修可能です。
- (4) 登録した科目の中止は履修中止期間以外は認められません。
- (5) 単位を修得した授業科目は再度登録することはできません。
- (6) 登録した授業科目は放棄せず、履修して試験を受けてください。登録した科目を放棄したり、試験を受けなかった場合は、評価対象外（X）として不合格になります。
- (7) 履修した科目の評価がDまたはXの場合は、再度履修して試験に合格しなければ単位は与えられません。
- (8) 受講人数が制限されている実験・実習・演習科目は所属コースの学生の履修が優先されるため、他コースの学生は受講できない場合があります。
- ・生活科学科－実験・実習・演習科目は導入時の授業が大切なので、最初の2回分の授業を欠席した場合、受講できない場合があります。
- (9) 履修者が少ない授業科目は、他のクラスとの合併、もしくは休講となる場合があります。
- (10) 履修登録に関する変更がある場合は、オリエンテーション時に説明しますので、毎年必ずガイダンスに出席してください。

<共立女子大学と共立女子短期大学の単位互換制度について>

本学は大学と短期大学間の単位互換協定を締結しています。

これにより所属する大学の学部・短期大学の学科にはない科目を相互に受講することができます。詳細は **kyonet** でお知らせします。

<千代田区キャンパスコンソにおける単位互換制度について>

千代田区キャンパスコンソは、千代田区内の徒歩圏にキャンパスを有する大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学により、2018年4月1日に設立されたコンソーシアムです。千代田区（関係団体等を含む）、地域産業界等が、近接の立地等を生かした連携を図ることにより、学生の学びや社会の人材養成に対する要請など多様なニーズに適切に対応することを目的としています。

上記協定を締結した大学・短期大学の授業を履修し、修得した科目は単位認定を行います。

履修を希望する学生は、教務課で手続きが必要です。詳細は、**kyonet**でお知らせします。

<担任（アカデミックアドバイザー）について>

本学には、担任（アカデミックアドバイザー）制度があります。担任（アカデミックアドバイザー）とは、履修方法や成績を向上させるための方法、進路に関する事など、学生生活全般について相談、アドバイスを行う専任教員のことです。各年次に最低一度は担任（アカデミックアドバイザー）との面談を実施しますが、面談以外にも学生生活を送るうえで必要な時にいつでも相談することができます。

<オフィスアワー>

本学ではオフィスアワーを定めています。オフィスアワーとは、教員が学生の訪問を受けるために研究室などあらかじめ指定した場所に待機している時間帯のことです。

履修に関することや進路、学生生活全般に関する質問・相談をすることが出来ます。各教員のオフィスアワーは、**kyonet**にて、確認してください。

なお、会議や出張等により在室できない場合もあります。

オフィスアワー以外の時間帯でも教員の研究室等を訪問することが出来ます。

8. 既修得単位の認定

他の短期大学または大学、高等専門学校、その他を卒業または中途退学し、新たに本学科の1年次に入学した場合、修得済みの単位を、生活科学科および文科は30単位を超えない範囲で、本学において修得したものと認定される場合があります。

認定を希望する学生は所定の期日までに教務課まで願い出てください。（入学前に準備する必要あり。「入学のしおり」参照）

9. 試 験

試験は学則にもとづき大学が学生に対して授業科目所定の課程修了を認定する方法です。試験に合格した場合は授業科目所定の単位を与えます。不合格の場合は再履修して、試験に合格しなければ単位は与えられません。

(1) 試験の方法

試験はそれぞれの授業科目に応じて、筆記・口述・レポート・論文・作品の制作・実技等によって行ないます。

(2) 試験の種類

試験の種類は次のとおりです。

種 類	内 容
平 常 試 験	授業担当者が学修の到達度を確認するために授業内で行う試験をいいます。
定 期 試 験	授業とは別に設けた定期試験期間に行う試験をいいます。定期試験期間は学年暦（kyonetの「リンク集」に掲載）に示しています。
追 試 験	病気その他やむを得ない理由で定期試験を欠席した学生のうち、所定の手続きをした者に対して行う試験です。
再 試 験	卒業期の学生で試験に不合格となり卒業できない者のうち、教授会の許可を得たものに対して行う試験です。
再 評 価 試 験	1年次で試験または追試験に不合格となった者に対して行う試験です。 (生活科学科のみ)

(3) 受験資格

受験資格は次の通りです。受験資格のない者が試験を受けても無効であり、単位は与えられません。

- (1) 当該科目の履修登録をしていること。
- (2) 出席時間数が実質授業総時間数の2/3以上あること。なお、遅刻、早退は3回をもって欠席1回に換算します。
- (3) 当該期の学費を納入していること。

(4) 追試験

- (1) 病気、交通機関の事故等による遅れやその他やむを得ない理由により定期試験を欠席する場合は、当該試験科目の**開始前に教務課**へ連絡してください。本人が連絡できない場合は、代理人（父母またはそれに代わる者、ただし友人は不可）でかまいません。
連絡先は「CAMPUS GUIDE」の窓口・手続き案内を参照してください。
- (2) 該当する科目の定期試験終了後5日以内（5日目が日曜日の場合は前日の土曜日正午まで）に**欠席理由を証明するもの**（病気で医師の診療を受けた場合は病院の領収書等）を添え、教務課に「追試験願」を提出してください。
- (3) 時間割の見間違い等、本人の怠慢、不注意による場合は、追試験を受けることができません。

- (4) 前期の定期試験の追試験は8月～9月に（通年の科目については実施しない場合もあります。）、後期定期試験の追試験は2月中に行ないます。
- (5) 追試験の成績は2割以内の範囲で減点されます。
- ※ 追試験の受験料は1科目につき2,000円です。

(5) 再試験

- (1) 再試験は卒業期学生を対象に行われるものです。原則として最終の試験の結果、卒業要件単位に達しない者のうち、卒業年度の不合格科目（D）の単位数が生活科学科は10単位、文科は12単位以内で、教授会の許可を得た者が受験することができます。
- (2) 出席不良、レポート未提出の理由で評価対象外（^{エックス}X）と判定された科目は再試験の対象となりません。
- (3) 再試験の受験が認められた場合は、2月中旬に教務課から連絡します。再試験は2月下旬に実施されます。
- (4) 受験する者は、教務課に「再試験願」を提出してください。
- (5) 再試験で合格した場合の評価は「C」になります。
- ※再試験の受験料は1科目につき3,000円です。

(6) 再評価試験（生活科学科）

- (1) 再評価試験は、試験、追試験を受けて、既修得単位数が16単位以上、20単位未満で、不合格科目（評価D）単位数が、既修得単位数とあわせて進級に必要な単位数以上である1年次の学生が受けることができます。
- (2) 受験できる科目数は、進級に必要な単位数までとします。
- (3) 再評価試験に対する追試験は行いません。
- (4) 受験する学生は、教務課に「再評価試験願」を提出して下さい。
- (5) 再評価試験で合格した場合の評価は、「C」になります。
- ※再評価試験の受験料は1科目につき、3,000円です。

夏休み等に海外旅行（研修）をする場合は、試験等と重ならないよう計画を立ててください。旅行等で試験を受けられない者に対して特別の試験や追試験の資格は与えられません。また、期末試験終了後の春休みに海外旅行（研修）をする場合は、オリエンテーション、履修登録に間に合うように注意してください。

(7) 試験中の不正行為

試験中、不正行為があった場合は学則により教授会の議を経て懲戒処分されます。

懲戒処分は、訓告、停学および懲戒処分としての退学とし、当該学生および保証人に対しその旨が通知されます。

懲戒となった学生は次の資格を失います。

- ①不正行為のあった科目の当該年度における受験資格
- ②諸資格に関する科目の履修登録および資格の申請

(8) レポートの提出

レポートの提出は、**kyonet**を使った**Web**提出のほか、紙による提出等があります。詳細については授業担当者の指示にしがってください。

(9) 受験の際の注意事項

1. 試験場においてはすべて監督の指示に従い、これに反した場合は退場を命ぜられます。
2. 学生証は写真が見えるようにして通路側の机の上に置いてください。
学生証を携帯していない者は、受験が許可されないので、試験当日、学生証を忘れた場合は事前に教務課に申し出て「試験受験許可証」の交付を受けてください。
3. 筆記用具のみを机に出して、その他の物は袋・バッグ等に入れてください。
携帯電話等は電源を切ってください。
4. 受験中の私語や、物品の貸借は禁止です。
5. 受験した場合はどのような理由があっても答案用紙を提出してください。提出しない場合は不正行為に準じて処罰されます。
6. 試験場への入場は不可抗力による場合、30分以内の遅刻に限り認められます。ただし、試験時間は延長されません。30分以上遅刻した場合はただちに教務課に連絡してください。
7. 試験に関する連絡は時間割等発表後も変更する場合がありますので、注意してください。

(10) 成績

<評価>

履修した授業科目の評価は、試験の結果等によって判定され、合格した場合に科目所定の単位が与えられます。評価の基準は下記のとおりです。

合否	評価	点数	評価の基準	グレード・ポイント (GP)(※3)	成績証明書の記載
合格	S	100～90点	到達目標を超えたレベルを達成している	4.0	S
	A	89～80点	到達目標(※1)を達成している	3.0	A
	B	79～70点	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している	2.0	B
	C	69～60点	単位修得目標(※2)を達成している	1.0	C
不合格	D	59点以下	単位修得目標を達成できていない	0.0	記載されません
	X	受験資格なし、試験放棄、レポート未提出等		0.0	
合格	P	認定	単位認定の要件を満たしている	対象外	P

※1 到達目標…授業で扱う内容を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

※2 単位修得目標…授業を履修した学生が最低限身につける内容を示す目標です。到達目標を達成するにはさらなる学修を必要としている段階です。

※3 グレードポイント (GP) …各科目の成績をその評価に応じて5段階に分けてポイント化したものです。

- (1) 前期終了科目は後期授業開始前後に、通年科目と後期終了科目を含めた当該年度のすべての成績および GPA 値は **kyonet** で確認することができます。
- (2) 単位の修得について疑問のある場合は、指定された期間に教務課に申し出て確認してください。

<GPA>

本学では、学生の主体的な学習を支援し、その学習成果に関しては厳正な成績評価を行っています。さらに学生が自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく真剣な学習に役立つように、履修した全科目の成績の平均を数値で表したGPA（Grade Point Average/ グレード・ポイント・アベレージの略）を算出しています。高等学校の評定平均のように学業結果を総合的に判断する指標となります。

このGPAは、学習の質を評価する成績評価の国際標準となっており、合格した科目だけではなく、不合格や受験不可の科目も成績算出対象となるのが大きな特徴のひとつです。したがって、学生には自分の履修に対して、より真剣に取り組むことが求められます。

また、教員は学生の履修指導にGPAを活用します。履修指導以外にも、進学時・就職時の推薦基準や、奨学金支給等の参考資料として活用します。

(1) GPAの主な内容

GPAは、学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。本学のGPAの算出式は下記に示すとおりです。

- ①履修登録科目の成績に応じて与えられた各科目のグレード・ポイントに、各科目の単位数をかけて合計します。
- ②①で得られた値を履修登録科目の総単位数で割り、四捨五入により小数点第一位まで表示したものがGPAとなります。

$$\frac{(\text{科目の成績評点 [GP]} \times \text{単位数}) + (\text{科目の成績評点 [GP]} \times \text{単位数}) + \dots}{\text{登録科目の総単位数 (「D」「X」の単位数も含む)}}$$

※「P（認定）」は、計算式に含みません。

※不合格科目（D評価）や放棄科目（X評価）は、計算式に含みません。

- ③GPAは **kyonet** の成績照会から確認できます。成績証明書には通算GPAが記載されます。

※GPA計算はGPA計算期日（前期は9月中旬、後期は2月中旬）までに確定した成績に基づいて計算されます。

④GPAの活用について

1) GPAが低い学生に対しては、次の対応を行います。

- a. 学期のGPAが1.4以下となった学生に対しては、本人を呼び出し、アカデミックアドバイザーによる注意と指導を行います。
- b. 学期のGPAが2学期連続1.4以下を、または在学期間のうち、3学期分がそれ以下となった学生に対しては、本人および保証人（保護者等）を呼び出し、アカデミックアドバイザーによる注意と指導を行います。
- c. 学期のGPAが3学期連続1.4以下を、または在学期間のうち、4学期分がそれ以下となった学生に対しては、学生の状況に応じ、成業の見込みを教授会で審議の上、退学を勧告する場合があります。

2) GPAが高く、学業が特に優秀と認められる学生に対しては、教授会で審議の上、表彰を行うことがあります。

⑤履修中止制度について

履修登録をしたものの、授業内容が学修したいものと異なっていたり、授業を理解するための基礎知識が不足していることなどの理由により、履修を継続することが難しく、単位の修得が困難であると考えられる場合、不合格となることでGPAが下がることを回避するために、履修中止制度が設けられています。

履修中止は、授業開始4週目経過後に、本人が教務課に申請し、問題がない場合のみ履修中止ができ、科目の登録が取り消されます。

前期は、前期開講科目と通年科目、後期は、後期開講科目が履修中止の対象となります。ただし、必修科目および学部・学科で中止不可科目として指定した科目は履修中止対象外となります。

履修中止を行わず、学期途中で履修を放棄した場合は不合格となります。不合格後に履修中止を行うことはできません。

10. 進 級

生活科学科

1年次終了時の修得単位数が20単位未満の場合は2年次に進級できません。なお、既修得単位数が16単位以上の場合は再評価試験により、進級できる場合があります（詳細はP.91）。

文科

1年次終了時の修得単位数が20単位未満の場合は2年次に進級できません。

11. 海外留学・研修

(1) 海外留学

	「留学規程」による留学	「休学」による留学
種 類	(1)交換留学 (2)派遣留学 (3)一般留学 ①協定校・②提携校・③認定校 ※1	留学先の大学等は限定しません。
資 格	本学に1年以上在学し、留学する前年度までに30単位以上を修得した者 留学する前年度(応募時)に応募基準の語学力を取得する必要があります。	全学生(学則第34条の規定範囲内)に適用
手 続 き	(1)留学2ヵ月前までに書類を提出 「留学願」「留学計画書」「入学許可書」あるいは「受入許可書」「大学案内」等 (留学期間中に、許可された留学条件を変更する必要がある場合には、すみやかに教務課に連絡をとってください。) (2)帰国後1ヵ月以内に書類を提出 「帰国届」「学業成績証明書」「在学期間証明書」等	(1)留学1ヵ月前までに書類を提出 「休学願」 (2)帰国後、学期の始まる1ヵ月前までに書類を提出 「復学願」
期 間	原則として6ヵ月あるいは1年間 在学年数に算入する期間は1年間を限度とします。 <帰国後次年次へ進級※2>	6ヵ月から、延長も含め2年間許可されますが、その期間は進級止となります。 <帰国後も同年次>
継続履修	留学年度の前期に履修した授業科目を、留学期間(1年内)をはさみ、次年度後期に継続して履修することができます。 「継続履修願」(留学前に提出)	継続履修はできません。
単位認定	外国の大学等において修得した単位のうち、本学教授会が適当と認めたものは、60単位を超えない範囲で卒業に必要な単位として認めることができます。 「単位認定願」「履修した授業科目のシラバス」等	
留学中の本学への納入金	(1)授業料 交換留学 } 全額免除 派遣留学 } 一般留学 } (2)施設設備維持費 } 全額納入 (3)実験実習料 }	(1)在籍料 半期休学……………5万円 1年間休学……………10万円
本学奨学金	本学国際交流奨学金制度に応募ができます。	奨学金は受けられません。

・上記留学手続きは、教務課にて速やかに行ってください。

※1 <主な留学先> 詳細は本学国際交流・留学 Web サイトをご確認ください。

① 協定校

中国：中国人民大学、広東外語外貿大学

フランス：イナルコ(フランス国立東洋言語文化)大学

スイス：ジュネーブ大学

アメリカ合衆国：ペンシルベニア大学、ハワイ大学カピオラニ・コミュニティカレッジ

② 提携校

アメリカ合衆国：セントラルワシントン大学

イギリス：リーズ大学、オックスフォード・ブルックス大学、国際市民コレッジ(CfIC)

カナダ：ウィニペグ大学

③ 認定校

大学および大学付属の語学学校であることを基本的な要件とし、プログラム内容を

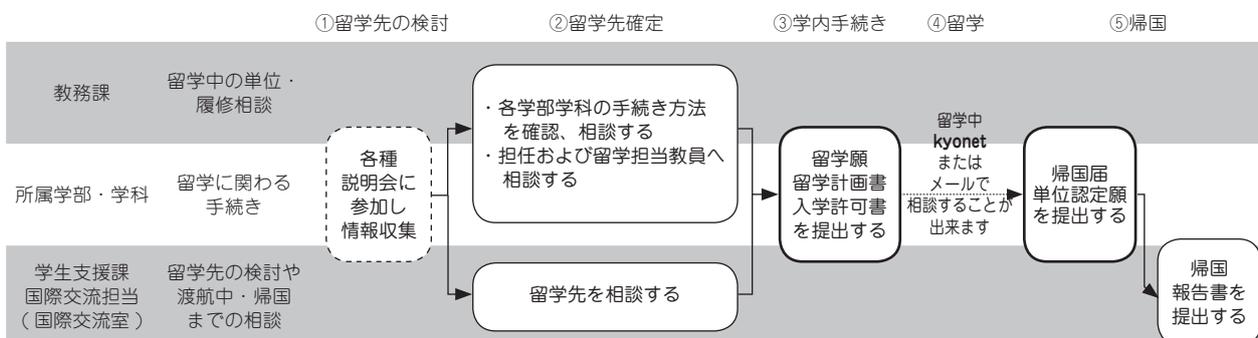
勘案して決定します。認定手続には時間がかかりますので、十分に注意してください。

※2 帰国後の年次・履修単位については、留学前に教務課によく相談して計画してください。

・詳細は学生支援課国際交流担当(国際交流室)までお問合せください。

(2) 留学の手続きの流れ

<留学～帰国までの手続きフロー>



(3) 海外研修

海外研修は、夏季及び春季休暇中に海外の協定校等で行われる予定の本学主催の短期集中プログラムです。

1. 目的 外国語の修得と異文化体験
2. 研修地

<p><夏季> アメリカ</p> <p>フランス</p> <p><春季> 中国</p> <p>ニュージーランド</p>	<p>ハワイ大学 カピオラニ・コミュニティカレッジ (ハワイ)</p> <p>アンジェ西部カトリック大学 (アンジェ)</p> <p>広東外語外貿大学 (広州)</p> <p>国立ワイカト大学 (ハミルトン)</p>
---	--
3. 研修期間

<p><夏季> 8月上旬から約3～4週間</p>	<p><春季> ニュージーランド</p> <p>中国</p>	<p>2月下旬～3月中旬</p> <p>3月上旬～3月中旬</p>
--------------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------
4. 研修内容 語学研修、アクティビティ
 宿泊先：学生寮またはホームステイ（研修先により異なります。詳細は学生支援課国際交流担当（国際交流室）までお問合せください。）
5. 単位認定 教養教育科目「自己開発」（2単位）が認定されます。但し単位認定には帰国後所定の申請が必要です。単位認定に関しては、単位認定の対象となる活動が終了してから、所定の時期に、「活動報告書」「単位認定願」等を教務課に提出してください。授業担当者及び全学共通教育委員会が内容を審査し、承認されれば単位認定されます。評価は「P」になります。詳細は、共立シラバスを参照してください。
 - ・スケジュールに耐えられる体力のない方、団体行動に適さないと大学が判断した場合は、研修開始直前あるいは開始後であっても参加をお断りすることがあります。
 - ・世界情勢その他の理由により研修を中止することもあります。また、上記2および3の内容を変更することがあります。
 - ・春季研修に参加した卒業期の学生については、単位は認定されません。

12. 全学共通副専攻制度

Major in Anything. Minor in Leadership.

(主専攻は様々な専門分野、副専攻はリーダーシップ)

所属する学部・科等の体系的にまとめられた教育課程に沿って学修する内容を主専攻と呼び、主専攻以外の分野の授業科目を体系的に学修する内容を副専攻と呼びます。教養教育について、以下に記した修了要件を満たすことで、副専攻（Leadership）の修得を証します。

(1) 全学共通副専攻制度の趣旨

本学の教養教育は、大学・短期大学ビジョン（KWU ビジョン）に掲げる「自律と努力」、「創造とキャリア」、「協働とリーダーシップ」を踏まえ、KWU ビジョンの基盤となる能力を養成することを目的に編成しています。科目区分は「自律と努力コア」、「創造とキャリアコア」、「協働とリーダーシップコア」に分かれています。その中で「協働とリーダーシップコア」は3つのコアの中での上位目標であるため、「自律と努力コア」、「創造とキャリアコア」、「協働とリーダーシップコア」の順序で履修年次にも配慮した体系的かつ階梯性のあるカリキュラムとなっています。

副専攻の名称は、上位目標となる「協働とリーダーシップコア」の目標が「他者と協働し、リーダーシップを発揮するための基礎的な能力を養う」としていることを踏まえ、「リーダーシップ」といたします。

(2) リーダーシップの意味

一般的に、リーダーシップというと「リーダーがグループをマネジメントする時に発揮するもの」と考えられ、この場合、命令の出し方と同義語となります。しかし、KWU ビジョンに掲げるリーダーシップは、リーダーというポジションではなく、メンバーであってもチームの成果を生み出すために、皆と目標を共有し、率先して動き、他者を巻き込み、助け合うことで、チームにポジティブな影響を与えていく力を発揮することと捉えております。詳細は、「協働とリーダーシップコア」の科目で学修します。

(3) 全学共通副専攻制度の修了要件

- ・「自律と努力コア」から「基礎ゼミナール」を含む2単位以上修得
- ・「創造とキャリアコア」から「英語 A」を含む8単位以上修得
- ・「協働とリーダーシップコア」から2単位以上修得

上記3点の条件を満たした上で、所属する学部・科等の教養教育の卒業要件を満たし、教養教育の人材養成目的を達成することを修了要件とします。なお、修了証明書の授与にあたっては、学生自身による「振り返り」を求め、これをもって授与とします。修了した学生は、「ディプロマ・サブリメント」*でその旨が証されます。

*「ディプロマ・サブリメント」とは、本学が授与する学位記の補足資料として、皆さんの学修成果や正課外活動を可視化する証明書です。

(4) 全学共通副専攻制度の履修から修了までの流れ

Step1	全学共通副専攻制度の修了要件を満たす。
Step2	「全学副専攻修了希望申請」を行う。
Step3	「振り返り」を行う。
Step4	「ディプロマ・サブリメント」により修了していることを確認する。

※「全学副専攻修了希望申請」「振り返り」「修了証明書の申請、発行、受領」についての詳細は、別途お知らせいたします。

13. 科目等履修

卒業したのち、在学中に履修できなかった科目を、科目等履修生として履修することができます。

- ・ 手続き場所：教務課
- ・ 出願期間：前期および後期授業開始前
- ・ 手続きに要する費用：科目等履修登録料＝16,000円 科目等履修料＝1単位につき12,000円
手続きを完了した者には、「科目等履修生証」を交付します。
- ・ 授業および試験に関しては正規の学生と同一の規程を適用します。
- ・ 科目によっては履修が認められないこともありますので、手続き時に確認してください。
- ・ 履修することができる授業科目の単位数は、30単位までです。
- ・ 履修した授業科目に出席し、試験（レポートを含む）を受けて合格した場合は、教授会の議を経て単位が与えられ、必要のある場合は単位取得証明書を発行します。
- ・ 短大在学中に学部で1・2年生に開講する科目を科目等履修生として受講し、単位を取得することもできます。詳細は教務課にお問合せください。

14. 編入学

短期大学等を卒業して4年制の大学に中途入学することを編入学といいます。

編入先の大学を卒業するには、卒業に必要な単位数から認定単位数（短大で修得した単位のうち編入学時に認められた単位数）を差し引いた残りの単位数を2年間（または3年間以上）で修得することになります。編入学はおよそ以下のように行なわれます。

共立女子大学へ編入学する場合

入試事務室が担当しています。学内の編入学制度には、「特別推薦編入学」と「一般編入学」があります。「試験要項」については、**kyonet**でご案内します。

1. 編入学することができる学部、学科、コース、専修

家政学部一被服学科 / 食物栄養学科（食物学専攻のみ） / 建築・デザイン学科

文芸学部一文芸学科（日本語・日本文学専修 / 英語・英語圏文学専修 / フランス語・フランス文学専修 / 劇芸術専修 / 美術史専修 / 文化専修 / 文芸メディア専修の各コース）

国際学部一国際学科

ビジネス学部一ビジネス学科

2. 募集人員、試験方法、認定単位数等の詳細は、「編入学試験要項」を参照してください。

ビジネス学部へ編入する場合は、2年次への編入となります。なお、事前に修得しておく授業科目がありますので、ご確認ください。

他大学へ編入学する場合

学生支援課が担当しています。推薦編入学受験可能な大学の試験情報については、希望者に**kyonet**でご案内します。推薦・一般とも入試時期は大学により異なります。

編入学に関する資料は、キャリア支援グループの資料室で閲覧することが可能です。6月と10月には「編入学ガイダンス」を実施し、基本的な情報収集から筆記対策まで詳しい説明があります。

15. 履修に関するQ & A

Q：卒業要件単位について説明してください。

A： 卒業するために必要な最低の修得単位数をいいます。決められた合計単位数を修得するだけでなく、授業科目区分ごとに定められた必要単位を修得しなければなりません。
所属学科の卒業要件「卒業に必要な最低単位数」を参照してください。

Q：選択必修について説明してください。

A： 必ず履修し、単位を修得しなければならない必修科目に対し、指定された複数の科目から決められた単位数を修得する科目をいいます。
卒業に必要な単位以上に修得した分は選択科目単位としてカウントされます。

Q：履修登録科目を変更したいのですが。

A： 原則として、一度登録した科目を変更することはできません。履修登録は十分確かめたうえで手続きをしてください。

Q：2年次で1年次に設置されている科目を履修することができますか？

A： 自分の年次より高年次に設置されている科目を履修することはできません。一方、低年次に設置されている科目は履修することができますが、できるだけ設置されている年次で単位を修得するよう心がけてください。

Q：不合格になった科目を再度登録することはできますか？

A： 不合格になった科目（評価：D、X）は、翌年度以降に登録することができます。また、不合格になった科目が前期科目の場合は、指定期間内に、同年度の後期に追加して登録することもできます。ただし、合格した科目を再度登録することはできません。

Q：授業を欠席しなければならなくなった場合、どうすればいいでしょうか？

A： 本学では、授業欠席に対する特別な扱いはありませんが、やむを得ない理由で欠席しなければならないことが事前に分かっている場合は、授業担当者に連絡してください。また、病気等で急に欠席してしまった場合は、次の授業の際に授業担当者に申し出てください。
1週間以上続けて欠席する場合は、「欠席届」を出してください。期末試験の受験資格に抵触することもありますので、やむを得ない理由以外の欠席はしないよう注意してください。

Q：病気や、やむを得ない理由で試験に欠席するときはどうすればいいでしょうか？

A： かならず**試験開始前に教務課**に連絡をし、指示を受けてください。連絡先は学生手帳、**kyonet**でお知らせしています。

Q：教養教育科目を要件単位以上履修した場合はどうなりますか？

A： 余裕があれば履修するのはかまいませんが、卒業要件になるのは各学科のカリキュラム表に記載してある単位までです。

Q：他学科・他コース科目は制限単位以上履修することはできますか？

A： 他学科・他コースの科目のみならず、共立女子大学と共立女子短期大学の単位互換制度、千代田区キャンパスコンソにおける単位互換制度に該当する科目について、生活科学科では12単位まで、文科では8単位（英語コースは6単位）まで、専門教育科目の選択科目として卒業要件に含めることができます。それ以上は、卒業要件には入りませんが、履修することができます。

Q：KWU 高大連携プログラムとは何ですか？

A： 本学への進学を検討している併設校の高校生が、入学前に本学の授業を受講できるプログラムのことです。

Ⅲ 諸規程等

1. 共立女子短期大学学則

第1章 総 則

第1条 本短期大学は、学生の主体的な学びを育み、専門の学芸を教授し、職業または实际生活に必要な能力と幅広く深い教養および総合的な判断力を培うとともに、誠実で豊かな人間性を涵養し、社会に広く貢献する自立した女性を育成することを目的とする。

2 前項の規定に基づき、本短期大学の各科等の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、第3条に定める。

第1条の2 本短期大学は、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行ない、その結果を公表する。

2 前項に関する規定は別に定める。

3 本短期大学は、第1項の措置に加え、本短期大学の教育研究等の総合的な状況について、一定の期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた機関による評価を受ける。

第1条の3 本短期大学は、教育研究活動の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供する。

第2章 学科の組織および修業年限

第2条 第1条の目的を達成するため、本短期大学に生活科学科および文科をおく。

第3条 第1条第2項の規定に基づき、本学の各科等の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的について、以下のとおり定める。

(1) 生活科学科

生活科学科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「学生自身の積極的な学習意欲を引き出し、社会において自立した人間として活躍するために、生活に関する実践的な知識・技能を身につけ、家庭および社会において、生活者としてそれらを活用する能力を養い、豊かな教養に基づき、思いやりのある誠実で協調性に富んだ女性を育成する」ことである。

(2) 文科

文科の人材養成目的は、本学の建学の精神および共立女子短期大学の人材養成目的に基づき、「学生自身が自らの将来を切り開いていくために自ら積極的に学ぼうとする意欲を引き出し、ひとりの自立した人間として成長していくための、表現する能力、コミュニケーションの能力、理解する力、豊かな文化的教養、社会に出て役立つ実践的な知識等を涵養し、そして、他者を思いやり人のために尽くす生き方ができるような誠実で友愛に溢れた人間性を持つ女性を育成する」ことである。

第4条 生活科学科および文科の修業年限は2年とする。ただし、在学年数は各修業年限の2倍を限度とする。

第3章 学年、学期および休業日

第5条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月20日まで

後期 9月21日から翌年3月31日まで

第7条 休業日は次の通りとする。

- ① 日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日
- ② 本学創立記念日（10月18日）
- ③ 夏季休業日（7月28日から9月20日まで）
- ④ 冬季休業日（12月21日から翌年1月7日まで）
- ⑤ 春季休業日（3月20日から4月7日まで）

ただし、休業日においても必要ある場合は授業を行なうことがある。

2 必要がある場合は、学長は前項の休業日を臨時に変更し、または臨時の休業日を定めることができる。

第4章 教職員組織

第8条 本短期大学に学長、科長および主任をおく。

2 本短期大学に副学長をおくことができる。

3 学長、副学長、科長および主任の職務は次の各号の通りとする。

- ① 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。
- ② 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。
- ③ 科長は、学科に関する校務をつかさどる。
- ④ 主任は、科長を助け、命を受けて学科に関する校務をつかさどる。

第9条 本短期大学に教授、准教授、講師、助教および助手をおく。

第10条 本短期大学に事務職員をおく。

第11条 本短期大学に教授会をおく。教授会は学長および教授をもって構成する。ただし、必要ある場合は准教授、講師および助教を加えることができる。

2 本短期大学に全学共通教育委員会をおく。全学共通教育委員会については、別に定める。

第12条 教授会は短期大学に関する次の事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- ① 学生の入学、卒業および課程の修了
- ② 学位の授与
- ③ 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、短期大学の教育研究に関する事項について審議し、および学長、科長の求めに応じ、意見を述べることができる。

第5章 授業科目および単位数

第13条 生活科学科および文科の授業科目は教養教育科目および専門教育科目に分ける。

第14条 生活科学科の授業科目および単位数は別表第1の通りとする。

第15条 文科の授業科目および単位数は別表第2の通りとする。

第15条の2 削除

第16条 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

- ① 講義および演習については、15時間から30時間までの範囲で本短期大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ② 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で本短期大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本短期大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ④ 前3号の規定にかかわらず、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第16条の2 1年間の授業を行なう期間は試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第16条の3 本短期大学は、学生に対して、授業の方法および内容ならびに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

2 本短期大学は、学修の成果に係る評価および卒業の認定に当たっては、客観性および厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。

第16条の4 本短期大学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究を実施する。

第16条の5 本短期大学は、第16条に規定する講義、演習、実験、実習および実技による授業科目について、教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

2 前項の授業の方法により修得する単位数は、卒業要件として修得すべき単位数のうち、30単位を超えないものとする。

第6章 履修方法

第17条 各学科の授業科目は教授会の定める教育課程に従い、各年次に配当する。学生は原則として、各年次に配当された授業科目を履修するものとする。

第18条 学生は履修しようとする授業科目を毎学年始め所定の期日までに届け出なければならない。

第19条 学生は所属の学科によって、それぞれ次の単位を含めて62単位以上修得しなければならない。

- ① 教養教育科目
 - (生活科学科) 14 単位
 - (文科) 16 単位
- ② 専門教育科目
 - 生活科学科 48 単位
 - 文科 46 単位

2 削除

3 第 1 項に定める単位数のうち、生活科学科および文科においては、他学科の別に定める授業科目および他短期大学との間で協定を結んだ単位互換科目について修得した単位を、6 単位を限度として教養教育科目として認めることができる。

第 19 条の 2 教育上有益と認めるときは、他の短期大学または大学との協議により、学生が当該他の短期大学等において履修した授業科目について、30 単位を超えない範囲で本短期大学において修得したものとみなすことがある。

2 前項の規定は、学生が、外国の短期大学または大学に留学する場合および外国の短期大学または大学が行なう通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

3 前 2 項の規定については別に定める。

第 19 条の 3 教育上有益と認めるときは、学生が行なう短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本短期大学における授業科目の履修とみなし、必要な単位を与えることがある。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第 1 項および第 2 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 30 単位を超えないものとする。

3 前 2 項の規定については別に定める。

第 19 条の 4 教育上有益と認めるときは、学生が本短期大学に入学する以前に短期大学または大学において修得した単位（第 40 条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学において修得したものとみなすことがある。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する以前に行なった前条第 1 項に規定する学修を、本学における履修とみなし必要な単位を与えることがある。

3 前 2 項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 19 条の 2 第 1 項および前条第 1 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 30 単位を超えないものとする。この場合において第 19 条の 2 第 2 項により、本学において修得したものとみなす単位数と合わせるときは、45 単位を超えないものとする。

4 前 3 項の規定については別に定める。

第 20 条 削 除

第 7 章 別 科（生活科学専修）

第 21 条 削 除

- 第22条 削除
- 第23条 削除
- 第24条 削除
- 第25条 削除
- 第26条 削除
- 第27条 削除

第8章 学生定員

第28条 各学科の学生定員は次の通りとする。

	入学定員	収容定員
生活科学科	100名	200名
文 科	100名	200名

第9章 入学、休学、復学、退学、転学、編入学、転科、留学、再入学および除籍

第29条 入学の時期は学年の始めとする。

第30条 本短期大学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- ① 高等学校または中等教育学校の後期課程を卒業した者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）
- ③ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- ⑤ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑥ 学校教育法施行規則第150条4号において文部科学大臣の指定した者
- ⑦ 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- ⑧ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

第31条 入学志願者に対しては選抜試験を行なう。

第32条 入学志願者は、入学志願書および出身学校長から提出する調査書を所定の期日までに提出し、本学則第52条に規定する入学検定料を納入しなければならない。

第33条 選抜試験に合格し、所定の期日までに本学則第52条に規定する納入金を納め、保証人連署の誓約書を提出した者に対して入学を許可する。

- 2 保証人は父または母とし、父母のない場合はこれに代わるべき者で、独立の生計を営み、保証人としての責務を確実に果たし得る者でなければならない。
- 3 本短期大学は保証人として不適当と認めるときは、その変更を命ずることがある。
- 4 学生が保証人を変更するときは、新旧保証人連署してただちに届け出なければならない。また、保証人が住所、氏名を変更したときは、ただちに届け出なければならない。

第34条 病気その他止むを得ない理由によって1学期以上就学できない者は、保証人連署のうえ願い出て、教授会の議を経て休学の許可を得なければならない。ただし、休学の期間はその学年度内とし、願い出によって、引き続き1年以内休学することができる。

- 2 休学の期間は通算して2年を超えることはできない。
- 3 休学の期間は本学則第4条に規定する修業年限および在学年数に算入しない。

第35条 休学者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ願い出て、教授会の議を経て許可を得なければならない。

- 2 復学の時期は学期の始めとする。

第36条 病気その他止むを得ない理由によって退学しようとする者は、保証人連署のうえ願い出て、教授会の議を経て許可を得なければならない。ただし、願い出た期日を含む学期の授業料その他の学費を納入していなければならない。

第37条 他の短期大学から本短期大学に転学を志願する者があるときは、本短期大学に欠員がある場合に限り、選考のうえ、教授会の議を経てこれを許可することができる。

- 2 本短期大学から他の短期大学に転学を志願する者があるときは、願い出の理由によって教授会の議を経てこれを許可することができる。

第37条の2 本短期大学に編入学を志願する者（学校教育法の規定により、大学への編入学が認められた専修学校専門課程を修了した者。）があるときは、本短期大学に欠員がある場合に限り、選考のうえ、教授会の議を経てこれを許可することができる。

第37条の3 削除

第37条の4 本短期大学の学生で他の学科へ転科を願い出る者があるときは、選考のうえ、教授会の議を経てこれを許可することができる。

- 2 転科に関する必要事項は、別に定める。

第37条の5 外国の短期大学あるいはこれに相当する高等教育機関に留学を希望する者は、教授会の議を経て留学することができる。

- 2 前項の留学期間は、1年を限度として在学年数に算入することができる。
- 3 留学に関する必要事項は、別に定める。

第38条 本学則第36条によって退学した者または第38条の2第1号、第3号から第5号の規定により除籍された者が、2年以内に再入学を願い出るときは、選考のうえ、教授会の議を経てこれを許可することができる。ただし、入学の時期は本学則第29条によるものとする。

- 2 再入学に関する規程は別に定める。

第38条の2 次の各号の一に該当する者は教授会の議を経て除籍する。

- ① 本学則に定める期限までに授業料等の学費を納入していない者
- ② 本学則に定める在学年限を超えた者
- ③ 本学則に定める休学期間を超えた者

- ④ 長期間にわたり行方不明の者
- ⑤ 本学所定の期日までに履修しようとする授業科目の届け出がない者

2 前項各号の取扱いについては別に規程を定める。

第 39 条 学生が住所、氏名および本籍地を変更したときは、ただちに届け出なければならない。

第 10 章 科目等履修生、単位互換履修生、外国人学生および委託生

第 40 条 次の各号に該当する者が、本短期大学の授業科目中その一部について履修を願い出るときは、学生の学修に支障のない場合に限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可することがある。

- ① 本学則第 30 条の各号の一に該当する者
 - ② 学長が当該授業科目を履修することのできる十分な学力を有すると認める、学校教育法第一条に定める高等学校に在学する者
- 2 他の大学又は短期大学の学生で、大学間もしくは複数の大学との間の協定に基づき、特定の授業科目を定め履修を希望するものがあるときは、本学の教育に支障のない限り、選考の上、単位互換履修生として許可することがある。
- 3 科目等履修生、単位互換履修生として履修し、試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与えることができる。
- 4 科目等履修生、単位互換履修生に関して必要な事項は別に定める。

第 41 条 科目等履修生として履修を許可された者は、本学則第 52 条に規定する科目等履修登録料および科目等履修料を所定の期日までに納入しなければならない。ただし、第 40 条第 1 項第 2 号に規定する者で、科目等履修生として履修を許可された者は、科目等履修登録料および科目等履修料を徴収しない。

第 42 条 削 除

第 43 条 削 除

第 44 条 外国公館の証明のある外国人で、入学を志願する者があるときは、特別の選考のうえ、外国人学生として入学を許可することがある。

第 45 条 他の大学、短期大学または公共機関から委託生として推薦された者が、学修を願い出るときは、学生の学修に支障のない場合に限り、これを許可することがある。

第 46 条 外国人学生および委託生の授業料その他の納入金については、科目等履修生に準ずる。

第 47 条 科目等履修生、外国人学生および委託生については、本章の規定のほか正規の学生に関する規定を準用する。

第 11 章 課程修了の認定

第 48 条 授業科目修了の認定は試験による。

第 49 条 試験の方法は、筆記試験のほか、口述試験、レポート、論文および実技等による。

- 2 試験の成績は、S、A、B、C、Dをもって表わし、S、A、B、Cを合格とする。

3 試験に合格した学生には、その授業科目所定の単位を与える。

4 試験に不合格となった授業科目については、再履修しなければ試験を受けることができない。

第50条 病気その他止むを得ない理由によって試験に欠席した者は、所定の期日までに願い出て許可を得た場合に限り、追試験を受けることができる。

第12章 卒業および学位の授与

第51条 本短期大学を卒業するためには、学生は2年以上在学し、本学則第19条に規定する単位数を別表第1および第2の中から修得しなければならない。

第51条の2 本短期大学に2年以上在学し、本学則に規定する授業科目および単位数を修得した学生については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 削除

第51条の3 前条の規定により卒業した者には、本学学位規程の定めるところにより短期大学士の学位を授与する。

第13章 学費その他

第52条 入学金、授業料、施設設備維持費、実験実習料、科目等履修登録料および科目等履修料の納入額および納入方法は別表納入額第1の1の通りとする。

2 入学検定料は別表納入額第1の2の通りとする。

第53条 本人および保証人の連署で所定の期間内に入学辞退の申し出のあった者に限り入学金以外の納入金を返還する。

第53条の2 経済的理由によって授業料等学費の納入が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者またはその他止むを得ない事情があると認められる者で、当該学科を経て願い出たときは、授業料等学費の徴収を猶予することができる。

2 授業料等学費の徴収の猶予に関する規程は別に定める。

第53条の3 休学の場合は在籍料として半期休学の場合は5万円を、1年間休学の場合は10万円を納めなければならない。

2 申し出の時期については別に定める。

第53条の4 学期の途中で退学を願った場合、納入済みの授業料、施設設備費、実験実習料は返還しない。未納の場合は納入しなければならない。

2 申し出の時期については別に定める。

第54条 本学則において特段の定めがある場合を除き、授業料等の学費を納入していない者は試験を受けることができない。

第55条 削除

第56条 削除

第57条 削除

第58条 削除

第14章 賞 罰

第59条 学業が特に優秀な者または学生の模範となる行為をした者は、教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。

第60条 本短期大学教育の趣旨に背き、または学生の本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て学長がこれを懲戒する。

- 2 懲戒は訓告、停学および退学とする。
- 3 退学は次の各号の一に該当する者に対して行なう。
 - ① 性行不良で改善の見込がないと認められる者
 - ② 学力劣等で成業の見込がないと認められる者
 - ③ 正当の理由がなくて出席常でない者
 - ④ 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第15章 附属施設、研究所およびセンター

第61条 本短期大学に図書館、総合文化研究所、全学教育推進センターその他教育研究上必要な附属施設およびセンターをおく。

- 2 各附属施設、研究所およびセンターに関する規程は別に定める。

第16章 公開講座

第62条 公開講座は教授会の議を経て随時開設する。

第17章 学生寮

第63条 本短期大学に学生寮を付設する。

- 2 学生寮に関する規程は別に定める。

附 則

本学則は昭和25年4月1日からこれを施行する。

〈省略〉

附 則

1. この改正学則は平成31年4月1日から施行する。
2. 平成30年度以前に入学した者については、従前の例による。

附 則

1. この改正学則は令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
2. 平成 31 年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第 53 条の 3 はその限りではない。

附 則

1. この改正学則は令和 3 年 4 月 1 日から施行する。
2. 令和 2 年度以前に入学した者については、従前の例による。ただし、第 16 条の 5 についてはその限りではない。

附 則

1. この改正学則は令和 4 年 4 月 1 日から施行する。
2. 令和 3 年度以前に入学した者については、従前の例による。

別表

別表 納入額

別表納入額第1の1

納入額

	生活科学科	文科
入 学 金	150,000 円	150,000 円
授 業 料 (年額)	750,000 円	750,000 円
施 設 設 備 維 持 費 (年額)	390,000 円	360,000 円
実 験 実 習 料 (年額)	50,000 円	—
科 目 等 履 修 登 録 料	16,000 円	16,000 円
科 目 等 履 修 料 (1 単 位 に つ き)	12,000 円	12,000 円

納入方法

1. 授業料および施設設備維持費、実験実習料は半額ずつ前期分は4月30日まで、後期分は10月20日までに納入するものとする。
2. 2年次以降の納入金は、新入学者の納入金（入学金を除く。）と同額とする。
3. 最低在学年限を超過した学生の納入金は、当該学生の前年度納入金と同額とする。
4. 休学期間中は在籍料として半期休学の場合は5万円を、1年間休学の場合は10万円を納めなければならない。
5. 留年者の学費納入取り扱い基準
 - 卒業要件不足単位数が10単位以内は納入金の年額の4分の1とする。
 - 卒業要件不足単位数が11単位から25単位は納入金の年額の2分の1とする。
 - 卒業要件不足単位数が26単位以上は納入金の年額とする。
6. 再入学者の入学金は徴収しない。

別表納入額第1の2

	生活科学科	文科
入 学 検 定 料	35,000 円	35,000 円

- * 大学入学共通テスト利用選抜の検定料は15,000円とする。
- * 併設校大学入学共通テスト特別入試の検定料は15,000円とする。
- * 「一般選抜全学統一方式」特別割引について以下の通りとする。
 - ・ 複数出願する大学学部の検定料は一学部につき10,000円とする。
 - ・ 複数出願する短期大学の検定料は一学科につき5,000円とする。
- * 短期大学で複数出願する場合の検定料は、40,000円とする。
- * 一般選抜（2月日程、3月日程）において、同一試験日、同一科目及び同一問題で複数出願する場合は統一入試特別割引に準ずる。
- * 併設高校出身者（既卒者を含む）が共立女子大学・短期大学を受験するにあたって、2つ以上の入学試験もしくは2学部・科以上を受験する場合、検定料として35,000円を超えた検定料は徴収しないこととする。
- * 一旦納入された入学検定料は返金しない。ただし、下記の事由に該当する場合は申請により返還することがある。
 - ・ 入学検定料を納入したが、出願しなかった場合
 - ・ 出願が受理されなかった場合
 - ・ 入学検定料を誤って二重もしくは過剰に納入した場合

3. 共立女子大学・共立女子短期大学学生懲戒規程

(目的)

第1条 共立女子大学学則第54条、共立女子大学大学院学則第71条および共立女子短期大学学則第60条にもとづき、学生の懲戒に関して必要な事項を定める。

(懲戒の対象となる者)

第2条 この規程において懲戒の対象となる者は、学部、大学院、短期大学各科に所属する学生のことをいう。

2 研究生、科目等履修生、特別聴講学生、外国人学生および委託生の取扱いは、この規程の定めるところによる。

(懲戒の対象となる行為)

第3条 この規程において懲戒の対象となる行為は、次の行為をいう。

- (1) 刑事法上、処罰の対象となる行為
- (2) (1)の対象とはならないが他者に心身の苦痛または財産上の損失を与える行為
- (3) 本学の教育・研究活動、他の学生の学習を妨害する行為
- (4) 論文執筆等における学問的倫理に反する行為
- (5) 試験における不正行為
- (6) 本学の学則および規程に違反する行為
- (7) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反する行為

2 前項各号について、別に規程が定められている場合は、その規程にしたがう。

(懲戒の種類)

第4条 懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とし、それぞれの懲戒について以下の通りとする。

- (1) 訓告 学生の行った行為について反省を求め、口頭または書面をもって戒めることをいう。
- (2) 停学 一定期間、通学停止を命じ、自宅で謹慎させることをいう。
- (3) 退学 学生の身分をはく奪することをいう。

(調査委員会の設置および構成員)

第5条 第3条に定める懲戒の対象となる行為またはその疑いとなる行為が発生したときは、学生が所属する学部等の長は、学長にその旨を速やかに報告する。

2 学長は、前項の報告を受けて、調査委員会を設置する。

3 調査委員会の構成員は、以下の通りとする。

- (1) 当該学生が所属する学部長・研究科長・科長
- (2) 当該学生が所属する学科・専攻・コースの主任
- (3) 学生支援課長
- (4) 教務課長
- (5) その他、学長が必要と認める若干名

4 調査委員会の委員長は、前項第1号の委員がこれにあたる。

(懲戒処分の決定)

第6条 調査委員会は、当該学生および関係者から事情聴取等の調査を行い、事実関係を確認する。

2 調査委員会は、原則として当該学生に弁明の機会を与えなければならない。

3 調査委員会は、調査の終了後、調査内容および懲戒処分案を明記した報告書を作成し、学長に提出する。

4 学長は、報告書を受理したときは、教授会または研究科委員会の議を経て、懲戒処分の内容を決定する。

(懲戒処分・通知)

第7条 懲戒は、学長が行う。

2 学長は、学生および保証人に対し懲戒の種類・内容およびその理由を文書により通知する。

(再調査の請求)

第8条 懲戒を受けた学生は、正当な理由があるときは、通知を受けた日から1週間以内に再調査を請求することができる。

2 再調査を請求しようとする学生は、再調査請求書を学長に提出しなければならない。

(再調査の実施)

第9条 学長は、再調査の必要があると認めたときは、調査委員会に対して再調査を指示する。

2 学長は、再調査の必要がないと認めたときは、速やかにその旨を文書により当該学生に通知する。

3 学長は、再調査に必要と認める者を調査委員会に加えることができる。

4 再調査の処理については、第6条および第7条の規定に準ずる。

5 再調査の結果により懲戒処分の内容を変更したときは、学長は既に行った懲戒処分を取り消す等必要な措置を講じなければならない。

(事務の所管)

第10条 この規程に関する事務は、学生支援課が行う。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、学長の承認を得るものとする。

附 則 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、2020(令和2)年9月1日から施行する。

IV 伝達 他

学外からの学生の住所・電話番号等に関する問い合わせには一切応じていません。大学からと偽って自宅や留守宅に住所・電話番号を問い合わせたり、学外に呼び出したりするケースもありますが、本学では、学生を学外に呼び出したり、プライバシーに関する内容を電話で連絡することは行なっていません。不審な電話には、決して応じないよう注意して下さい。

Web ページアドレス

ページ名称	URL
共立女子学園	https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/

個人情報の取り扱いについて

学校法人共立女子学園（以下「本学園」と言います。）では「個人情報保護方針」を制定し、本学園ホームページで公開するとともに、学園全体で個人情報保護に取り組んでいます。共立女子大学および共立女子短期大学（以下「本学」と言います。）は、個人情報保護に関する法令ならびに「共立女子学園個人情報保護規程」を遵守し、本学が入学予定者、学生から取得する個人情報を以下の通りに取り扱います。

■ 個人情報の利用目的

取得した個人情報は、下記の目的のために適正に利用いたします。

- ・ 学籍管理、履修管理、成績管理、学費情報管理、国内外研修および留学等、学生の学修支援を行うため（成績、出席状況についての保証人への情報開示と保証人との連絡、履修・成績・進路相談を含む）
- ・ 他校との単位互換協定に基づく学生の相互派遣に関する業務のため
- ・ 学外実習（教育実習、介護等体験、臨地実習等）に関する業務のため
- ・ 学生生活相談、課外活動支援、奨学金管理、保健衛生管理等、学生生活支援を行うため
- ・ 進路指導、就職活動支援、進路就職情報管理等、進路就職支援を行うため
- ・ 学生への通知・連絡（掲示を含む。）のため
- ・ 学内施設・設備の利用管理、保安管理のため
- ・ 各種証明書および学生証・学位記発行のため
- ・ 奨学事業を行う団体、卒業生等で組織する団体、学生等の父母で組織する団体等、に必要情報を提供するため
- ・ 出身高等学校への学修状況、学生生活状況等の情報提供を行うため
- ・ 教育内容の広報または PR のため
- ・ 大学評価（自己点検評価・第三者評価・認証評価等）、各種統計調査のため
- ・ 教育、研究、FD 活動のため
- ・ その他、本学の管理・運営に関する業務に必要な事項を処理するため

上記に加え、本学卒業後、本学園からの情報提供、各種依頼のために利用いたします。

■ 個人情報の管理

個人情報は、法令および共立女子学園個人情報保護規程に則り、漏洩・滅失・毀損等がないよう安全に管理します。

■ 同窓会（一般社団法人共立女子学園櫻友会）への提供

機関誌の発送、櫻友会主催の事業（行事・講習・催し物）に関する連絡、支部との連絡に利用します。

■ 本学園関連会社（株式会社ウイズ・ケイ）への提供

学園に関わる各種業務のために利用します。

■ 個人情報の提供を伴う業務委託

本学は、個人情報の取扱を含む業務の一部を個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、外部の事業者
に委託することがあります。

■ 個人情報の第三者提供

取得した個人情報は、上記以外には、原則として事前に本人の同意を得ることなく第三者に提供いたしません。

なお、個人情報保護に関する法律第23条2項にもとづき、利用目的の達成に必要な範囲で本法人が承認し、かつ本学ホームページ等を通じてその内容を公開した場合、個人情報を第三者に提供することがあります。ただし、同ホームページ上に掲載している第三者提供の停止手続をとった場合は提供しません。

その他諸規程について

本学ホームページ <https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/culture/curriculum/regulations/> に掲載
していますのでご覧ください。

2022 履修ガイド
共立女子短期大学
(生活科学科・文科)

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1

URL <https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>

学籍番号

氏名

kyoritsu